

博士論文

近代韓国文学における
都市と建築の表現と意味性に関する研究

－植民地期末と朝鮮戦争後のソウルを中心として－

2009 年

裴 竣 皓

名古屋工業大学博士論文
甲第701号(課程修了による)
平成21年3月23日授与

近代韓国文学における都市と建築の表現と意味性に関する研究

－植民地期末と朝鮮戦争後のソウルを中心として－

【背景】1876年開港以来、韓国は封建制社会から近代社会にその姿を変えながら現代の形を作ってきた。しかし、第2次世界大戦から朝鮮戦争まで政治の断絶があり、韓国の近代化は日本植民地時代と朝鮮戦争後に分けられる。韓国史の中でも一つの特異点をなしている当時の近代性の概念を問い直すことは、現代の韓国における都市と建築を理解する上でも重要な意味があると考ええる。

【目的・対象】本研究では、文学の中にあらわれるソウルという都市や建築と、それに伴う空間の意味性を探ることで、韓国における近代社会の特徴その空間構造の変遷を明らかにすることを目的とする。分析対象は、韓国の首都であり近代化の影響をもっとも強く受けていたと考えられるソウルを舞台として描いた、朴泰遠、李箱、黄順元、崔仁勲、金承鉦の作品とする。

【研究の構成】本研究は「韓国文学にみる近代都市と建築空間の表現と意味性に対する研究」と題し、以下の6章により構成される。研究の背景と目的（1章）、分析対象と方法（2章）、植民地期末における都市と建築（3章）、朝鮮戦争後における都市と建築（4章）、3章と4章を比較分析した、植民地期末と朝鮮戦争後における都市と建築の変遷（5章）、まとめ（6章）。

【概要】以下に各章の概要を示す。

第1章では、本研究を行う背景と目的および意義を示した。また、関連する既往研究を整理した。

第2章では、分析対象作品の選定理由と韓国のソウルに対する概括的な説明を述べた。そして、分析方法に関する設定と研究の構成を示した。

第3章では、朴泰遠と李箱の作品を対象として、植民地期末における都市と建築の表現と意味性を分析した。その結果、建築用語の頻度から、作品における重要な空間や概括的な全体の空間構造を量的数値から推察することができた。舞台記述度による空間の位相関係から、作品における全体の舞台構造を把握することができた。特に、李箱の作品では主人公の部屋または家の記述度が他の舞台より高いほど、外部空間もしくは社会に対して主人公の意識が内向きであることが分かる。出現位置と空間構成か

ら、都市を表象する領域範囲と、伝統家屋の近代化を明らかにした。空間の表現要素から舞台の空間性を明らかにし、舞台同士の関係を示すことができた。

第4章では、黄順元と崔仁勲と金承鉦の作品を対象として、朝鮮戦争後における都市と建築の表現と意味性を分析した。その結果、建築用語の集計と舞台の記述度より、作品の舞台構造が把握できた。出現位置と空間構成から、ソウルの都心部として認識する領域と、中央劇場が社会のパラダイムの変化を象徴していることを明らかにした。住居空間では韓国式と外国式、現代式という類型を見出し、その形態的特徴を示すことができた。空間表現から、経済優先による都市と建築の形態に対する批判性が読み取れた。舞台の空間属性と舞台構造図から、1960年代の韓国人はさらに高度化する都市の中で、人情・感情を現す人間性より、物質性が強調される近代性や近代都市に不安感を持っていたことが指摘できた。

第5章では、時代による近代社会の変化に着目して、韓国の近代化とその社会にあらわれる空間像を考察した結果、作家別建築用語の構成比から、近代の経済性に反する客間（サランパン）の衰退と、それに伴って奥の間（アンパン）の頻度が増加する、住居平面における空間像の変化が読み取れた。また、城郭の通行門の出現頻度から、ソウルの周辺部の中で東の方が庶民地域として発達していたことを明らかにした。また、外来様式の定着、資本主義と近代建築の深化と、それに伴って都市が益々物質性を強調していく傾向がみられたことが指摘できた。また、伝統住居における近代化の様相と、それが近代にそぐわないものとして認識されていることが見られた。

第6章では、第3章から第5章まで得られた結果を整理し、まとめを述べた。特に、本研究の総括として、作品ひいては時代を象徴する舞台として描かれた文学の中の都市・建築空間には、当時の社会に対する人々の心象が「文明・変化・個人性・世俗」の近代性と「伝統・永久・共同性・超俗」の反動性が対比的構図で現れていることが指摘できた。この相違性は現代に近づくほど、より強固に具体化する傾向が見られた。最後に、今後の課題と展望を述べた。

目次

第1章 序論

1-1 研究の背景	2
1-2 研究の目的	4
1-2-1 研究テーマの設定	4
1-2-2 研究の意義	5
1-3 関連研究	6

第2章 研究の進め方

2-1 分析対象の紹介	15
2-1-1 ソウルの拡張	15
2-1-2 作家別履歴と対象作品	17
2-2 分析方法	19
2-2-1 分析方法の設定	19
2-2-2 分析の流れ	25
2-3 研究の構成	26

第3章 植民地期末における都市と建築

3-1 分析の目的と対象	30
3-1-1 分析の目的	30
3-1-2 分析の対象と手順	31
3-2 朴泰遠と李箱の作品にみる都市と建築	33
3-2-1 建築用語と舞台の出現傾向	33
3-2-2 用途別空間における構成キーワード	47
3-2-3 空間の属性と意味	58
3-3 小結	70

第4章 朝鮮戦争後における都市と建築

4-1 分析の目的と対象	73
4-1-1 分析の目的	73
4-1-2 分析の対象と手順	74
4-2 黄順元と崔仁勲と金承鉦の作品にみる都市と建築	76

4-2-1 建築用語と舞台の出現傾向	76
4-2-2 用途別空間における構成キーワード	103
4-2-3 空間の属性と意味	114
4-3 小結	135
第5章 植民地期末と挑戦戦争後における都市と建築の変遷	
5-1 分析の目的と方法	137
5-2 1930年代の「京城」と1960年代の「ソウル」の比較分析	138
5-2-1 作家別建築用語の構成比	138
5-2-2 近代社会の特徴とその空間構造の変遷	142
5-3 小結	144
第6章 結論	
6-1 まとめ	146
6-2 今後の課題と展望	149
謝辞	150
発表論文一覧	151

表目次

表 2-1	分析対象の作品	18
表 2-2	空間表現と物語特徴による舞台の属性	23
表 2-3	〔分析例〕空間表現と物語特徴による舞台の属性	24
表 3-1	研究対象作品	31
表 3-2	「朴泰遠」の作品における高頻度の建築用語（上位 10 位）	33
表 3-3	『川辺風景』における高頻度の住居用語	33
表 3-4	「李箱」の作品における高頻度の建築用語（上位 5 位）	35
表 3-5	『川辺の風景』における建築用語と出現頻度	37
表 3-6	『小説家仇甫氏の日』における建築用語と出現頻度	38
表 3-7	「李箱」の作品における建築用語と出現頻度	39
表 3-8	『川辺の風景』における出現舞台と記述度	41
表 3-9	『小説家仇甫氏の日』における出現舞台と記述度	41
表 3-10	「李箱」の作品における出現舞台と記述度	42
表 3-11	『川辺の風景』における主な舞台と出現位置	45
表 3-12	『小説家仇甫氏の日』における主な舞台と出現位置	45
表 3-13	「李箱」の作品における主な舞台と出現位置	46
表 3-14	全作品に登場する住居空間の類型	47
表 3-15	『川辺の風景』における用途別空間の構成キーワード	53
表 3-16	『小説家仇甫氏の日』における用途別空間の構成キーワード	54
表 3-17	「李箱」の作品における用途別空間の構成キーワード	54
表 3-18	『川辺の風景』における空間表現と舞台の属性	62
表 3-19	『小説家仇甫氏の日』における空間表現と舞台の属性	65
表 3-20	『翼』における空間表現と舞台の属性	67
表 3-21	『蜘蛛會家』における空間表現と舞台の属性	68
表 3-22	『失花』における空間表現と舞台の属性	68
表 3-23	『童骸』における空間表現と舞台の属性	69
表 3-24	『逢別記』における空間表現と舞台の属性	69
表 4-1	研究対象作品	75
表 4-2	「黄順元」の作品における高頻度の建築用語（上位 10 位）	76

表 4-3	「崔仁勲」の作品における高頻度の建築用語（上位 10 位）	76
表 4-4	「金承鉦」の作品における高頻度の建築用語（上位 5 位）	77
表 4-5	『小説家クボ氏の日』における建築用語と出現頻度	80
表 4-6	『広場』における建築用語と出現頻度	82
表 4-7	『日月』における建築用語と出現頻度	83
表 4-8	『木、坂道に立つ』における建築用語と出現頻度	85
表 4-9	『多産性』における建築用語と出現頻度	86
表 4-10	「金承鉦」の作品における建築用語と出現頻度	87
表 4-11	『木、坂道に立つ』における出現舞台と記述度	90
表 4-12	『日月』における出現舞台と記述度	91
表 4-13	『広場』における出現舞台と記述度	92
表 4-14	『小説家クボ氏の日』における出現舞台と記述度	93
表 4-15	『Mujin 紀行』『夜行』における出現舞台と記述度	94
表 4-16	『力士』『ソウル、1964 年の冬』『多産性』における出現舞台と記述度	95
表 4-17	『生命練習』『乾』における出現舞台と記述度	96
表 4-18	『木、坂道に立つ』における主な舞台と出現位置	100
表 4-19	『日月』における主な舞台と出現位置	100
表 4-20	『広場』における主な舞台と出現位置	101
表 4-21	『小説家クボ氏の日』における主な舞台と出現位置	101
表 4-22	「金承鉦」の作品における主な舞台と出現位置	102
表 4-23	全作品に登場する住居空間の類型	103
表 4-24	『木、坂道に立つ』における用途別空間の構成キーワード	108
表 4-25	『日月』における用途別空間の構成キーワード	108
表 4-26	『広場』における用途別空間の構成キーワード	109
表 4-27	『小説家クボ氏の日』における用途別空間の構成キーワード	109
表 4-28	『Mujin 紀行』『夜行』における用途別空間の構成キーワード	110
表 4-29	『力士』『ソウル、1964 年の冬』『多産性』における用途別空間の構成キーワード	110
表 4-30	『生命練習』『乾』における用途別空間の構成キーワード	111
表 4-31	『小説家クボ氏の日』における空間表現と舞台の属性	119
表 4-32	『広場』における空間表現と舞台の属性	122

表 4-33	『日月』における空間表現と舞台の属性	124
表 4-34	『木、坂道に立つ』における空間表現と舞台の属性	126
表 4-35	『多産性』における空間表現と舞台の属性	127
表 4-36	『Mujin 紀行』における空間表現と舞台の属性	129
表 4-37	『夜行』における空間表現と舞台の属性	130
表 4-38	『力士』における空間表現と舞台の属性	131
表 4-39	『ソウル、1964 年の冬』における空間表現と舞台の属性	132
表 4-40	『生命練習』における空間表現と舞台の属性	133
表 4-41	『乾』における空間表現と舞台の属性	134

図目次

図 2-1	ソウルにおける境域の変化	16
図 2-2	現在のソウルにおける行政区画	16
図 2-3	空間に関する表現要素	19
図 2-4	分析の流れ	25
図 2-5	研究の構成	27
図 3-1	全作品における舞台の出現場所（ソウル）	44
図 3-2	1820 年代ソウルにおける伝統韓屋の平面	47
図 3-3	1930 年代ソウルにおける都市型韓屋の平面	48
図 3-4	都市型韓屋の平面構造	49
図 3-5	1937 年京城（ソウル）における北の村	50
図 3-6	1937 年京城（ソウル）における南の村	50
図 3-7	電車路線から見る 1930 年代ソウルの都市構造	52
図 3-8	三越百貨店（ソウル中区）	55
図 3-9	和新百貨店（ソウル鐘路区）	55
図 3-10	団成社（ソウル鐘路区）	56
図 3-11	セブラス病院（ソウル中区）	56
図 3-12	本町（忠武路・ソウル中区、明洞につなぐ道）	57
図 3-13	『川辺の風景』における舞台構造図	58
図 3-14	『小説家仇甫氏の日』における舞台構造図	58
図 3-15	「李箱」の作品における舞台構造図	59
図 4-1	全作品における舞台の出現場所（ソウル）	98
図 4-2	道路拡張によって孤立された大漢門（徳壽宮の正門）	105
図 4-3	都市型韓屋の住居地域	112
図 4-4	玄石洞の共同井戸（ソウル麻浦区 1960 年）	112
図 4-5	北倉洞のうどん屋（ソウル中区 1958 年）	112
図 4-6	1960 年代ソウルの街（明洞大通り）	113
図 4-7	1960 年代ソウルの街（南大門大通り）	113
図 4-8	1960 年代ソウルの街（ソウル駅前）	113
図 4-9	『木、坂道に立つ』における舞台構造図	114

図 4-10	『日月』における舞台構造図	114
図 4-11	『広場』における舞台構造図	115
図 4-12	『小説家クボ氏の日』における舞台構造図	115
図 4-13	『多産性』における舞台構造図	116
図 4-14	『Mujin 紀行』『夜行』における舞台構造図	116
図 4-15	『力士』『ソウル、1964 年の冬』における舞台構造図	117
図 4-16	『生命練習』『乾』における舞台構造図	117
図 5-1	1904 年 忠武路一帯（現ソウル中区）	137
図 5-2	作家別における建築用語の構成比（1930 年代）	138
図 5-3	作家別における建築用語の構成比（1960 年代）	138
図 5-4	住居空間における部屋名の頻度変化	139
図 5-5	1930 年代と 60 年代における都市型韓屋の平面	139
図 5-6	都市空間における城郭の通行門名の頻度変化	140
図 5-7	1902 年漢城（ソウル）の地図	141
図 5-8	韓国における近代社会の特徴と空間構造の変遷	143

第1章
序 論

1-1 研究の背景

韓国の近代起点については、帝国主義に対抗する側面を重視する立場では1860年代を、資本主義の観点から経済的社会の構成を重視する立場では1876年の開港を、そして制度と思想が本格的に導入された時期を強調する立場では1894年の甲午更張（改革）^{注1)}を近代の起点としており、歴史学者の中でもその基準は多様であるが、1876年に近代が始まったと認めることが一般的な見解である¹⁾。第2次世界大戦（1939～45年）と米国の軍政（1945～48年）を終えて1948年韓国は政府樹立を迎えるが、間もなく勃発した朝鮮戦争（1950～53年）は全国土を荒廃化したため、戦争が終わる1953年から1970年代の経済高度成長期に入る前に韓国において第2近代化が始まったといえるだろう。本研究では韓国の近代の範囲を1876年から1970年までとし、政府と王室（王家）を制度的に分離して社会の封建的慣習を法律的に完全廃棄した1894年から1970年までの社会を近代社会と設定する。さらに、その社会の中で政治経済的に民主主義と資本主義の体制が定着していく過程を近代化とすれば、韓国の近代社会は1つの特異点をなしている。それは主体性の基準として、日本から独立する前の他律的近代化と独立した後の自立的近代化に韓国の近代社会を分けることができるということである。韓国で政府が正式的に成立された時期が1948年であるが、第2次世界大戦から朝鮮戦争までを政治的な断絶であるとするならば、韓国の近代社会を日本植民地時代と朝鮮戦争後に分けることも可能であるといえる。

この歴史的な流れの中で近代社会の物理的な「かたち」を構成する都市と建築は、18世紀に起こったイギリスの産業革命以降、世界的に広がった近代技術や様式の影響を受けざるを得ない状況に置かれる。特に1900年代に入ると、西欧と日本からの外来様式の導入やセメント、ガラス、レンガ、コンクリートなどの新しい材料の補給、スチーム暖房などの新式設備の流入は新たな都市・建築の序幕を飾りつつ、「かたち」の変容を先導していく。

上述したように、韓国の近代はヨーロッパやアメリカ及び、同じ東アジア地域である中国や日本とも違う、特殊な展開過程を持っているため、この時期の社会に対する研究は建築学として重要な意義を持っていると考える。しかし、日本植民地時代と朝鮮戦争を経て現在まで至る間に、焼失や近代遺産としての価値認識の不足、経済開発の論理によって再建築ないし破壊され、数多くの建築物が消えてしまった。また、データ化する準備も不十分だったため、資料を通して近代を体験することも容易ではな

さそうである。今までの都市・建築の分野では少し残されている建築物や関連資料を通して近代社会の形態的特徴に注目していた傾向があるが、筆者は物理的なかたち(具象)に止まらず、韓国の激動期である近代を歩んできた人々の心に描き出されている社会のかたち(心象)に注目し、今までの研究とは一線を画する価値を創出しようとする。

韓国において近代は現代社会の枠組みであるといえる。昨今では、新しい社会を形成した近代都市と建築だけではなく、政治・経済的に激動期であった韓国の近代社会に対して、様々な分野から改めて評価されている。日々その姿を変えていく近代社会を、その時代の人々はどのように意識し表現していたかを探ることは、当時と現在の韓国社会構造を理解する上でも重要な意味があると考ええる。さらに、リアリズムを基に当時の時代性・社会状況・歴史文化・生活様式など社会のかたちにかかわっている諸要素が、人間とその集団間で蓄積されてきた意識の深層を通して投影される文学の都市と建築の空間は、時代や社会構造を総合的に分析するために最適の研究対象であると考ええる。すなわち、現実社会を反映して描いた文学の都市や建築を通して実際の対象物(都市・建築)に関する分析から、作品の中の象徴的もしくは重要な空間に潜んでいる「意味」を読み取ることによって、当時の社会を異なる側面から考察することができるとのことである。特にその文学が、後世の人々も含めた不特定多数の読者に共感を与えられたものであれば、文字表現によって生み出される空間は作家個人を離れて社会化し、既にある種の普遍的な感性、意識、思想を獲得していると考ええる。

以上の背景をふまえて本研究は、日本殖民地時代における近代社会と朝鮮戦争後における近代社会を分析対象として研究を行う。特に、文学の中の空間に対する表現と意味を分析して当時の人々の意識の中で反映された都市と建築空間の構造や、戦争による変遷を明らかにすることによって、当時と現在の韓国社会構造を理解し、今後の都市・建築の空間計画について1つの指標としての有意義な知見を得ることを目的とする。

1-2 研究の目的

1-2-1 研究テーマの設定

近代社会の構造とその変遷からの特徴を文学にあらわれる都市と建築空間を通して分析することが大目的であるとするなら、近代化が進められた韓国、特にソウルに着目して研究を行う。都市とは歴史と文化が蓄積されながら都市固有の正体性を形成していく空間であるため、近代以前の封建制社会（朝鮮王朝）から近代を経て現在に至るまで、韓国の首都であり近代化の影響をもっとも強く受けていたと考えられるソウルに絞って分析を進めることは意義があると考えられるためである。

1906 年国家が、既に日本の影響下に置かれていた度支部（国家行政部署）内の建築所の官製を公布してから都市と建築の姿が本格的に変わってきたため、第二次世界大戦が勃発する直前の植民地期末である 1930 年代のソウル（京城）を植民地時代における近代社会の分析範囲とする。また、朝鮮戦争後の近代社会の範囲も 1953 年の戦争による復旧が始まった以来 1970 年代の経済高度成長期に入る前の、経済復興期と言われる 1960 年代のソウルを中心として分析を行うことにする。

文章による空間の記述は、図によるものとはまったく異なる様相を現す。

そこに表現されているものは、空間の物理的幾何学的な形態ではなく、

人間の認識と言語のフィルターを通した空間的表象である。ー若山 滋²⁾

社会を構成する都市や建築空間の底辺には潜んでいる人々の意識があるが、その中で 1 つの意識でも不特定多数の読者に共感を与えられたものであれば、その意識によって描き出される空間の表象はある種の普遍的な感性として認められ、既に社会レベルの意識である、文化様式もしくは時代精神を獲得していると考えられる。その空間性については物理的だけではなく、精神的な側面から読み取ることができるはずである。本研究では、1930 年代と 1960 年代を代表する韓国の作家の中で、ソウルを舞台として当時の社会を描いた朴泰遠、李箱、黄順元、崔仁勲、金承鉦を選定し、彼らの作品にあらわされる都市や建築に対する表現から、空間の意味性とその構造の変遷を明らかにすることで、植民地期末と朝鮮戦争後における韓国の近代化とその社会にあらわれる空間像を探ることを目的とする。

1-2-2 研究の意義

韓国における近代社会の構造的特徴について有意義な知見を得るために、選定した文学作品の中で都市と建築が、テキスト相互の関係により、時代・文化様式にかかわる空間としてあらわす意味を追究することが本研究の具体的な目標である。その結果、本研究の意義は以下の3つに収められると考える。まず、実際の都市と建築に関する具象とは異なる、文学の中の空間という、心象に関する分析と、その空間的意味を解釈する理論的体系を確立することができる。(①分析手法の提案)そして、文学範囲の拡大だけではなくて映画・絵画など、空間の表現とその意味に関する他の研究分野と連係して新しい事実の発見に至るような着想の手掛かりを得ることでもある。(②研究領域の構築)

また、今まで作る側の目線によって都市と建築の計画上で看過された様々な問題の対応ないし改善のために、文学を通して当時の人々が描いている空間性を見出す本研究の進歩は、使う側の目線または意識が参照できる資料として、新たな空間計画における実用的な成果へ貢献することを目指すことが可能であると考ええる。(③空間計画上の参照)

1-3 関連研究

本研究の研究対象または分析方法に関連が見られる研究論文を大別し、既往研究から見た本研究の位置づけを書く。

文学と建築を関連付ける研究は、文学評論や歴史分野、風俗研究、そして建築分野で行なわれているが、文学にみられる都市と建築空間についての研究として若山³⁾～⁸⁾が行っている。日本の近代文学や古典文学にあらわれる空間の意味性を追究し数多くの成果を収めている。また、中国『唐詩』と日本『和歌』を比較して空間の心象を分析した研究⁹⁾や、現代児童文学の作品から子供の遊び空間を分析した研究¹⁰⁾、20世紀を代表する文学作品の一つである Marcel proust の「失われた時を求めて」という作品から Saint-Hilaire 教会堂の鐘塔についての建築的現状と体験を分析した研究¹¹⁾など、文学を通した様々な研究^{12)～25)}が行われている。その他にも建築雑誌を資料として建築思潮の分析^{26)～31)}やその表現に注目し研究をした論文^{32)・33)}などが近年見られる。研究論文以外には、Giuseppe Terragni がダンテの「新曲」を解釈して、文学に描かれた空間を実際の建築空間に図面化³⁴⁾したものや、建築家が Melville の「白鯨」を、アメリカのマンハッタンを象徴する作品として解釈し、図面化した理論的な建築作品³⁵⁾がある。文学を対象として建築空間を分析する研究について、その多くは日本と中国の文学に対する分析が主流であるといえる。

韓国における近代社会、特にソウルを対象とする研究は、歴史、地理、社会、政治、経済、行政、生活、都市・建築など全分野に渡って行われている。都市・建築分野では、ソウルの歴史と日常的都市の風景について研究³⁶⁾や植民地時代の初期の都市計画に関する研究³⁷⁾とソウルの伝統都市洋式に関する研究³⁸⁾、ソウルの住居空間に関する建築研究^{39)～47)}など、多くの成果が上げられている。また、韓国現代文学に現れるソウルの形状に関する研究⁴⁸⁾や京城の都市化が1930年代の韓国モダニズム小説に及ぼした影響に関する研究⁴⁹⁾、20世紀ソウルの生活の歴史と空間地理の変貌に関する研究⁵⁰⁾など文学分野での研究も多くみられる。その他にも数多い研究^{51)～57)}が行われている。都市と建築分野では、形態的分析に主眼が置かれているといえる。

文学の以外のジャンル、絵画もしくは映画を対象として建築空間を分析する研究も活発に行われている。絵画の場合は19世紀ヨーロッパの風景画にみる都市景観の研究⁵⁸⁾や17世紀オランダ絵画の中の建築空間に関する研究⁵⁹⁾など、映画の場合は映画空間の奥行きに関する研究⁶⁰⁾やチャールズ・チャップリンの映画における都市と建築

空間に関する研究⁶¹⁾など、絵画と映画の中で現れる空間性やその表現による時代分析など様々な研究^{62) ~ 72)}成果が収められている。絵画や映画に対して、建築を関連付ける研究については、近年見られるようになった新しい研究領域であるが、視覚情報を対象としていることから、建築の形態分析が類似している、といえる。

文学が研究資料として扱われるのは、その時代の文化・風土・時勢との関係から生まれ、そこに都市・建築空間と人間との関係がより濃く現れているため、空間が抱く社会的な意味を通して当時の社会構造または近代性についての解釈ができる資料であると考えられる。本研究では文学にあらわれる都市と建築、すなわち空間に対する心象を分析するために、次のような方法を用いて研究の有効性を高める。文学の中の建築用語と舞台を抽出して作品の概括的な空間構造を調べる。描写された舞台や主な建物・都市施設などの地理的位置と空間を構成するキーワードを通して、文字で現れた実際の都市と建築の場所性または具象的特徴を分析する。また、空間属性を通して空間に対する心象的特徴を読み取り、舞台相関関係図から空間の意味を考察する。以上の分析結果をまとめて、1930年代と1960年代にわたる、韓国のソウルにおける近代社会もしくは都市と建築空間の構造やその変遷を明らかにし、建築における空間の表現と意味性に対する新たな分析ツールの方向性を試みるという立場をとっている。特に、今まで作品の空間構造を調べるために用いられた舞台の意識時間（ある舞台の描写文字数）を修正・補完した舞台の記述度は、空間の持つ建築的な位相（重要さ）を測る手法として作品全体の構造を把握するために、より高い信頼性を得ることができると考える。また、文学の中の空間を性格付ける諸要素を分類して設定した空間属性は、作品に現れる舞台から作品ひいては時代を象徴する空間的意味を発見する分析手法として、舞台の記述度とともに本研究と既往研究を差別化し、本研究の位置付けを明らかにしていると考えられる。

都市や建築にまつわる文字の表現内容に関する研究は、近年みられるようになったが、その数少ない未開拓領域であるといえる。これは建築分野だけではなく、多様な分野と連係し、都市と建築を分析しようとする現代の傾向を現していると考えられる。本研究はこの新しい研究領域の進展に貢献することを目指している。

注

注 1) 朝鮮王朝時代の高宗 31 年に金弘集らの開化派が政治制度を近代的に改革したこと。日本によって構成された新内閣は政府と王室(王家)を制度的に分離し、社会の封建的慣習を法律的に完全廃棄する。

参考文献

1) わが国の現代史ノート、近現代史ネットワーク、ソヘ(서해)文集、2007 年

2) 空間学辞典改訂版、日本建築学会[編]、井上書院、2005 年

【関連研究リスト】

3) 若山滋ら：『万葉集』における建築空間、日本建築学会計画系論文報告集、No. 388、pp. 116-123、1988. 6

4) 若山滋ら：『古今和歌集』と『新古今和歌集』における建築空間、日本建築学会計画系論文報告集、No. 405、pp. 141-147、1989. 11

5) 若山滋ら：『源氏物語』における建築空間、日本建築学会計画系論文報告集、No. 408、pp. 93-98、1990. 2

6) 若山滋ら：夏目漱石の作品の中の建築の研究－舞台空間の推移から見た作品の類型について、日本建築学会計画系論文報告集、No. 476、pp. 101-109、1995. 10

7) 若山滋ら：夏目漱石の前期の長編小説の舞台となる建築空間の「意味」、日本建築学会計画系論文報告集、No. 478、pp. 131-139、1995. 12

8) 若山滋ら：現代短歌にあらわれる都市・建築空間、日本建築学会計画系論文報告集、No. 593、pp. 237-241、2005. 7

9) 張奕文ら：唐詩の中の建築研究に関する研究、日本建築学会計画系論文報告集、No. 477、pp. 109-116、1995. 11

10) 仙田満ら：現代日本の創作児童文学におけるこどものあそび空間の研究、日本建築学会計画系論文報告集、No. 510、pp. 177-183、1998. 8

11) 黒岩俊介ら：建築経験の諸相－ブルーストの“失われた時を求めて”におけるサンテイルール教会堂の鐘塔の場合、日本建築学会計画系論文報告集、No. 417、pp. 99-107、1990. 11

12) 池田朋子ら：文学作品中の空間描写から都市・地域景観を読み取る方法に関する研究：小説『城のある町にて』をケーススタディとして、日本建築学会計画系論文報告集、No. 450、pp. 121-130、

1993. 8

- 13) 藤原学ら:小説『細雪』にみられる建築的事象について、日本建築学会計画系論文集、No. 478、pp. 189-197、1995. 12
- 14) 藤原学ら:小説『蘆刈』にみられる建築的事象について:「場所」の構造と意味、日本建築学会計画系論文集、No. 488、pp. 227-236、1996. 10
- 15) 徐貴淑:頼石の『草枕』に見る絵画的言語空間における建築的空間構図、日本建築学会計画系論文集、No. 508、pp. 233-240、1998. 6
- 16) 池田朋子ら:非線形写像法を用いた小説に書かれた場面の空間イメージの分析:『タイムスリップ・コンビナート』(笙野頼子作, 1994)を分析対象として、日本建築学会計画系論文集、No. 537、pp. 195-202、2000. 11
- 17) 都築美衣ら:芥川龍之介の作品による近代的空間認識、日本建築学会計画系論文集、No. 611、pp. 225-229、2007. 1
- 18) 大柳聡ら:安部公房の作品にみる視線と空間イメージ、日本建築学会計画系論文集、No. 627、pp. 1119-1124、2008. 5
- 19) Suh Kuee-Sook : A Research of Space in Housing Architecture as depicted by Literary Expression, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol. 16, No. 6, 2000
- 20) Cho Sung-Hyun : A Study on 'Defamiliarization' in Architecture through the Reinterpretation of Metaphor and Metonymy -based on the thought of Lacan's the Symbolic, the Real and the Imaginary-, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol. 24, No. 2, 2004. 10
- 21) Park Cheol-Soo : Transformation of Images on Apartment Depicted in Korean Popular Novels, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol. 21, No. 1, 2005. 1
- 22) Kim So-Yeon : Hybrid Identity of Korean Architects on 『Choson-Geonchook』 in the Colonial Aftermath, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol. 22, No. 4, 2006. 4
- 23) Yun Suk-Hee : A Study based on Bakhtin's Chronotope for an Architectural Design, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol. 23, No. 2, 2007. 2
- 24) Ahn Ju-Young : A Study on the Rhetorical Expression of Scene Design in Theatre -Focused on the Case Study of the Scene Design of King Lear-, Korean Institute of Interior Design,

Vol. 16, No. 3, 2007. 6

25) Yun Suk-Hee : A Parallel Research on Chronotope Contrived by Bakhtin, and Designating Hejduk's Works, Journal of Architectural Institute of Korea (Planning & Design), Vol. 23, No. 7, 2007. 7

26) 美涌ら:1950～1970 年代の中国における建築雑誌に現れる建築用語の統計的分析:中国建築の近代化過程における建築家の言説に関する研究その 1、日本建築学会計画系論文集 (516)、pp. 273-280、1999. 2

27) 美涌ら:1950～1970 年代の中国における建築雑誌に現れる建築思想の変遷:中国建築の近代化過程における建築家の言説に関する研究その 2、日本建築学会計画系論文集 (525)、pp. 319-326、1999. 11

28) 太田英和ら:日本モダニズム創生期における建築家の言説の論理構造、日本建築学会計画系論文集 (578)、pp. 213-218、2004. 4

29) 大沢昌玄ら:主要雑誌の言説からみた旧都市計画法期土地区画整理事業の推進課題とその対応策、都市計画.別冊、都市計画論文集 = City planning review. Special issue, Papers on city planning (39)、pp. 883-888、2004. 10

30) 竹内正明:戦後日本における建築ジャーナリズムへの批判的言説について、日本建築学会計画系論文集 (590)、pp. 137-143、2005. 4

31) 竹内健人ら:雑誌『大大阪』の論考にみる戦前記大阪の都市美思想の展開について、日本建築学会計画系論文集 (601)、pp. 133-138、2006. 3

32) 夏目欣昇ら:建築批評誌『OPPOSITIONS』の批評対象、日本建築学会計画系論文集、No. 624、pp. 487-494、2008. 2

33) 夏目欣昇ら:評論における名詞と修飾語の出現傾向の考察—西洋近代建築評論にみられる単語関係の可視化 (その 1) —、日本建築学会計画系論文集、No. 632、2008. 10

34) Thomas Schumacher:From Gruppo7 to the Danteum, 『Oppositions』, MIT Press, Summer, 1977. 9

35) Douglas Darden:「Melville:An Architect's Reading of Moby-Dick」, 『A+U』, No. 272, 1993. 5

36) Kim Kwang-Hyun: Historical City Seoul and its daily Urban Landscape, The Journal of Seoul Studies, Vol. - No. 4, 1995

37) Kim Ki-Ho : A Study on the Urban Planning of Kyong-sung in the early Japanese colonial

- period, The Journal of Seoul Studies, Vol.- No.6, 1995
- 38) Kim Hye-Ran : A Study on the traditional Urban Pattern of Seoul, The Journal of Seoul Studies, Vol.- No.3, 1994
- 39) Oh Eun-Kyung : A Study on the Chronological Transition of Unit Floor Plan, Journal college of home economics, YONSEI University, Vol.23, No-, 1990
- 40) Son Se-Kwan : A Study on the Evolution of Urban Traditional Houses, Chung-Ang Journal of Environmental Science, Vol.6, No-, 1995
- 41) You Young-Hee : A Study on the Changing Processes in the Dwelling Style of Traditional Housing(Hanock) during Moderni -focusing on Improved Housing in Seoul since the 1930' s-, The Journal of Seoul Studies, Vol.-, No.7, 1996
- 42) Lee Soon-Hee : A Study on the Transformation Process of the Organization of Dwelling Space in terms of the Conversion of Domestic Fuel -In Connection with Modernization of Urban Dwelling-, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol.13, No7, 1997.7
- 43) Lee soon-Hee : A Study on the Transformation Process of Urban Dwelling Space -Focused on the Change by Conversion of Domestic Fuel-, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol.13, No.9, 1997.9
- 44) Yun Jeong-Keun : A Study on the Space Usage Patterns and the Perception of Dwelling Space in the Apartment Housing, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol.14, No.11, 1998.11
- 45) Kim Mi-Na : A Study on the Psychological Boundary and Physical Boundary of Housing Space in Korea, China and Japan: Focused on the UPPER-CLASS HOUSE(班家), QUADRANGLE(四合院), WARRIOR' S HOUSE(武家), Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol.18, No1, 2002.1
- 46) Pack Cheol-Jin : The Socio-economical Background and Characteristics of Plan of Urban Traditional Housing in Seoul of 1930s, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol.18, No.7, 2002.7
- 47) Kim Young-Ha : A Study on the Change Process of Unit Plan in Multi Complex Housing, Journal of Architectural Institute of Korea(Planning & Design), Vol.24, No.2, 2008.2
- 48) You Sung-Ho : A Study on the figure of 'Seoul' which is reflected in Korean modern

- literature, The Journal of Seoul Studies, Vol.- No.23, 2004
- 49) Choi Hye-Sil : How the Korean Modernism Novels in the 1930's were influenced by the urbanization of Kyong-seong, The Journal of Seoul Studies, Vol.- No.9, 1998
- 50) Han Hyung-Koo : A Study on the History of Lives of Man and the Changes of Space-geography of Seoul City in 20th century through 'The Novel of types of Mr. Kubo', The Journal of Seoul Studies, Vol.- No.14, 2000
- 51) Yoon Do-Keun : A Study of the Housing Policy under the Colonial Empire of Japan and those Inheritances in Korea, HONG-IK FACULTY JOURNAL, Vol.19, No.2, 1987
- 52) Jung Moo-Woong: A Study on the Cultural Change and continuity of Korean Residential Settlement, The Journal of DANKOOK UNIVERSITY, Vol.26, No.-, 1992
- 53) Lee Gyu-mok: The Urban Landscape and the Image of Seoul in the Late Chosun Dynasty, The Journal of Seoul Studies, Vol.-, No.1, 1994
- 54) Bae Hyun-Mi: A Study on rediscovering the Archetype of Seoul City through making a Restoration Map at the late Chosun dynasty, The Journal of Seoul Studies, Vol.-, No.5, 1995
- 55) Kim Young-Soo : A Study on the urban tissue of traditional urban housing area Don-am district in seoul(1940-1960), The Journal of Seoul Studies, Vol.-, No.22, 2004
- 56) You Sung-Ho: A Study on the figure of 'Seoul' which is reflected in Korean modern literature, The Journal of Seoul Studies, Vol.-, No.23, 2004
- 57) Ko Dong-Hwan : The Composition and Perception of the Space of Seoul in Late Joseun Dynasty, The Journal of Seoul Studies, Vol.-, No.26, 2006
- 58) 萩島哲ら:19世紀ヨーロッパ風景絵画にみる都市景観に関する研究、日本建築学会計画系論文報告集(413)、pp.83-93、1990.7
- 59) 三輪祐仁ら:17世紀オランダ絵画の中の建築空間、日本建築学会計画系論文集(593)、pp.73-78、2005.7
- 60) 若山滋ら:映画『旅情』と『ベニスに死す』における<画面空間>の奥行き、日本建築学会計画系論文集(592)、pp.85-91、2005.6
- 61) 夏目欣昇ら:チャールズ・チャップリンの映画作品における都市と建築空間、日本建築学会計画系論文集、No.617、pp.207-214、2007.7
- 62) 呉谷充利ら:ル・コルビュジエにおける二元論(美と技術)の統一と幾何学:ル・コルビュジエの建築制作に関する研究その11、日本建築学会計画系論文報告集(429)、pp.165-174、1991.11

- 63) 呉谷充利ら:ル・コルビュジェの建築制作における絵画の意義:ル・コルビュジェの建築制作に関する研究その12、日本建築学会計画系論文報告集(447)、pp.143-153、1993.5
- 64) 呉谷充利ら:ル・コルビュジェの建築世界における人間像と空間構成の原理:ル・コルビュジェの建築制作に関する研究その13、日本建築学会計画系論文集(477)、pp.189-198、1995.11
- 65) 大貝彰ら:遺伝的アルゴリズムを用いた都市景観構成要素配置の評価手法:19世紀ヨーロッパ風景絵画の「絵による景観」を基準として、日本建築学会計画系論文集(523)、pp.211-218、1999.9
- 66) 阿部順子ら:建築家 R. マレ=ステヴァンスの映画セットデザインに関する考察、日本建築学会計画系論文集(535)、pp.285-290、2000.9
- 67) 浅野純一郎:映画作品を通して見た信州上田の景観資源の特色:映画ロケ地としての実績を生かした都市景観整備に関する基礎的研究その1、日本建築学会計画系論文集(568)、pp.85-92、2003.6
- 68) 浅野純一郎:映画で撮影された信州上田の都市景観の変容に関する考察:映画ロケ地としての実績を生かした都市景観整備に関する基礎的研究その2、日本建築学会計画系論文集(573)、pp.101-108、2003.11
- 69) 田口徹也ら:小津映画『お早う』の住宅におけるコミュニケーション・シーンについて:建築計画のための空間シーンの構成及び分析に関する基礎的研究、日本建築学会計画系論文集(603)、pp.23-28、2006.5
- 70) 小林孝二ら:近代以前の絵画資料に描かれたアイヌ民族の建物に関する研究、日本建築学会計画系論文集(608)、pp.127-134、2006.10
- 71) 小林孝二ら:近代以前の絵画資料と発掘資料から見たアイヌ民族の住居に付属する建物に関する基礎的研究:態檻と倉を中心とする住居に付属する建物の特徴、日本建築学会計画系論文集(619)、pp.157-164、2007.9
- 72) 若山滋ら:ドイツ表現主義映画にみられる建築空間、日本建築学会計画系論文集、No.626、pp.875-881、2008.4

第2章

研究の進め方

2-1 分析対象の紹介

2-1-1 ソウルの拡張

朝鮮王朝時代から現在に至るまで 600 年以上韓国の首都であるソウルは、1910 年朝鮮総督府により、漢城（王朝時代のソウル名称）は京城に改称されて¹⁾日本から独立した 1945 年今のソウルという名称に変わる。都市化により、1936 年のソウル（京城）は漢城より 4 倍くらい広がり、1943 年には人口増加によって 7 つの区（鐘路区、中区、城東区、西大門区、東大門区、龍山区、永登浦区）が設置される^{2) 3)}。その後ソウルの面積はますます拡張されて 1973 年現在の市境界線が定まる^{4) 5)}。時代による境域の変化と現在のソウルにおける行政区画を、図 2-1 と図 2-2 に示す。

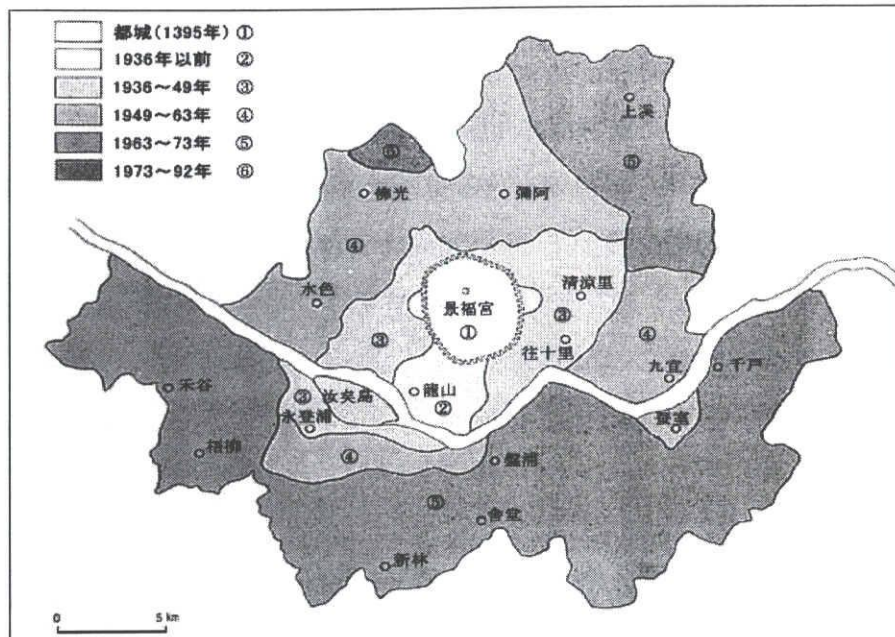


図 2-1 ソウルにおける境域の変化^{注1)}



図 2-2 現在のソウルにおける行政区画

2-1-2 作家別履歴と対象作品

本研究の対象となるものは、戦前の朴泰遠と李箱、戦後の黄順元と崔仁勲と金承鉦の作品である。5 人はその作品が韓国の文学教科書に載るほど人口に膾炙した、近代を代表する作家である。小説の内容や作家精神など、5 人には各々の特徴があるが、共通することは、ソウルを主な舞台とし、当時の社会風景や人間意識を描きながら社会問題を作品に如実に反映させたことである。また、1930 年代を代表する朴泰遠と李箱はリアリズムの拡大と深化という好評を得るほど注目された作家で、モダニズム小説^{注 1)}もしくは都市小説という新たなジャンルを切り開いたと評価されている。戦後にはサルトル (J. P. Sartre) とカミュ (A. Camus) によって主導された実存主義 (existentialism) 文学が新世帯作家を中心に広がり、特に黄順元と崔仁勲と金承鉦はその影響を受けながらリアリズムをもとに 1960 年代ソウルを描いたため、1930 年代胎動したモダニズム小説のジャンルに属するといえる。

以下は 5 人の代表的な作品を中心に簡略な作家履歴を紹介する。

①朴泰遠は 1909 年生まれで 1926 年<朝鮮文壇>に詩(姉)を発表しデビューする。

日本留学後 1931 年から本格的な創作活動を始める。主な作品としては都市の風俗を観察した長編小説『川辺風景』(1936 年)と中編小説『小説家仇甫氏の日』(1934 年)がある。

②李箱(本名:金海卿)は 1910 年生まれて 1937 年東京で一生を終える。1929 年朝鮮総督府の内務局建築課の技手になるものの、1933 年結核で退職してから本格的な創作活動を始める。主な作品としては客観的現実空間と自己意識を描写した『翼』と『蜘蛛會冢』などがある。

③黄順元は 1915 年生まれで中学時代に詩(僕の夢)でデビューするが、1936 年早稲田大学文学部英文科に入学してからは小説活動をする。主な作品としては『甕作る老人』(1950 年)、『夕立』(1953 年)、『カインの後裔』(1954 年)、『木、斜面に立つ』(1960 年)、『日月』(1962 年)、『動く城』(1972 年)等がある。全体的に戦後社会の中でのヒューマニズムを描写しているが、本研究では特に現実社会と人間の内面意識を描いた『人間接木』、『日月』について分析する。

④崔仁勲は 1936 年生まれて 1959 年短編『GREY 倶楽部顛末記』『ラウ伝』で<自由文学>誌にデビューする。主な作品としては現実や世界との関係、人間存在につ

いて描いた『広場』(1960年)、『灰色人』(1964年)、『小説家丘甫氏の一日』(1969～72年)等がある。本研究では『広場』、『小説家仇甫氏の一日』を対象作品とする。

- ⑤金承鉉は1942年大阪生まれで1945年帰国し1962年『生命練習』でデビューする。60年代の作家と呼ばれるほど1960年代のソウルの近代性を独特な視覚で、100%ハングルで表現したことで韓国文学史の中で高く評価されている。主な作品としては都市と日常人を描いた『ソウル、1964年の冬』(1965年)、『霧津紀行』(1964年)『力士』(1964年)、『多産性』(1966年)などがある。

作家5人の作品の中で選定した分析対象の作品を表2-1に示す。

表 2-1 分析対象の作品

植民地期末（1930年代）の分析対象作品					
作家名		作品名 上) 邦題 下) 原題	発表年度	現) 出版社	小説区分
朴泰遠	01	소설가구보씨의일일 小説家仇甫氏の一日	1934 年	깊은샘 (深い泉)	中篇
	02	전면풍경 川辺の風景	1936～37 年	문학과지성사 (文学と知性社)	長編
李箱	01	지주회식 蜘蛛會家	1936 年	문학과지성사 (文学と知性社)	短編
	02	날개 翼	1936 年		
	03	몽별기 達別記	1936 年		
	04	동해 童骸	1937 年		
	05	실화 失花	1939 年		

朝鮮戦争後（1960年代）の分析対象作品					
作家名		作品名 上) 邦題 下) 原題	発表年度	現) 出版社	小説区分
黃順元	01	나무들비탈에서다 木、坂道に立つ	1960 年	문학과지성사 (文学と知性社)	長編
	02	일월 日月	1962 年		
崔仁勲	01	광장 広場	1961 年	문학과지성사 (文学と知性社)	中篇
	02	소설가구보씨의일일 小説家クボ氏の一日	1969～72 年		長編
金承鉉	01	생명연습 生命練習	1962 年	민음사 (ミンウム社)	短編
	02	긴 乾			
	03	역사 力士	1963 年		
	04	무진기행 Mujin 紀行	1964 年		
	05	서울, 1964년 겨울 ソウル、1964年の冬	1965 年		
	06	다산성 多産性	1966 年		中篇
	07	야행 夜行	1969 年		短編

2-2 分析方法

2-2-1 分析方法の設定

文学の中の都市と建築空間を研究するための分析方法の概要を説明する。対象作品では、都市・建築空間だけではなく、登場人物や行為、社会状況および内面意識など、空間・人間・社会にかかわる様々なものが表現され、これは空間の表象を形成する要素であるとする。空間（舞台）に対する要素を4つに分類し、図2-3に示す。

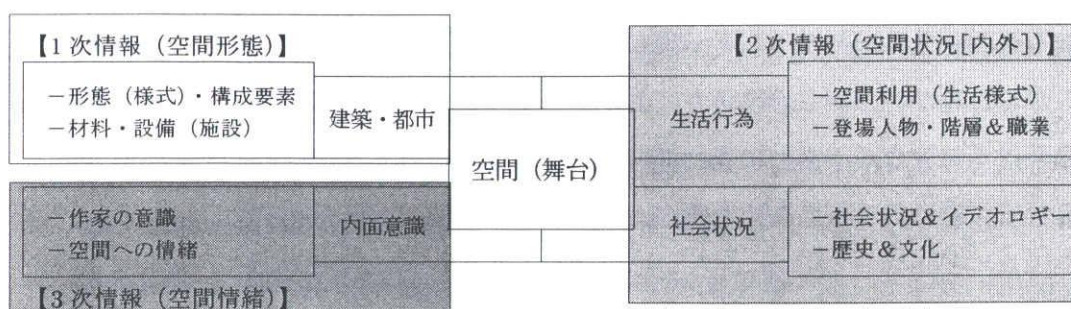


図2-3 空間に関する表現要素

また、生活様式・登場人物・社会状況・歴史と文化などは都市・建築空間とともに文学の中の“社会のかたち”を形成しており、これは当時“社会のかたち”を反映しているともいえる。文学を通して当時の都市・建築に対する物理的特徴とその空間に潜んでいる意味を通して、韓国の近代社会における空間構造の変遷または当時の空間像を考察するために、次の順を追って分析を進める。

- ①文学に描かれている様々な用語のうち、特に建築に関する用語を建築用語とし集計する。出現傾向と物語の関係や時代的な特徴など概括的な作品の分析を行う。
- ②登場人物が言動表現を行う際の背景として描写される空間を舞台とし、用途別に分けて抽出する。舞台の記述度による位相から全体舞台の構造を、舞台の登場する地理的位置から地域・場所性を分析する。
- ③各舞台を構成する建築用語を用途別空間に整理し、空間を構成するキーワードから都市と建築に対する物理的特徴を分析する。
- ④社会のかたちを形成する要素（図2-3）にかかわる文章を空間表現として抽出し、建築用語・舞台・空間構成キーワードについての分析結果を補完する。
- ⑤舞台を性格付けるものとして各物語内での特徴と主な人物を抽出し、空間表現と

ともに舞台ごとに整理して舞台の空間属性を調べる。各舞台の空間属性を基として作品における舞台構造図を作成し、文学の中で現れる空間の意味と近代社会の意識構造を探る。

- ⑥以上の分析結果を植民地期末と朝鮮戦争後に分けてまとめることで、近代を代表する韓国文学から都市と建築空間の意味性とその構造の変遷を明らかにし、韓国の近代化とその社会にあらわれる空間像を総合的に考察する。

文学という表現媒体によって伝えられる文字表象は、映画などの映像表象よりかたちの視覚的特徴を把握することが難しいため、具体的なかたちより抽象的なかたちに偏らざるを得ない。研究の進め方により、当時の地形・形態学情報としての説明が要る場合は不可欠な最小限の視覚的資料を掲載する。

各分析方法における具体的な設定について述べる。

【建築用語】

建築用語とは文学の中であらわれる都市と建築を示す単語で、その機能とスケールによって[建物][部屋][部位・建具][家具][国・地名][都市施設][自然][乗物][その他]にカテゴリ化する。

建物：建物や機関あるいは独立的な構造物を示す用語

部屋：建物のうち一つの空間単位を示す用語

部位・建具：建築を構成する位置の概念をともなった物質的な部分や部屋の仕切りや素材を示す用語

家具：家具や調度類、生活機械類を示す用語

国・地名：具体的な国・都市・地域を示す用語

都市施設：建物以外都市を構成する要素を示す用語

自然：公的概念の自然空間を示す用語

乗物：都市や地域に交通関連の機械類を示す用語

その他：上記に含まれない用語

【舞台】

①舞台の定義

映画のシーンのように登場人物の言動表現が行われる一つの場面を舞台と定義し、一つの段落を基本単位として舞台を抽出する。同じ時点で一つの場面が複数の段落にわたって描かれていたら、すべてを一つの舞台として扱う。但し、一つの段落でも、行為時点の混在（長期間にかけての描写）や作家の説明は文脈によって不明や前後段落の延長線と判断する。また、明確に別の舞台が一つの段落に描かれた場合は、段落を分けて扱うことにする。しかしながら、文学ジャンルでも、小説というものは戯曲とは違って必ずしもその舞台がはっきりしない叙述があり、この作業にはある程度の読み込みと判断が必要である。

本研究では建物を中心に舞台を分ける。対象作品における様々な舞台を、建物と建物外から、さらに用途によって6つに分類する。

- 建物
 - －住居：住まいの機能を持つ舞台
 - －公共：官公署と医療・教育・宗教にかかわる舞台
 - －産業：住居や公共の以外の機能で、資本性を持つ舞台
- 建物外
 - －都市・国：都市や国を構成する要素で公的場所性を持つ舞台と地域全体をあらわす舞台
 - －交通：運送に関わるすべての乗物
- その他：不明、あるいは上記に含まれない舞台

②舞台の記述度（空間位相）

舞台の記述度は文学内の舞台が持つ空間としての位相をあらわす指標で、各作品における全体舞台の構造を把握する手法である。実際に出現する場面の数（描写度）とその舞台であられる建築用語の数〔空間にかかわる割合（空間関係率）〕に比例し、物語内の意味性とは区別する。

- ・舞台1の記述度＝舞台1の場面数/（舞台総箇所）×（舞台1の総用語数）/（総用語数）×100
- ・舞台平均記述度＝{舞台位相度の合計（Σ各舞台の位相度）}/（舞台総箇所）

舞台についての分析は、建築用語の頻度による作品の概括的な空間構造と実際の位置を明らかにすることを目的とする。

【空間表現と空間属性】

空間の表現要素（図 2-3）があらわれている文章を空間表現として抽出する。その空間表現と主な人物や物語上の特徴によってあらわされる舞台の空間性を空間属性とし、表 2-2 に示す。また、対象となる舞台の空間性を基に舞台相関関係図を作成し、文学の空間における意味や近代社会の意識構造を考察する。

表 2-2 空間表現と物語特徴による舞台の属性

	舞台属性					
	空間（都市・建築）		社会（生活・文化）		人間（内面意識）	
●	韓国式 （伝統・自然）	洗練・立派	帰属性（強）	反近代的価値 （儒教・自然）	安定感・喜	親近感
◎	近代式 （外国・新文明）	粗末・貧弱	帰属性（弱）	近代的価値 （権力・資本）	不安定感・悲	乖離感
—	傾向なし（判断保留）					

・空間的属性：空間における直接的な描写の特性

ー建物の場合、建物名或は平面の構成・設備・材料による建築様式（平面の変化を主な基準とする）。都市の場合は都市施設と描写された建物を中心として判断する。

※原則的に外的特徴を優先するが、家の場合室内変化が際立つ場合は（●）で表記。

※外国建物の場合は近代に近いものとする。

ー舞台の出来上がりの状態による印象評価（品質・清潔感）

・社会的属性：社会にかかわる中心人物の描写特徴

ー舞台に対する中心人物の所属感（象徴〔代表〕性・融和感）、或は空間（室）への執着によるこだわり（行動範囲、逸脱・定住）

ー中心人物（或は周辺人物との関係による）の主な価値体系・秩序

※本能的性行為（金銭なし）・童心は自然の秩序と判断し、人為的規則による行為は近代的価値に従うと判断する。

・人間的属性：人物（作家）における意識描写の特徴

ー物語の葛藤による中心人物（或は周辺人物との関係との関係による）の心理状態

ー舞台に対する中心人物（作家意識）の親近感

※基本的に主人公の目線を中心に判断しているが、場合によっては舞台での主な登場人物（主人公ではない）の目線で判断する。

※「情緒」の場合は 5 つの属性に加えて「快－不快」「好み－忌避」などの心理的状态と隠喩的描写も踏まえて、総合的に判断する。

分析例を表 2-3 に示す。

表 2-3 「分析例」空間表現と物語特徴による舞台の属性

—『川辺の風景』における住居空間の一部—

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
住居	※37 向こう側の漢方薬局の家で若い夫婦が一緒に出かけるのを見て、“とにかく仲がいいね、いつも必ず夫婦連れだよ”。	安定している家の構図・嫁の妊娠	漢方薬局の家・薬局主人(男)	●	●	●
	※38 東京で卒業したばかりの、漢方薬局の長男が卒業した年の春、梨花を卒業したく新式女性と恋愛しているという噂はまず共同洗濯場の人々を驚かせた。いわゆる頑固な漢方薬局のおじいさんが…どんな意見を出すのかが関心事であったから。			空間構成用語	(登場人物 頑固な漢方薬局のいる家の範囲と代 おじいさん 構図 表性) ん	●
	38 漢方薬局の中、客の間でお客さんと座っているおじいさんを見つめた。					
	205 中門の内側にある門脇部屋から上部だけにとびらのあるたんすを…					
	※75 今回の京城府会の議員選挙の前に自分と一緒に出馬するほかの候補者たちの…	府会議員の選挙・愛人の心配	主事の家・主事(男)	—	◎ ◎ ◎	—
住居	※14 ゴム靴ができて誰でもみんなが安くて楽なそれだけを履いているから、革の靴が売れるはずがないでしょう？	家の改造(家→下宿屋、だまされて上京したスニの危機)	下宿屋(旧下宿屋)・スニ(女)	◎	—	◎ ◎
	※73 もともの履物店は居酒屋に変わり、また彼らが住んでいた家は下宿屋(旅館)の看板が掲げられた。			空間構成用語	176 表現	157 表現 178 表現
	157 その一日目の日が暮れて…スニはやはり心の中の不安を持たざるを得なかった。					
	176 彼女は下宿主人の、お手伝いさんの…同宿人たちの、すべての人々の視線にだんだん負担を感じながら…					
	178 いつ自分の部屋に帰るのか分からないことに、あるいは良くない考えを持ってそのようなくだらぬ話を続けているかもしれない彼の心に…(夜部屋に入る下宿屋の主人)					
住居	194 二間くらいの家を一間にして新しい部屋を増やして…井戸は何の理由なのか分からないが、埋めてしまい、そこに長いすのようなものを置いて…多分そこが洗面所のようなのだ。					
	335 客間というところは華子とかそのような女が近づく場所ではないので…ほとんど男とは…顔さえ見る機会はない。	不自由でつらい嫁入り暮らし	花子夫婦の家・花子(女)	●	—	◎ ◎
	※363 いったいヤンパン(王朝時代の支配階級)ってなんだ？…そんなに体面が重要なら最初からサンノム(身分が低い階級)の家柄と結婚しない方が良かったのに。			空間構成用語	102 表現 335 表現 400 表現 363 表現(総合)	
	400 もう十日間前から中(部屋)で寝ないで必ず第2客間で起居する…					
	402 決してこの家を出る(離婚)ことなく、いつまでもすべての迫害に戦っていかうと…“最後まで我慢しよう。死んでもここで死のう”…。					
住居	※329 彼女は今の貫鉄洞の住宅の、いったいどこが不満だったのか、その家を売って桂洞のハウスメーカーが作った家に…引越したい主張を繰り返した。	物欲と性欲の空間(丈夫な青年との浮気)	主事の愛人(女)	●	◎ ◎ ◎	—
	※203 最初からかなり信頼性があって頼りになる人だと信じていたスニはこれから部屋を借りて一緒に住めることだけでもう心が感動し、また満足していた。	スニの新しい居所(きみこと同居：家事担当&家族への献身)	きみこの家・スニ(女)	◎ ◎	● ● ● ●	2
	※270 スニ自分は田舎での厳しい嫁入り暮らしがもう身になれて…			空間構成用語	271 表現 270・271 表現、物語特徴	203 表現 71 表現
	※271 毎日あまり変わらない料理であるものの、それを自分一人で考えて用意し、家族の感想を聞くことがスニには…喜びの1つであった。					
	273 彼女たちが水標町に住んでいる家には全部4つの世帯が入っているが、元々各自の生活を営むことに適当に作られているから、一つの棟(家)には1.5間の部屋あるいは2.5間の部屋と下屋が1つずつ構成されている。また各々が離れている。					

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。最初の数字はページ番号。

2-2-2 分析の流れ

分析の流れを 図 2-4 に示す。

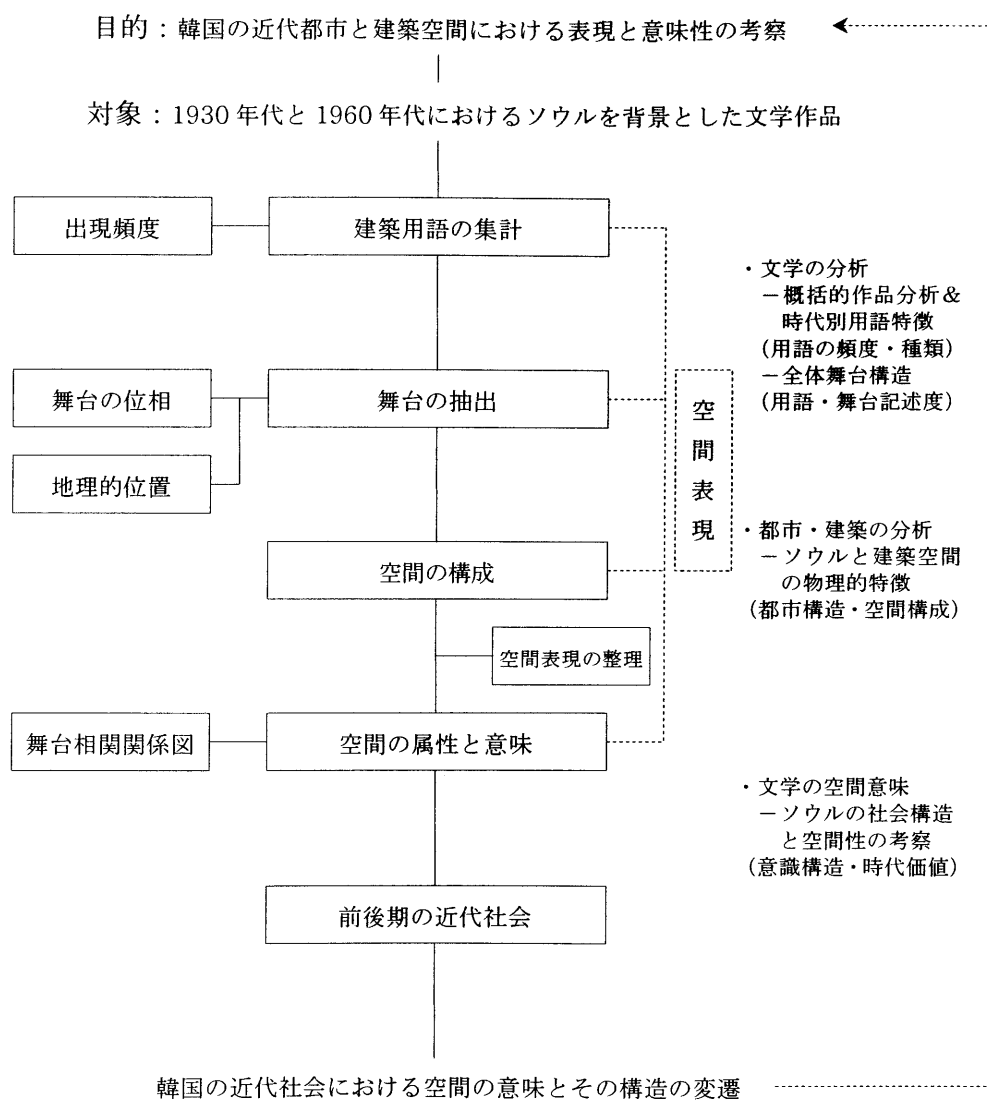


図 2-4 分析の流れ

2-3 研究の構成

本研究は、文学の中にあらわれる都市と建築についての表現を通して空間の意味性を追究し、当時の近代社会であるソウルの変遷過程における社会・文化的背景を考察するものであり、以下の 6 章により構成される。

1章 序論

2章 研究の進め方

3章 植民時期末における都市と建築

－朴泰遠と李箱の作品の分析

4章 戦後復興期における都市と建築

－黄順元と崔仁勲と金承鉦の作品の分析

5章 植民地期末と朝鮮戦争後における都市と建築の変遷

－1930 年代と 1960 年代のソウルにおける比較分析

6章 結論

研究の構成を図 2-5 に示す。

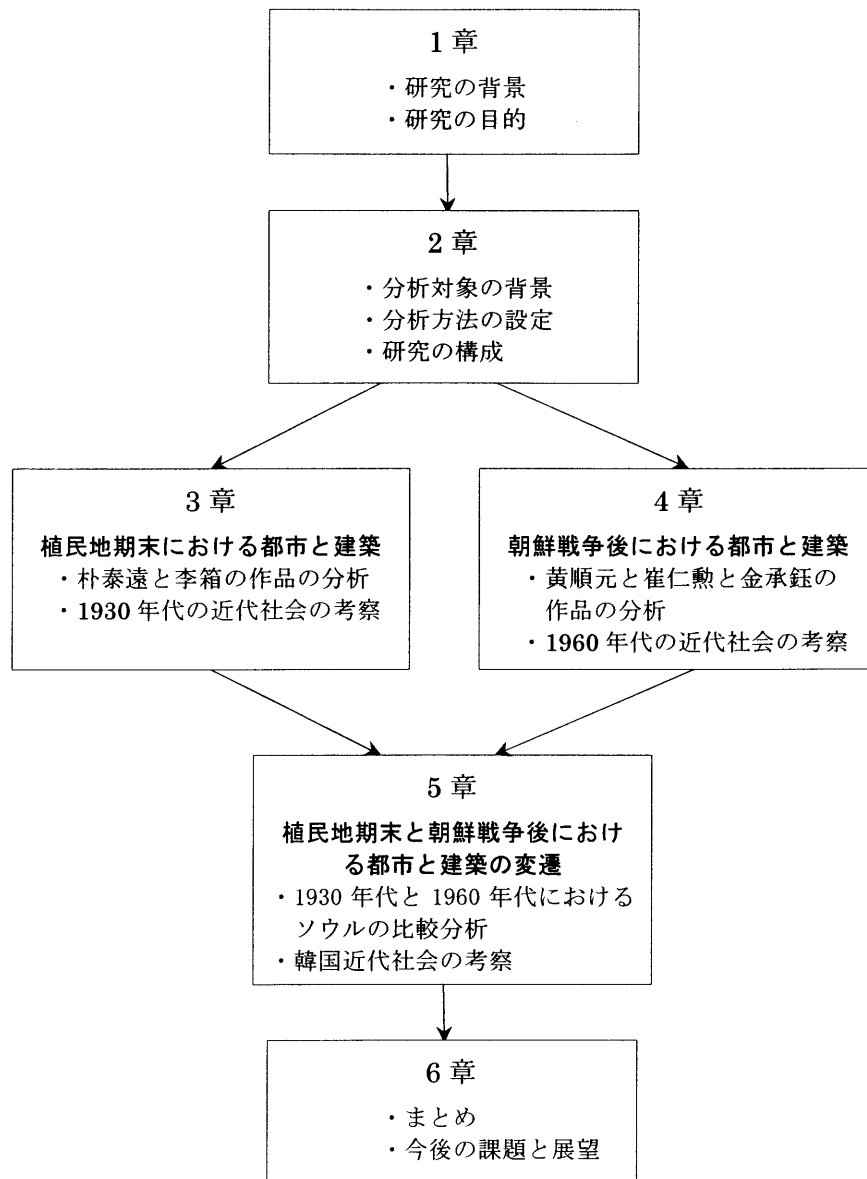


図 2-5 研究の構成

注

注 1) 出所：韓国 Britannica 会社 2001

注 2) モダニズム小説とは現代の機械文明と都市感覚を重視する文芸の思潮である。特徴としては、都市人の都市でのライフを描写しながら文明に批判的な傾向が強い。また、前衛的な実験性を志向し、内的な独白や意識の流れによる手法を駆使していることもモダニズム小説の特色である。韓国の都市文明の世帯を観察しかつ現実批判的な文学ジャンルである。

参考文献

- 1) 朝鮮総督府令第 7 号 (1910 年)
- 2) 朝鮮総督府京畿道告示第 32 号 (1936 年)
- 3) 朝鮮総督府令第 164 号 (1943 年)
- 4) ソウル特別市および京畿道管轄区域に関する法律 (1973 年、法律 2596 号)
- 5) ソウル通史<上・下>、ソウル特別市史編纂委員会、1972 年

第3章

植民地期末における都市と建築

－1930年代の京城（ソウル）－

3-1 分析の目的と対象

3-1-1 分析の目的

朴泰遠と李箱（本名金海卿）は韓国を代表する文学者である。特に彼らの『川辺風景』や『翼』は発表当時、リアリズムの拡大と深化という好評を得るほど、注目された作品である。また、二人の作家は様々な韓国文学研究者によって、リアリズムの中でもその叙述手法や都市を主な背景とする舞台設定という点に特徴を持ち、モダニズム小説もしくは都市諸説という新たなジャンルを切り開いたと評価されている。本章では、朴泰遠と李箱の代表的な作品に登場する建築空間について分析する。

文学作品と建築を関連づけて研究することの意義については、序論で述べているが、ここで特に、1930年代の作家の作品を対象とする意義を整理すれば、日本植民時代という特殊な時期で活躍した作家の作品についての研究の一部になることと、1906年国が既に日本の影響下に置かれていた度支部（国家行政部署）内の建築所の官製を公布してから1939年第二次世界大戦が勃発する前まで急速に変わっていく近代という社会の、韓国人の心象における都市と建築空間の意味を探る分析ツールを試みるということである。当時は既存の伝統様式と西洋や日本の主導した近代様式が混在している。二人の作家のみによってその時代について総括できるという意味ではないが、リアリズムを基に鋭い観察と豊かな表現で書かれた作品の登場人物や建築空間は、少なくともその一部としてとらえることが可能であろう。また、実際の都市や建築を構成している空間が、文学ではテキスト相互の関係により文化様式にかかわる精神を抱く、時代の器として発見されるはずで、これが建築学研究にとってもまた、今の韓国建築の理解にも重要な意味を持つと考える。

本章では、ソウルを背景として描いた朴泰遠と李箱の作品における都市や建築空間の様相とその意味を明らかにすることで1930年代における韓国の近代化と当時の社会にあらわれる空間像を考察することを目的とする。

3-1-2 分析の対象と手順

1876年の強制的な開港以来、西洋建築が入り込み、日本を通した影響もますます強くなってきた。1910年日本が武力併合してから、韓国はそれ以上自主的な近代建築物を持つことができなくなり、主体のない近代化は洋式や和洋式という外来建築の実験場として進まれた。主体的近代化が1953年戦後の復旧から始まったとみることが韓国の一般的な見解であるため、1930年代の都市や建築空間、初期近代社会を研究対象とすることは意義を持つといえる。特に、近代の影響による変化が激しくあらわれたソウルに注目し、ソウルを舞台として描いた文学作品を通して研究を進める。また、都市化する当時の風俗と人間心理を鋭敏な感性と巧みな手法で描いた朴泰遠と李箱の文学から分析することは、視覚的資料では見逃しやすい空間的情緒を読み取ってその時代を総括的に考察することができると思う。

朴泰遠と李箱は、その作品が韓国の文学教科書に載るほど人口に膾炙した、1930年代の代表的な作家である。考現学(modernology)的な手法で当時の社会風景を詳細に描写した朴泰遠と、建築学科の出身で空間と人物の関係についての描写が高く評価された李箱の作品を対象とし、特にソウルを舞台として描いた小説を選別する。

分析対象とする作品を表3-1に示す。

表 3-1 研究対象作品

作家名	作品名 上) 邦題 下) 原題	発表年度	現) 出版社	小説区分
朴泰遠	01 소설가부씨의일일 小説家仇甫氏の一日	1934年	깊은샘 (深い泉)	中篇
	02 천변풍경 川辺の風景	1936~37年	문학과지성사 (文学と知性社)	長編
李箱	01 날개 翼	1936年	문학과지성사 (文学と知性社)	短編
	02 지주회시 蜘蛛會豕	1936年		
	03 봉별기 逢別記	1936年		
	04 동해 童骸	1937年		
	05 실화 失花	1939年		

本研究では文学の中の建築空間を探るため、次の順を追って研究を進める。

- ①文学に描かれている様々な用語のうち、特に建築に関する用語を建築用語とし集計する。出現傾向と物語の関係や時代的な特徴など概括的な作品の分析を行う。

- ②登場人物が言動表現を行う際の背景として描写される空間を舞台とし、用途別に分けて抽出する。舞台の記述度による位相から全体舞台の構造を、舞台の登場する地理的位置から地域・場所性を分析する。
- ③各舞台を構成する建築用語を用途別空間別に整理し、空間を構成するキーワードから都市と建築に対する物理的特徴を分析する。
- ④社会のかたちを形成する要素(図 2-3)にかかわる文章を空間表現として抽出し、建築用語・舞台・空間構成キーワードについての分析結果を補完する。
- ⑤舞台を性格付けるものとして各物語内での特徴と主な人物を抽出し、空間表現とともに舞台ごとに整理して舞台の空間属性を調べる。各舞台の空間属性を基として作品における舞台の相関関係図を作成し、文学の中で現れる空間の意味と近代社会の意識構造を探る。

以上の分析結果をまとめて、植民地期末における韓国の近代化とその社会にあらわれる空間像を総合的に考察する。

3-2 朴泰遠と李箱の作品にみる都市と建築

3-2-1 建築用語と舞台の出現傾向

3-2-1-1 建築用語の集計と分析

建築用語についての分析とは、カテゴリー化した用語からの時代における建築的な特徴だけではなく、高頻度の用語が作家の意識に密着していることに着目し、作品における重要な空間や概括的な全体の空間構造を量的数値から推察することを目的とする。

まず、朴泰遠の作品における高頻度の建築用語を表 3-2 に表す。

表 3-2 「朴泰遠」の小説における高頻度の建築用語（上位 10 位）^{注 1)}

川辺の風景																
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他
家	415	部屋	66	門	47	お膳	20	ソウル	76	廣通橋	39	川辺	80	車	20	田舎
漢方薬局	57	庭	19	窓	38	テーブル	18	町	32	路地	30	川	64	電車	13	安城家
カフェ	50	板の間	18	戸	31	時計	13	賈鐵洞	28	井戸端	24	河	6	自動車	11	賈鐵洞家
理髪店	46	台所	16	障子	10	鏡台	12	茶屋町	10	道	25	温泉	4	自転車	5	故郷
店	49	奥の間	12	雨戸	6	鏡	11	水標町	9	鍾路	23	海	4	人力車	5	汚い洞窟
食堂	41	門脇部屋	10	濡れ縁	6	いす	7	瑞麟洞	8	共同洗濯場	22	金鉾	3	手車	4	邑内
反物屋	34	二階	7	壁	6	ミシン	4	村	6	橋	19	砂場	3	自転車	4	地方
宝石店	28	客間	7	柱	5	コンロ	4	安城	6	船橋	17	南山	3	路車	3	仕事場
下宿屋	19	家倉	5	軒	4	机	4	元山	6	大通り	17	漢江	2	船	3	まきあげぶ
下宿	17	留置場	4	昇降機	3	長いす	4	加平	5	夜市場	14	清溪川	2	馬車	1	世の中
その他 87 種 (319) その他 10 種 (23) その他 20 種 (31) その他 16 種 (30) その他 49 種 (93) その他 43 種 (108) その他 9 種 (9) その他 6 種 (6) その他 19 種 (26)																
小説家仇南氏の日																
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他
家	35	部屋	12	門	9	テーブル	17	東京	8	街	22	金鉾 (金山)	3	電車	18	田舎
喫茶店	21	待合室	2	戸	7	いす	9	ソウル	8	道	8	龍山	1	車	10	都会
カフェ	8	座	2	柱	3	机	2	朝鮮	4	鍾路	5	川辺	1	自転車	3	黄金狂時代
茶寮	6	屋上	2	床	3	時計	2	清涼里	3	大通り	5	自然	1	自動車	2	時代
和風商會	3	板の間	2	カウンタ	3	電話	2	銀座	3	路地	5			列車	1	家庭
病院	3	奥の間	1	昇降機	2	ミシン	1	幸園町	2	舗道	5			手車	1	眼科再来
小学校	3	研究室	1	天井板	2	蓄音機	1	城北洞	1	十字路	4					世の中
中学校	3	便所	1	窓	2	鏡	1	若草町	1	線路	3					電車課
保険会社	2	閲覧室	1	ドア	1			觀水洞	1	安全地帯	3					郊外
京城駅	2	玄関	1	開け裏	1			町	1	東大門	3					改築
その他 41 種 (53) その他 0 種 (0) その他 7 種 (7) その他 10 種 (10) その他 15 種 (19) その他 9 種 (9)																

『川辺風景』の場合、「家」が圧倒的に多い。その次に「川辺」「ソウル」「部屋」「田舎」が高い頻度を示している。タイトルからでも類推できるように、作家は川辺の街における庶民生活の風景を描いている。庶民の空間である「家」を中心にソウル（川辺）と田舎が作品の背景として位置していると用語の集計結果からいえる。家とともに高い頻度を占めている住居関連の具体的な建物を表 3-3 に示す。

表 3-3 『川辺風景』における高頻度の住居用語

建築用語	回数	舞台名	回数	舞台名	回数
家	415	漢方薬局の家	62	履物屋の家	33
		花子の夫家	52	家ではない建物	30
		一般的な家	44	イブニ夫の家	24
その他	75	下宿	36	宅	15

建物の分類では、住居用途の場合、38種類の家が様々な登場人物の生活空間として、都市（69.9%）と田舎（10.1%）の様子をあらわしている。特に、食堂やカフェ、店など、住居用途ではない建物を「家」と書いている場合が多い（7.2%）ことから、家が今日の意味での「住居」とは異なる概念だったと考えられる。家以外の住居である「下宿」（7.3%）の出現は、近代化する都市への人口集中による、新たな住まいの風景をあらわしている。また、「家」とともに「漢方薬局」「カフェ」「理髪店」が作品の重要な空間として高く登場していることが分かる。部屋の分類では、家に属する「部屋」の出現割合が高い。特に「台所」「奥の間」は、都市施設の「井戸端」とともに、女性の領域をあらわす用語として多く抽出された。家具の分類では、「お膳」という伝統的生活様式と、「テーブル」という西洋風近代生活様式をあらわす用語の頻度が目立つ。地名では、行政区画である町を示す、韓国式である「洞」と日本式である「町」が並立していることが特徴的である。乗物の分類では、「電車」「自動車」「人力車」から、近代化し始めた都市の風景が推測できる。その他の分類では、「安城家」「貫鐵洞家」が多い。この用語は地名に家が付随した合成語で、特に結婚した女性を指す言葉である。地を大事にした農耕社会のしきたりで、今でも田舎では残っている呼び方である。後に付く家が女性をあらわすことは家が母系中心の社会であるからだと考える。

『小説家仇甫氏の一』の場合、「家」「街」「喫茶店」「電車」の出現頻度が高い。主人公は家を出て一日中ソウルを散歩しながら都市の風景を描いている。電車も散歩の手段として使われたため、ソウルという街を中心に、家と喫茶店が作品の主な空間として位置していることが分かる。ここでもカフェを「家」と表現したことで、当時の「家」の概念が現在の意味とは異なるという主張を裏付けている。また、建物用語における「和親商会」が目立つ。『川辺風景』『失花』でも出現する和親商会は韓国人が経営した最初の近代式百貨店で、当時、ソウルの象徴的なランドマークとして認識されているといえる。自然での「金鉱」はその他での「黄金狂時代」とともに、時代状況をあらわす用語として多く描かれている。国・地名の分類では、「東京」と「ソウル」が主人公の留学していた過去と現在をあらわす場所として多く出現する。

李箱の作品における高頻度の建築用語を表3-4に表す。

5つの対象作品では「部屋」が頻出している。作品ごとに共通する物語が淪落する妻と無気力な主人公の居場所である家を中心に進行し、主人公が部屋に閉じこもっている場面が多くあらわれるためである。特に『翼』の場合、「部屋」の用語の中で、主

人公の部屋が 52.2%、妻の部屋が 41.8%を占めているほど、「障子」や「敷居」による明確な空間境界意識が際立っている。また、『失花』では舞台に登場しないが、「ロンドン」は用語の中で 3 番目に多く出現している（同じ地名である英京も含み）。霧が深く立ちこめた街（ソウルと東京）を見て連想する場所で、現実に対応できない主人公の逃げ場としてあらわれている。

表 3-4 「李箱」の小説における高頻度の建築用語（上位 5 位）

翼																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
4 種 (8.19%)		7 種 (13.62%)		13 種 (18.97%)		6 種 (12.50%)		1 種 (0.43%)		8 種 (12.93%)		2 種 (0.86%)		1 種 (0.43%)		9 種 (12.07%)	
家	12	部屋	6	障子	18	貯金箱	13	フランス	1	街	14	小川	1	自動車	1	世帯	10
京城駅	4	便所	4	門	9	化粧台	5			番地	6	山	1			世の中	8
ティールーム	2	庭	2	窓	4	時計	4			道	4					地球	3
三越	1	ホール	2	壁	3	金庫	3			ベンチ	2					社会	2
		持合室	1	天井	2	電灯	3			遊郭	1					空間	1
		その他 2 種 (2)		その他 8 種 (8)		その他 1 種 (1)				その他 3 種 (3)						その他 4 種 (4)	
蜘蛛會家																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
14 種 (18.56%)		5 種 (6.58%)		19 種 (20.96%)		8 種 (8.38%)		3 種 (4.19%)		7 種 (5.99%)		6 種 (7.19%)		3 種 (2.40%)		6 種 (7.19%)	
取引所	7	部屋	3	戸	9	たんす	4	仁川	5	道	4	海	4	船	2	世の中	7
カフェ	7	事務室	2	階段	6	電話	3	京城	1	高道	1	芝生	3	馬車	1	洞窟	1
会館	4	貸し間	2	壁	6	電灯	2	月尾島	1	堤防	1	海岸	2	京仁列車	1	無尽蔵	1
警察署	3	3 層	2	窓	5	蓄音機	1			港	1	干潟	1			家庭	1
喫茶店	1	ホール	1	飯場	3	ラジオ	1			路地	1	川	1			坂場	1
		その他 9 種 (9)		その他 3 種 (3)		その他 5 種 (5)		その他 3 種 (3)		その他 2 種 (2)		その他 1 種 (1)				その他 1 種 (1)	
童骸																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
11 種 (12.99%)		3 種 (9.28%)		9 種 (18.56%)		2 種 (2.06%)		2 種 (2.06%)		5 種 (10.31%)		2 種 (2.06%)		5 種 (11.34%)		8 種 (11.34%)	
喫茶店	3	部屋	7	窓	4	いす	1	チベット	1	道	5	森林	1	飛行機	4	郊外	3
家	2	事務室	1	戸	4	電灯	1	西道(北朝鮮)	1	車道	2	野原	1	自動車	3	社会	2
映画館	4	庭	1	障子	2					安全地帯	1			車輪	2	中立地帯	1
理髪店	3			水道	2					台観	1			列車	1	地上	1
団成社	2			門	2					共同墓地	1			熱気球	1	外国	1
		その他 6 種 (8)		その他 4 種 (4)				その他 0 種 (0)		その他 0 種 (0)		その他 0 種 (0)		その他 3 種 (3)			
失花																	
建物	語数	7 部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
17 種 (22.73%)		7 種 (20.00%)		1 種 (0.91%)		4 種 (6.36%)		12 種 (22.73%)		11 種 (16.36%)		3 種 (2.73%)		0 種 (0%)		8 種 (8.18%)	
ビル	4	部屋	4	プラットフォーム	1	時計	2	東京	6	鈴蘭通り	3	山	1			市内	2
飲茶亭	4	事務室	3			机	2	神保町	3	東小門	2	海洋	1			明治維新	1
学校	2	WC	1			長いす	2	新宿	3	街路	2	海峡	1			世界	1
NOVA	2	2 層	1			お膳	1	朝鮮	2	灯	2					異国	1
和親商会	1	屋上	1					ロンドン	2	アスファルト	2					世の中	1
		その他 12 種 (12)		その他 2 種 (2)		その他 7 種 (9)		その他 6 種 (7)		その他 3 種 (3)						その他 3 種 (3)	
達別記																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
5 種 (39.55%)		4 種 (20.45%)		2 種 (6.82%)		2 種 (6.82%)		5 種 (15.91%)		1 種 (2.27%)		3 種 (6.82%)		1 種 (2.27%)		4 種 (9.09%)	
家	6	部屋	5	設備	2	お膳	2	ソウル	3	停留所	1	温泉	1	バス	1	新聞紙地	1
旅館	3	湯湯	2	戸	1	灯	1	フランス	1			小川	1			天国	1
宿所	2	庭	1					東京	1			冠岳山	1			家庭	1
あずまや	1	便所	1					果川	1							世の中	1
学校	1							寧邊	1								
		その他 0 種 (0)		その他 0 種 (0)				その他 0 種 (0)									

全作品において「家」の集計が多いが、これは、韓国文学に、日本文学にも共通することで、散文、少なくとも小説、物語のジャンルでは、時代を超えてこの「家」がもっとも出現頻度の高い用語である。また、「カフェ」「喫茶店」など、商業施設の用語が目立っている。2 つの建築用語は、日本から流入された文化で（韓国語と日本語の読み方が同一）、近代化を通して変わっていく韓国社会での、新しい生活様式を表象しているといえる。さらに、「東京」や「新宿」など、日本とかわる地名が多くみられることで、当時の韓国の政治的な状況が日本との民間交流にも影響を及ぼしたと考

える。

各作品における建築用語と出現頻度を表 3-5～3-7 に示す。

表 3-5 『川辺の風景』における建築用語と出現頻度

建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
97 種 (11.15%)	20 種 (7.06%)	30 種 (7.18%)	26 種 (4.88%)	59 種 (10.71%)	53 種 (12.98%)	19 種 (6.91%)	16 種 (2.88%)	29 種 (6.26%)									
家	415	部屋	66	門	47	お膳	20	ソウル	76	廣通橋	39	川辺	80	車	20	田舎	65
漢方薬局	57	庭	19	窓	38	テーブル	18	町	32	路地	30	川	64	電車	13	安城家	21
カフェ	50	板の間	18	戸	31	時計	13	貴鐘洞	28	井戸端	24	河	6	自動車	11	貴鐘洞家	14
理髪店	46	台所	16	障子	10	鏡台	12	茶屋町	10	道	25	温泉	4	汽車	5	故郷	8
店	49	奥の間	12	雨戸	6	鏡	11	水標町	9	鐘路	23	海	4	人力車	5	汚い洞窟	7
食堂	41	門脇部屋	10	濡れ縁	6	いす	7	瑞麟洞	8	共同洗濯場	22	金龜	3	手車	4	邑内	6
反物屋	31	二階	7	壁	6	ミシン	4	村	6	橋	19	砂場	3	自転車	4	地方	5
宝石店	28	客間	7	柱	5	コンロ	4	安城	6	船橋	17	南山	3	路車	3	仕事場	5
下宿屋	19	客倉	5	軒	4	机	4	元山	6	大通り	17	漢江	2	船	3	まきあげぶ	3
下宿	17	留置場	4	昇降機	3	長いす	4	加平	5	夜市場	14	清溪川	2	馬車	1	世の中	3
服物店	16	四階	3	天井	3	電灯	3	桂洞	5	街	12	仁王山	1	列車	1	汚い水	2
薬局	15	ボックス	3	下水口	3	アイロン	3	江華	4	木の市場	11	山	1	散水車	1	ふかんはりぶ	2
宅	15	座敷	3	踏石	2	たんす	2	武橋町	4	はしご	11	野	1	騎釜運船	1	しあげぶ	2
工場	13	貸し間	2	水道	2	蓄音機	3	銅峴	4	水標橋	10	丘	1	乗合自動車	1	区域	2
優美館	13	三階	2	洗面台	2	扇風機	2	釜山	4	毛龜橋	8	玄海灘	1	ボート	1	現代	2
付会	12	層	2	焚き口	2	電話	2	長安	4	看板	5	煙	1	バス	1	都金	2
倶楽部	12	潮風呂	1	カウンタ	2	棚	2	仁川	4	洗濯板の石	4	蓮通山	1			地元	2
警察署	11	家族湯	1	セメント	2	食卓	2	京城	3	馬龜橋	3	野原	1			同郷	1
和観商會	11	便所	2	床	2	寝台	2	満州	3	東大門	3	土手	1			医科	1
居酒屋	10	車室	1	棚	1	屏風	2	白天	3	十字路	4					就職先	1
料理屋	10			水道栓	1	背負子	1	阿峴	3	市場	2					旧式家庭	1
清料理屋	10			数居	1	ゴミ箱	1	泥峴	3	金網	2					英文科	1
玉突屋	10			井戸	1	火鉢	1	朝鮮	2	電車道	2					法科	1
病院	9			臺台	1	きめた	1	漢城	2	停留所	2					他郷	1
礼拝堂	8			テント	1	櫃	1	ウデ(台)	2	長通橋	1					家具部	1
百貨店	7			下屋	1	ラジオ	1	東京	2	昌慶苑	1					天下	1
旅館	7			階段	1			社稷洞	2	樟樹橋	1					地球	1
小学校	6							長沙洞	2	観水橋	1					中央地帯	1
軒(けん)	5			扇額	1			養士洞	2	外灯	1					居所	1
自宅	5			コンクリート	1			江原道	2	南大門	1						
客舎組合	4							春川	2	運動場	1						
会社	4							清道洞	2	間道	1						
茶肴料亭	3							住十里	2	空き地	1						
洋薬局	3							漢陽	1	アスファルト	1						
大学	3							南村	1	土管	1						
家屋	3							六安廳	1	橋脚	1						
古物商	3							ないち	1	堤防	1						
専門学校	3							安東県	1	鉄道	1						
団成社	3							奉天	1	電線	1						
石油会社	3							アレデ(台)	1	京元線	1						
劇場	3							開城	1	光化門	1						
農家	3							峴底洞	1	京仁街通	1						
郵便局	3							三角町	1	京仁線	1						
公用便所	3							全羅道	1	屍橋門	1						
練馬屋	2							三清洞	1	共同水道	1						
幼稚園	2							三南	1	動物園	1						
専売局	2							笠井町	1	倭城公園	1						
南廟	2							忠清道	1	教義門	1						
質屋	2							積善洞	1	埴頭	1						
鐘閣	2							黄土峴	1	港	1						
遊藝事務所	2							溫陽	1	むしろ塀	1						
電気商會	2							月尾島	1	郵便箱	1						
洋服店	2							南鮮	1	義州通	1						
学校	2							五丁目	1								
梧柳莊	2							長橋町	2								
朝鮮帽子店	2							忠清北道	1								
賣家	2							京畿道	1								
局屋	2							清涼里	1								
セブランス	2							永登浦	1								
当局	2																
自動車部	2																
住宅	1																
京城駅	1																
官家	1																
肉屋	1																
淑明学校	1																
不動産屋	1																
婦人病院	1																
神井館	1																
検事局	1																
美容院	1																
結婚式場	1																
西洋戦屋	1																
小売場	1																
科学館	1																
殖産銀行	1																
銀行	1																
丁子屋百貨店	1																
眼科	1																
自転車屋	1																
新聞社	1																
青年会館	1																
放送局	1																
タバコ会社	1																
道場	1																
よろず屋	1																
梨花	1																
京城府庁	1																
私立大学	1																
飲食店	1																
銭湯	1																
洗濯屋	1																
東閣	1																
色酒家	1																
建物(和信)	1																
府庁	1																
倉庫	1																

表 3-6 『小説家仇甫氏の日』における建築用語と出現頻度

建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
33 種 (31.8%)		10 種 (5.76%)		17 種 (9.22%)		8 種 (8.06%)		20 種 (9.22%)		26 種 (20.51%)		1 種 (1.38%)		6 種 (8.06%)		19 種 (5.99%)	
家	25	部屋	12	門	9	テーブル	17	東京	8	街	25	金鉱 (金山)	3	電車	18	田舎	5
喫茶店	21	待合室	2	戸	7	いす	9	ソウル	6	道	8	鉱山	1	車	10	都会	2
カフェ	8	層	2	柱	3	机	2	朝鮮	4	鍾路	5	川辺	1	自転車	3	黄金狂時代	2
茶寮	6	屋上	2	床	3	時計	2	清涼里	3	大通り	5	自然	1	自動車	2	時代	2
和親商会	3	板の間	2	カウンタ	3	電話	2	銀座	3	路地	5			列車	1	家庭	1
病院	3	奥の間	1	昇降機	2	ミシン	1	聖園町	2	舗道	5			手車	1	眼科再来	1
小学校	3	研究室	1	天井板	2	蓄音機	1	城北洞	1	十字路	4					世の中	1
中学校	3	便所	1	窓	2	鏡	1	若草町	1	鶴路	3					電車課	1
保険会社	2	閲覧室	1	ドア	1			観水洞	1	安全地帯	3					郊外	1
京城駅	2	玄関	1	囲炉裏	1			町	1	東大門	3					改築	1
百貨店	2			大漢門	1			長谷川町	1	電車道	3					区画	1
食堂	2			洋紙	1			西小門町	1	廣通橋	2					鉱務課	1
高校	2			セメント	1			月尾島	1	橋	2					鉱区	1
朝鮮銀行	2			改札口	1			神田区	1	葵忠壇	1					市内	1
旅舎	2			板	1			神保町	1	漢江橋	1					社会部	1
鍾路署	2			光化門	1			牛込区	1	太平通	1					キリスト教	1
新聞社	2			ドア	1			矢来町	1	南大門	1					都市	1
武蔵野館	2							黄土峯	1	港	1					野外	1
大学	2							黄金町	1	日比谷公園	1					居所	1
総督府病院	1							我が国	1	公園	1						
京城運動場	1									光化門通	1						
朝鮮ホテル	1									夜市場	1						
京城郵便局	1									街路樹	1						
総督府庁舎	1									広場	1						
鉱務所	1									遊園地	1						
会社	1									昌慶苑	1						
官庁	1																
質屋	1																
店舗	1																
駅	1																
洋服店	1																
社	1																
道庁	1																
通信局	1																
金物屋	1																
大学	1																
寮	1																
新潮社	1																
別荘	1																
学校	1																
雑誌社	1																
宗廟	1																
訓練院	1																
府庁	1																
宮殿	1																
骨董屋	1																
店	1																
貸本屋	1																
古物商	1																
売店	1																
建物	1																
鐘園	1																
居酒屋	1																

表 3-7 「李箱」の短編小説における建築用語と出現頻度

翼																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
4種 (8.19%)	7種 (13.6%)	13種 (18.97%)	6種 (12.50%)	1種 (0.43%)	8種 (12.93%)	2種 (0.86%)	1種 (0.43%)	9種 (12.07%)									
家	12	部屋	6	障子	18	貯金箱	13	フランス	1	街	14	小川	1	自動車	1	世帯	10
京城駅	4	便所	4	門	9	化粧台	5			番地	6	山	1			世の中	8
ディールーム	2	庭	2	窓	4	時計	4			道	4					地球	3
三越	1	ホール	2	壁	3	金庫	3			ベンチ	2					社会	2
		待合室	1	天井	2	電灯	3			遊郭	1					模型	1
		屋上	1	戸	1	お膳	1			時計	1					ディテール	1
		ボックス	1	屋根	1					大通り	1					異国	1
				焚き口	1					サイレン	1					地域	1
				柱	1											空間	1
				敷居	1												
				ガラス	1												
				鋼鉄	1												
				大理石	1												

蜘蛛會家

建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
14種 (18.56%)	8種 (12.13%)	10種 (20.96%)	8種 (8.38%)	3種 (4.19%)	7種 (5.99%)	6種 (7.19%)	3種 (2.40%)	6種 (7.19%)									
取引所	7	部屋	7	戸	9	たんす	4	仁川	5	道	4	海	4	船	2	世の中	7
カフェ	7	事務室	2	階段	6	電話	3	京城	1	高道	1	芝生	3	馬車	1	洞窟	1
会館	4	貸し間	2	壁	6	電灯	2	月尾島	1	堤防	1	海岸	2	京仁列車	1	無尽蔵	1
警察署	3	3層	2	窓	5	番音機	1			港	1	干潟	1			家庭	1
喫茶店	1	ホール	1	帳場	3	ラジオ	1			路地	1	川	1			坂場	1
バー	1	留置場	1	ガラス	2	水櫃	1			番地	1	山	1			調査部	1
旅行会社	1	庭	1	障子	1	コンロ	1			社稷公園	1						
質屋	1	宿直室	1	テント	1	いす	1										
お宅	1			床	1												
ビル	1			下水口	1												
店(取引)	1																
工場	1																
家	1																
しきしま	1																

童骸

建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
11種 (32.95%)	3種 (9.28%)	9種 (18.56%)	2種 (2.06%)	2種 (2.06%)	5種 (10.31%)	2種 (2.06%)	5種 (11.34%)	8種 (11.34%)									
喫茶店	3	部屋	7	窓	4	いす	1	チベット	1	道	5	森林	1	飛行機	4	郊外	3
家	7	事務室	1	戸	4	電灯	1	西道(北朝鮮)	1	車道	2	野原	1	自動車	3	社会	2
映画館	4	庭	1	障子	2					安全地帯	1			車輪	2	中立地帯	1
理髪店	3			水道	2					沿線	1			列車	1	地上	1
団成社	2			門	2					共同墓地	1			熱気球	1	外国	1
銀行	2			ポンプ	1											世の中	1
牧場	2			壁	1											洞窟	1
学校	1			敷居	1											モダン	1
バー	1			スクリーン	1												
小駅	1																
ギャラリー	1																

失花

建物	語数	7部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
12種 (22.73%)	1種 (20.00%)	1種 (0.91%)	4種 (6.36%)	12種 (22.73%)	11種 (16.36%)	3種 (2.73%)	0種 (0%)	8種 (8.18%)									
ビル	4	部屋	14	プラットフォーム	1	時計	2	東京	4	鈴蘭通り	3	山	1			市内	2
飲亭	4	事務室	3			机	2	神保町	3	東小門	2	海洋	1			明治維新	1
学校	2	WC	1			長いす	2	新宿	3	街路	2	海峡	1			世界	1
NOVA	2	2層	1			お膳	1	朝鮮	2	灯	2					異国	1
旅館	1	屋上	1					ロンドン	2	アスファルト	2					世の中	1
和親商会	1	監房	1					英京	2	街	2					故郷	1
NAUKA社	1	物置場	1					フランス	2	夜市場	1					英文科	1
百貨店	1							仁川	1	南大門通	1					郊外	1
家	1							神田区	1	歩道橋	1						
法政大学	1							マンハッタン	1	京元線	1						
常設館	1							ソウル	1	大通り	1						
一高	1							町	1								
待合茶屋	1																
新宿駅	1																
EMPRESS	1																
女子高	1																
変電所	1																

逢別記

建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
3種 (39.55%)	4種 (20.45%)	2種 (6.82%)	2種 (6.82%)	5種 (15.91%)	1種 (2.27%)	3種 (6.82%)	1種 (2.27%)	4種 (9.09%)									
家	3	部屋	5	設備	2	お膳	2	ソウル	3	停留所	1	温泉	1	バス	1	新聞聖地	1
旅館	3	湯湯	2	戸	1	灯	1	フランス	1			小川	1			天国	1
宿所	2	庭	1					東京	1			冠彦山	1			家庭	1
あずまや	1	便所	1					果川	1							世の中	1
学校	1							寧邊	1								

3-2-1-2 舞台の抽出と分析

本節では抽出した舞台に対してその記述度があらわす空間位相と実際の位置を分析し、全体の舞台構造や場所性を明らかにすることを目的とする。全作品において、高頻度の建築用語が、語り手の居場所や物語の葛藤が起こる舞台としてあらわれている。特に、様々な「家」が多く出現し、当時の生活様子をあらわした。

3-2-1-2-1 舞台記述度と空間位相

舞台記述度は舞台の出現頻度とその舞台で現れる建築用語により、文学内の舞台が持つ空間としての位相・重要さをあらわす指標で、舞台の位相が高いということは空間を表現する作家の建築的意識が高いことである。言い換えれば、他の空間または現在空間（舞台）と密接な関係を持つ重要な役割を果たしているといえるだろう。物語の中の意味ある場所とは区別する。

・舞台1の記述度＝舞台1の場面数／（舞台総箇所）×（舞台1の総用語数）／（総用語数）×100

・舞台平均記述度＝{舞台位相度の合計（Σ各舞台の位相度）}／（舞台総箇所）

『川辺風景』の出現舞台と位相度を表3-8に示す。

「川辺」の記述度が他の舞台より極めて目立つ。その次に「理髪店」「ソウルの街」「きみこの家」「漢方薬局の家」「平和カフェ」の順で記述度が高かった。川辺を中心に主な登場人物の居場所である理髪店・きみこの家・漢方薬局の家・平和カフェが物語の重要な空間として全体舞台の構造を形成していることが分かる。用語では高い頻度で意識されている「履物屋の家」が実際の舞台では登場しないことは、時代の流れに逆らう履物屋の経営によって家が没落したからであり、激しく変わる近代社会の一面をあらわしている。また、「選挙事務所」「取引所」や「ボクシングジム」「理髪店」「洋服店」から、政治と経済だけではなくスポーツや生活上など、社会全般に近代化が進んでいたことが分かる。また、「中華料理屋」「三越の屋上」「うどん屋」「饅頭屋」「玉突屋」は、当時の韓国に影響を及ぼした周辺国の文化が都市の一部としてしみ込まれていたことをあらわす。

表 3-8 『川辺の風景』における出現舞台と記述度

建物・外	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度
建物 (27箇所)	住居 (12箇所)	44	768	きみこの家	10	116	1.113
				漢方薬局の家	9	137	1.183
				主事の愛人家	5	86	0.413
				イブニの家	4	158	0.607
				花子夫の家	3	49	0.141
				下宿屋	3	157	0.452
				主事の家	3	34	0.098
				リョンの家	2	10	0.019
				麻雀の家	2	7	0.013
				イブニ夫の家	1	8	0.008
				洋薬局の宿所部屋	1	1	0.004
				漢方薬局嫁の実家	1	2	0.002
	公共 (3箇所)	5	50	漢方薬局	3	19	0.055
				花子夫の薬局	1	17	0.017
				選挙事務所	1	14	0.013
	産業 (12箇所)	35	805	理髪店	13	273	4.679
				平和カフェ	7	143	0.961
				クナ食堂（居酒屋）	2	77	0.148
				玉突屋	2	54	0.104
				和親商会	2	48	0.092
				中華料理屋	2	13	0.025
				うどん屋	1	38	0.036
				カキ氷の店	1	28	0.027
				饅頭の店	1	5	0.005
				おかずの店	1	2	0.002
				ボクシングジム	1	2	0.002
				建築現場	2	20	0.038
建物外 (13箇所)	都市・国 (9箇所)	53	938	川辺（街）	33	720	23.119
				ソウルの街	11	133	1.404
				ソウル	3	27	0.078
				釜山	1	24	0.023
				夜市場	1	9	0.009
				路地（きみこの家）	1	4	0.004
				黄土岬	1	4	0.004
				田舎	1	4	0.004
				公園	1	3	0.003
	交通 (2箇所)	2	23	汽車	1	18	0.017
				自動車	1	5	0.005
	不明 (2箇所)	3	21	不明	2	16	0.031
				夢	1	5	0.005
合計	40箇所	142	2605	平均位相度=0.874			

『小説家仇甫氏の一日』の出現舞台と位相度を表 3-9 に示す。

表 3-9 『小説家仇甫氏の一日』における出現舞台と記述度

建物・外	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度
建物 (14箇所)	住居 (4箇所)	5	41	主人公の家	2	32	0.82
				初恋の家	1	6	0.076
				親戚の家	1	2	0.025
				友達の家	1	1	0.014
	公共 (2箇所)	2	37	京城駅	1	36	0.461
				病院	1	1	0.011
	産業 (8箇所)	12	97	喫茶店	3	49	1.882
				カフェ	2	16	0.41
				茶寮	2	5	0.129
				東京の喫茶店	1	9	0.115
				和信（百貨店）	1	6	0.076
				洋服店	1	5	0.065
				飲食店	1	4	0.051
				骨董屋	1	3	0.039
建物外 (4箇所)	都市・国 (3箇所)	47	216	ソウルの街	16	216	16.323
				日比野公園	1	5	0.065
				東京の街	1	1	0.014
	交通 (1箇所)	1	43	電車	1	43	0.551
合計	18箇所	37	434	平均位相度=2.507			

『小説家仇甫氏の一日』は「ソウルの街」が際立つ。「喫茶店」「主人公の家」「電車」「京城駅」が順番に高い位相を占めていることで、ソウルの街を中心に喫茶店・主人公の家・電車が舞台として主な役割を果たしているといえる。しかし、主人公が1日中ソウルを散歩する物語であるため、全体構造はソウルという近代都市に集約される。舞台記述度を通して、カフェより出現場面数が少ない電車や京城駅が文学の中で空間と密接な関係がある、重要な舞台であることを見出せた。

「李箱」の作品における出現舞台と位相度を表3-10に示す。

表 3-10 「李箱」作品における出現舞台と記述度

作品	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度
翼	住居	18	140	主人公の部屋	8	79	30.258
				主人公の家	6	34	9.777
				妻の部屋	4	27	5.172
	公共	2	4	京城駅	2	14	1.341
	産業	1	5	三越の屋上	1	5	0.239
	都市・国	7	68	三十三番地	1	34	1.628
				ソウルの街	5	23	5.508
				山の道	1	11	0.527
	不明	1	5	不明	1	5	0.239
合計	9箇所	29	232	平均位相度=6.077			
蜘蛛會家	住居	7	61	主人公の家	6	58	18.944
				友人の家	1	3	0.163
	公共	1	7	警察署	1	7	0.381
	産業	6	67	A取引所	2	27	2.94
				K取引所	1	15	0.817
				居酒屋	1	12	0.653
				Rカフェ	1	11	0.599
				喫茶店	1	2	0.109
	都市・国	5	32	ソウルの街	3	17	2.776
				海辺の芝生	1	12	0.653
				公園	1	3	0.163
合計	11箇所	19	167	平均位相度=2.563			
龍骸	住居	5	39	新婚の部屋	2	14	2.887
				新婚の家	2	11	2.268
				ユシの家	1	14	1.443
	産業	3	18	バー	1	12	1.237
				ギャラリー	1	4	0.412
				ユシの事務室	1	2	0.206
	都市・国	4	32	ソウルの街	2	20	4.124
				ソウルの郊外	2	12	2.474
	不明	2	8	不明	1	7	0.722
				夢(理髪店)	1	1	0.103
合計	10箇所	14	97	平均位相度=1.588			
矢花	住居	8	42	Cさんの部屋(東京)	3	20	4.545
				ヨ二の部屋	2	16	3.636
				東京の部屋	1	4	0.303
				友人の家	1	2	0.152
	公共	2	5	新宿駅	1	4	0.303
				ヨ二の大学	1	1	0.076
	産業	3	20	居酒屋(東京)	2	16	2.424
				喫茶店(東京)	1	4	0.303
	都市・国	4	39	ソウルの街	2	12	1.818
				鈴蘭通(東京)	1	20	1.515
				ソウルの郊外	1	7	0.53
	不明	2	4	不明(ソウル)	2	1	0.606
合計	12箇所	19	110	平均位相度=1.351			
逢別記	住居	4	18	ヨ二妹の家	1	7	1.989
				家(ヨ二と同居)	1	6	1.705
				主人公の実家	1	4	1.136
				P君の家	1	1	0.284
	産業	4	23	温泉旅館	2	15	8.523
				妓生科亭	1	4	1.136
				居酒屋	1	4	1.136
	都市・国	1	3	温泉村	1	3	0.852
合計	8箇所	9	44	平均位相度=2.095			

李箱の作品は建築用語の結果にもつながるように、ほとんど主人公の部屋または家の記述度が高かった。特に、他の舞台とその差が際立つ『翼』と『蜘蛛會家』では、主人公の部屋または家の記述度が他の舞台より低い、もしくはその差があまりない『童骸』『失花』『逢別記』に比べて、主人公が外部からのシェルターとして自分の空間に執着する傾向が見られる。

留学と看病のために日本を経験した朴泰遠と李箱は、「日比野公園」「新宿駅」「鈴蘭通」など、日本の具体的な場所を舞台としてあらわしている。特に『小説家仇甫氏の日』と『失花』では、高頻度の建築用語である東京が主な舞台として登場していることが目立つ。

3-2-1-2-2 出現舞台の位置



図 3-1 全作品における舞台の出現場所（ソウル）

両作家の作品に登場する舞台の位置を、今のソウルを中心に調べる。その結果を図 3-1 に示し、その場所もしくは地域の特徴を探る。点線は 1943 年に設置された 7 つの区（黒い線）を基として作成したその当時のソウルの領域境界線を、鐘路区にある黒い点は朝鮮王朝時代の宮殿の位置を表す。

全作品を通して現在ソウルでの出現位置をソウルの地図で表記した結果、ほとんどの舞台が鐘路区と中区に現れた。特に、鐘路・南大門通り、光化門通り・黄金町・南村・鐘路の夜市場、京城府庁・総督府庁舎・殖産銀行・朝鮮銀行・京城駅・鍾路署・京城郵便局、団成社・和信商会・丁子屋百貨店・三越百貨店など主な都市施設・地名・建物も 2 つの区に位置され、当時の都市化がその地域内に集中していたことが分かる。また、近代以前のソウルは鐘路区と中区の間に流れている清溪川を基準として北の方（鐘路区の宮殿の周り）の上流層地域、南の方（中区）の庶民層地域に両分されていた。しかし、植民地時代に明治町（明洞）と本町（忠武路一帯）を中心とした中区に日本人居住地が形成されてから、北と南は階級から民族による住み分けに変わり、特

に、元々庶民地域であった南の方である中区が新しい経済圏として変化した様相が目立つ。

1930年代におけるソウルは朝鮮王朝の「漢城」より4倍近く拡大していたものの、都心部として描写されている地域が鐘路区から中区という、旧封建制社会の範囲内に収まっていることが分かる。

各作品の舞台位置を表3-11～3-13に示す。

表 3-11 『川辺の風景』における主な舞台と出現位置

出現舞台	現在の具体的な位置（場所）
漢方薬局の家	ソウル鐘路区・中区 （清溪川の周辺）
主事の家	
イブニの家	
下宿屋（旧麗物屋の家）	
花子夫の家	ソウル中区（茶屋町）
きみこの家	ソウル中区（水標町）
主事の愛人家	ソウル鐘路区（貫鉄洞）
漢方薬局線の実家	ソウル鐘路区（社稷洞）
イブニ夫の家	ソウル外（田舎）
花子夫の洋薬局	ソウル中区（銅岾）
クナ食堂（居酒屋）	ソウル鐘路区（貫鉄洞）
理髪店	ソウル鐘路区・中区 （清溪川の周辺）
平和カフェ	
玉突屋	
和信商会	ソウル鐘路区（鐘路）
饅頭の店	ソウル中区（南村（南山））
建築現場	不明
川辺（街）	ソウル鐘路区・中区（清溪川）
ソウル（街）	ソウル鐘路区・中区 （鐘路、貫鉄洞、茶屋町、水標町、 瑞麟洞、武橋町、銅岾、阿岾、泥 岾、三角町、三清洞、黄土岾）

表 3-12 『小説家仇甫氏の一日』における主な舞台と出現位置

出現舞台	現在の具体的な位置（場所）
クボ氏の家	ソウル中区（清溪川周辺）
初恋の家	ソウル鐘路区（観水洞）
京城駅	ソウル中区
喫茶店	
カフェ	ソウル鐘路区（楽園町）
茶寮	ソウル鐘路区
和信（百貨店）	
ソウル（街）	ソウル鐘路区・中区 （清溪川、鐘路、朝鮮銀行、ソウ ル駅、黄土岾、光化門通、黄金町、 楽園町）
喫茶店（東京）	東京
日比野公園	

表 3-13 「李箱」の短編小説における主な舞台と出現位置

作品	出現舞台	現在の具体的な位置（場所）
翼	主人公の家	ソウル（中区）
	京城駅	
	三越の屋上	
	ソウル（街）	
蜘蛛會系	主人公の家	ソウル（中区・明洞）
	警察署	
	A取引所	
	Rカフェ	
	仁川	韓国・仁川市
矢花	ヨコの部屋	ソウル
	Cさんの部屋	東京
	東京の部屋	
	新宿駅	東京新宿区
	NOWビヤホール	
	ソウル（街）	ソウル中区（南大門通り）
童骸	東京	東京新宿・鈴蘭通り
	新婚の家	ソウル（城北区） （当時のソウルから近い郊外）
	ユンの家	ソウル（鐘路区）
	バー	ソウル鐘路区
	ギャラリー	
	ソウル（街）	
達別記	ユンの事務室	不明
	家（ヨコと同居）	ソウル
	ヨコ妹の家	
	主人公の実家	
	居酒屋	不明（温泉村）
	温泉旅館	
	妓生料亭	

3-2-2 用途別空間における構成キーワード

舞台とそこで現れる建築用語を用途別にまとめて空間別の構成キーワードから1930年代の建築と都市の特徴を探ることを目的とする。

住居空間では都市（ソウル）や田舎にかかわらず、韓国式家屋が多くあらわれている。全作品に登場する住居空間の類型を表3-14に表す。

表 3-14 全作品に登場する住居空間の類型

類型		描写特徴	居住人	備考
伝統韓屋		朝鮮王朝時代における上流層家屋の平面構成を持つ（第一・第二の客間）	富裕層	旧式
都市型韓屋	基本構造	母屋と離れ屋（門屋）の平面構成	中産層 （庶民：門屋）	新式
	変化	近代式改良型（浴室や設備中心）		
		集合住宅の形態を持つ賃貸型（離れ屋を母屋の構造または貸間専用に改築）	庶民	

1930年代におけるソウルの住居空間は伝統韓国家屋（以下伝統韓屋^{注2)}）と都市型韓国家屋（以下都市型韓屋^{注3)}）に分けられ、描写特徴により4つのタイプを見出すことができた。伝統韓屋（瓦屋根の家）の平面構造は富裕層の場合、基本的に母屋（奥の間と板の間：アンパンとマル）・庭（マダン）・客間（サランパン）・門屋（または門脇部屋）・中門・表門で構成されている。比較対象として1820年代のソウルにおける富裕層の住宅平面を図3-2に示す。

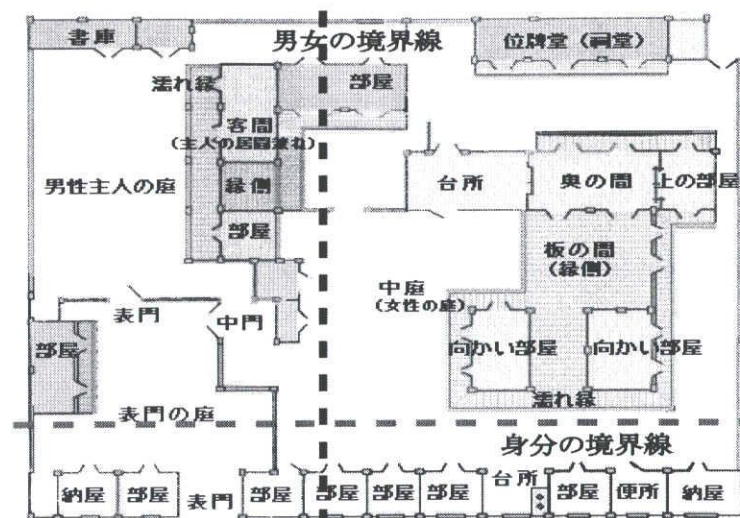


図 3-2 1820 年代ソウルにおける伝統韓屋の平面^{注4)}

家の平面構成から「客間（サランパン）」が象徴する男性の領域と「中庭」「奥の間（アンパン）」が象徴する女性の領域を分ける境界線と、身分による境界線が見られる。

文学の中で描写された事例を対象として分析するため、結果の内容を一般化することにはある程度の限界があるが、富裕層の伝統韓屋では男女の序という儒教の影響が空間だけではなく生活上まで強く現れた。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

客間（サラン）というところは花子とか、女が近づく場所ではないので、

ほとんど舅とは…顔さえ見る機会がなかった。『川辺風景』335p.

中産層の都市型韓屋（基本構造）では、富裕層の住居空間に対する描写に比べて男女の境界より、「母屋」を中心とする主人の領域と「門脇部屋」を中心とする手伝いさん（奉公人）の領域の描写が多くあらわれた。伝統韓屋に比べて、都市型韓屋における空間構造で男性を象徴する領域性の変化が起こっていることが分かる。しかし、封建制社会の階級意識はまだ残っていると考えられる。比較対象として1930年代の都市型韓屋の平面を図3-3に示す。

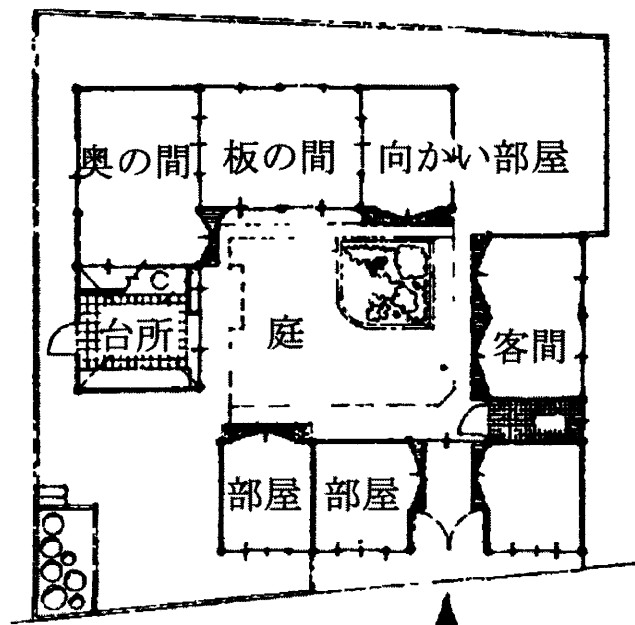


図 3-3 1930 年代ソウルにおける都市型韓屋の平面^{注5)}

1930 年代の都市型韓屋は 1820 年代の伝統韓屋に比較して平面がよりコンパクトさ

れている。特に、客間が象徴する男性の領域性が弱化していることが見られ、都市型韓屋の空間構造で男性の領域性の変化を裏付けている。これは、客間の機能が奥の間（母屋）に併合または変更されたため、儒教での＜男女有別＞による空間構成の経済性が低いことをあらわしている。また、門屋の規模は縮小しているものの、母屋との境界線が残っていることが分かる。その平面構造の変化を図3-4に示す。富裕層の伝統韓屋（瓦屋根の家）に比べて男女の境界線がなくなり、母屋と門屋の区分も身分から世帯に変わっていることが分かる。

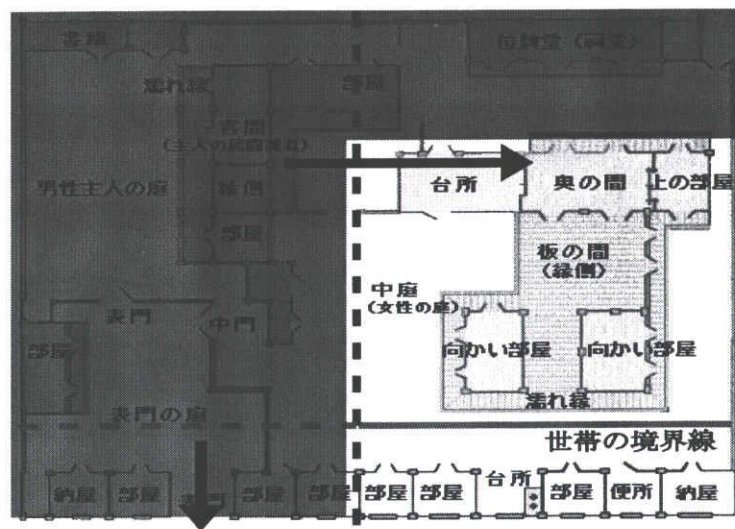


図3-4 都市型韓屋の平面構造^{注4)}

これまでの分析結果から、韓国における住居空間では儒教的秩序が衰退し、新たな価値として資本が浮上しているといえる。

『川辺風景』で「下宿屋」に変わった履物屋の家、同じ敷地内での別の世帯を指す「後ろの家」や『翼』での「十八世帯」など、庶民の住居空間では1920～1930年代の京城府において、近代化による急激な人口増加^{注6)}とそれに伴う住宅不足率（1935年22.46%）^{注7)}に対応するための家の変貌が見られ、都市型韓屋が集合住宅を表象する形態に変化していることが分かる。特に、『翼』では1つの番地で十八世帯が住んでいる様子を、「遊郭」「同様の窓と戸」に表現していることから、資本主義による性の商品化とともに、画一化していく建築の一面をあらわしているといえる。また、「下屋」と「トタン葺き」など、経済性に応じる家の変貌も見られる。『小説家仇甫氏の一日』での改築した家（初恋の家）は、設備中心の近代式改良型の住宅を意味すると考える。

公共・産業空間は都市空間とともに分析する。作品に登場する都市空間はソウルとソウル外（韓国）、東京に分けられる。

ソウルでは「清溪川」の周辺と鐘路（通り）・明洞の一带、ソウル外では釜山・仁川が主に描かれている。清溪川と鐘路（通り）・明洞の一带を図3-5と3-6に示す。



図 3-5 1937 年京城（ソウル）における北の村^{注9）}



図 3-6 1937 年京城（ソウル）における南の村^{注9）}

1930年代のソウル（京城）という都市空間では、貫鐵洞と茶屋町などの韓国と日本式の地名表記が併用して描かれている。特に、清溪川を基準として、「洞」は六矣廬^{註8)}など朝鮮王朝時代から宮殿を中心に形成されている伝統的な支配階層の居住地である北の方に、「町」は新しく形成された日本人居住地である南の方にあらわされていることから、植民地での明確な住み分けとともに、鐘路と明洞の一带が韓国と日本の居住領域を代表していることが分かる。さらに、植民地内での住み分けの基準となる川の周辺が一般庶民の生活場として多く描写していることから、その地域がどちらでも属さない庶民の居住地として自然に形成されたと考えられる。

ソウルの建物では、宮殿とその付属建物を中心とした歴史的建物と殖産銀行・総督府庁舎・府庁などの植民地期の統治施設、韓国と日本を代表した百貨店である和信商会・丁子屋・三越（百貨店）から時代状況が読み取れる。鉱務所は黄金狂時代と金鉱とともに、当時資本主義によって澎湃した物心崇拜をあらわしている。また、優美館・団成社（映画館）という文化施設とセブランスという医療施設、幼稚園・淑明学校・梨花（女子校）の教育施設、機関としては封建時代から存続してきた妓生組合が目立つ。

また、鐘路区の鐘路・太平通・光化門通と中区に属している銅岬（黄金町通：乙支路）・泥岬（本町通：忠武路2街）・黄土岬（世宗路十字路）の道が、東大門・南大門・東小門（朝鮮王朝時代の城郭の門）とともに、ソウルの重要道路やランドマークとして描かれていることから、ソウルの規模はますます拡張しているものの、近代化あるいは都市を表象する領域は、昔の漢城（朝鮮時代のソウル）の城郭範囲内に集中しているといえる。

その他では、喫茶店から仕事のない若者の無気力な姿（『小説家仇甫氏の日』）と灰色の街（『翼』）、重畳と閉じている番地（『蜘蛛會家』）という、都市化による暗鬱なソウルの風景が描かれ、1930年代における近代社会の裏面をあらわしている。

ソウル外では、仁川と釜山が主にあらわれる。2つの都市は港町として今も重要な都市であるが、仁川は月尾島という休養地として、釜山は關釜連絡船という日本への渡航地として描かれていることが特徴的である。

今までの分析結果をまとめて図 3-7 に示し、ソウルの特徴を述べる。

駅名の中に色づけしている 3 つは、旧社会（朝鮮王朝）の城郭における重要な通行門である。点線の領域は、作品から登場している主な建物・地名・都市施設の位置を示している。

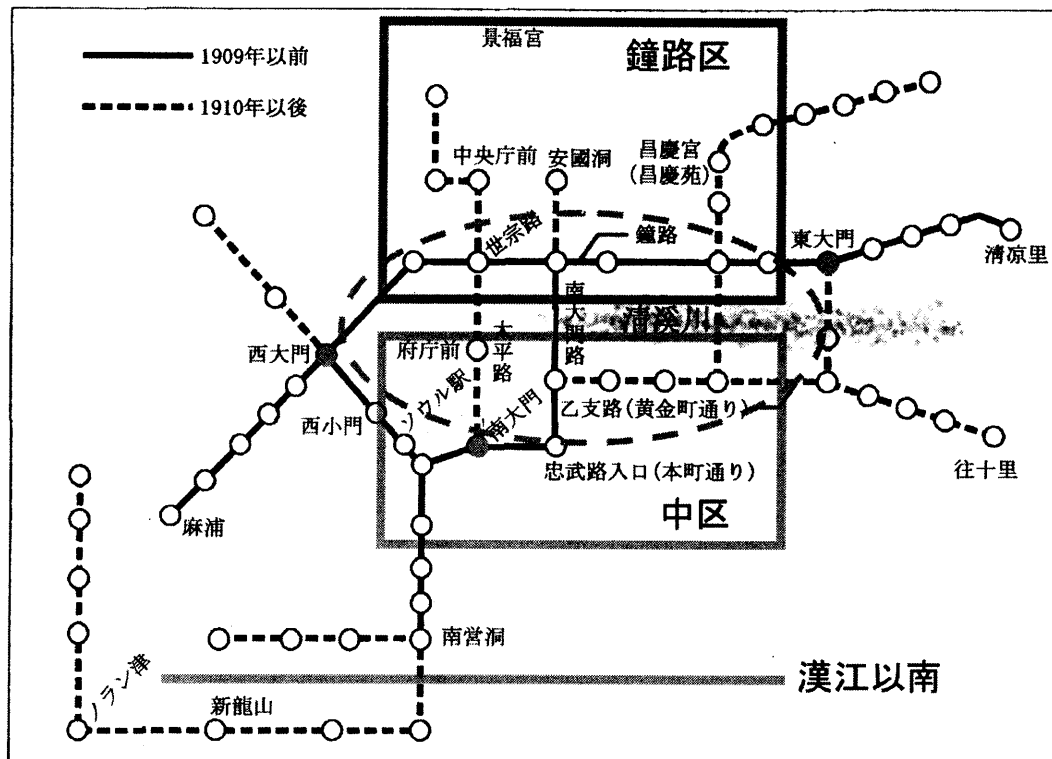


図 3-7 電車路線から見る 1930 年代ソウルの都市構造^{注 10)}

植民地内での住み分けの基準となる川の周辺に、主な建物・都市施設が集まっていることが分かる。また、その地域が庶民の生活場所として多く描写されていることから、川が元々宮殿を中心とした北の上流層地域と南の日本人の居住地域を隔てる境界線となっており、その川の周辺に、どちらでも属さない、庶民の地域が自然に形成されたこと、ソウルの面積は旧社会のソウルより、4 倍近く拡大していますが、当時の近代化あるいは、都市を表象する領域は旧社会の城郭範囲内に集中していることが分かる。

各々の作品における用途別空間の構成キーワードを表 3-15～3-17 に示す。

表 3-15 『川辺の風景』における用途別空間の構成キーワード

用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード				
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他	
住居	韓式家屋	伝統平面構造	金持ちの家（花子夫家）	奥の間、客間、第2客間、夫婦の部屋（向かい部屋）		（富裕層）	ソウル （鍾路区・中区）
			貫鐵洞住宅（主事愛人の家）	板の間、庭、客間	表門、中門		
			母屋・イプニの家（門屋） ＜イプニの家全体＞	奥の間、板の間、向かい部屋、庭、台所（室外）	表門、中門、濡れ縁、障子、水道、焚き口、コンロ、お膳	常住するお手伝いさん（中産層）	
		平面変化	薬局・母屋（漢方薬局の家）	門脇部屋、庭、奥の間、客間、向かい部屋、板の間、台所（室外）、家倉	表門、中門、濡れ縁、雨戸（トタン）		
			きみこの家・後ろの家（家全体の中での1つの棟）	部屋（貸間）、下屋、後の庭、後の部屋	表門、ガラス窓、濡れ縁、障子、コンロ		
			下宿屋（旧服物屋の家：旅館）	部屋（貸間）、家倉、庭、板の間	表門、井戸、障子、壁台	（庶民層）	
		伝統平面構造（ソウル外）	スニ夫の家（農家）	向かい部屋（新婦部屋）、奥の間、板の間、庭、便所（室外）	障子		
公共	医療	選挙事務所、漢方薬局、洋薬局	主人の部屋（客間：漢方薬局）				
産業	商業	カフェ、宝石店（二階建て）、和信商会（百貨店）、中華料理屋、うどん屋、カキ氷の店、饅頭の店	ボックス（平和カフェ）、たたみ部屋（クナ食堂）、食堂（和信商会内）	コンクリートの床（クナ食堂）、階段・廊・4階（和信商会）、電話・テーブル（平和カフェ）	青い窓・赤い窓（平和カフェ）		
	その他	理髪店、玉突屋（建物内二階）、ボクシングジム		ガラス戸（理髪店）			
都市・国・交通	韓国	ソウル	川辺の街	漢方薬局と家、きみこの家、イプニの家、主事の家、リョンの家、理髪店、平和カフェ、下宿屋（服物屋の家）、反物屋、宝石店・玉突屋、カキ氷の店	共同洗濯場、井戸端、木の市場、橋（船橋、廣通橋）	自転車、人力車、共同便所	汚い川
			街	和親商会・丁子屋（百貨店）、殖産銀行、京城駅、京城府庁、専売局、優美館・団成社（映画館）、鐘閣・東閣・南閣（歴史）、JOCK（放送局）、セブランス（病院）、府町・洞、南村、京城、漢城、漢陽、長安、会、妓生組合、芸者料亭、鐘路署、礼拝堂（教会）、動物園（昌慶苑）、鉄の工場、新聞社、タバコの工場、専門学校、幼稚園、淑明学校、梨花（女子校）、結婚式場、昌慶苑、饅頭の店、洋服店、西洋靴屋	鐘路、夜市場（鐘路）、倭城臺公園（南山）、洞・洞、南村、京城、漢城、漢陽、長安、銅峴（黄金町通：乙支路）、泥峴（本町通：忠武路2街）、黄土峴（世宗路十字路）、阿峴（阿峴洞）、清涼里、水使館、往十里	東大門、南大門、光化門、電車、自動車、乗合自動車、アスファルト、南山、尾門（光熙門）、敦義門、敦義門、漢江、電車道、手車、馬車、南山	高くて大きい建物、広いソウル、京城府会の議員選挙、仕上げ部・巻き上げ部（タバコ会社）、六支庫（鐘路にあった朝鮮時代の御用商店）
			路地			共同水道	
			ソウル外	郵便局、新婚の家（想像）、おでん屋、梧柳荘（温泉旅館・現九老区）、神井館（西欧式のホテル・現忠清道）	市場、坤頭、港、京仁街道、京仁線（ソウルと仁川）、京元線（ソウルと元山）、白川（温泉）、月尾島、釜山	金鉾、圖釜連絡船	海峡（韓国と日本の間）、故郷、活動写真（映画）
		その他		ある家・板の間・庭（夢） 新婚の家・郵便局・市場・故郷（想像）	セメントの床（不明：建築現場）	海（日本への家庭生活：想像）	

表 3-16 『小説家仇甫氏の一日』における用途別空間の構成キーワード

用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (廊下・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
住居	韓式家屋	伝統平面構造		息子の部屋、板の間、向かい部屋（兄の夫婦部屋）、奥の間	表門、中門	女の気配がない息子の部屋
		近代式改良型	改築した家			観水洞
公共			京城駅（ソウル駅）	売店、喫茶店、待合室	セメントの床	都会の港（躍動する場所）、孤独な空間
産業	商業		喫茶店、和信商会（百貨店）、洋服店	食堂（百貨店）	昇降機（百貨店）	仕事がない若者の無気力（喫茶店）、食堂に向かう夫婦の幸福（百貨店）
都市・国・交通	韓国	ソウル	和信商会、大学病院（ソウル大）、朝鮮銀行（韓国銀行）、京城駅、府庁、宮殿、總督府庁舎（中央庁一国立博物館一撤去）、洋服店、新聞社、總督府病院、道庁、通信局、鐘路署、保険会社（生命・火災）、朝鮮ホテル、京城郵便局（3階建物）、郵務所、京城運動場（旧訓練院）、昌慶苑	川辺の道、鐘路十字路、町・洞、舗道、府庁前の広場、太平通、黄主岬（世宗路十字路）、光化門通、夜市場、黄金町（乙支路）、樊忠壇、清涼里	電車、自転車、東大門、南大門、手車、安全地帯（電車乗り場）、廣通橋、漢江橋、電車線路	貧弱な宮殿、不潔な古物商、狭いソウル、いやに広い道（光化門通）、黄金狂時代、金鉉
	東京		東京の喫茶店（木の床）、大学、恋人の家（玄関）、新潮社、武蔵野館	東京、神田区神保町、牛込区矢来町、銀座、日比野公園	自動車、電車	

表 3-17 「李箱」の作品における用途空間別の構成キーワード

眞						
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
住居	韓式家屋	平面変化	主人公の家	私の部屋、妻の部屋、使所（室外）、庭	トタン葺き、障子、敷居、表門、焚き口、貯金箱、電灯	三十三番地、十八世帯、遊郭、同様の意と戸、明るい部屋、暗い部屋
		公共	京城駅	待合室、ティールーム、ホール	時計	
	商業	三越百貨店	屋上		世の中	
都市・国・交通	韓国	ソウル	京城駅、三越百貨店		自動車、ガラス、鋼鉄、大理石	灰色の街
蜘蛛會家						
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
住居	韓式家屋		主人公の家	庭、部屋（貸間）	ガラス	箱のような部屋
産業		商業	居酒屋（カフェ）、Rカフェ	三階のホール（Rカフェ）	階段・帳場（Rカフェ）	無尽蔵（カフェ・ガール） 板場（調理師）
都市・国・交通	韓国	ソウル	ビル、取引所	社稷公園		重畳と閉じている番地
		ソウル外		仁川、海岸通り、京仁列車、月尾島		海
失花						
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
都市・国・交通	韓国	ソウル	ヨニ部屋、飲碧亭（料理屋）、NビルS事務室、変電所、和親商会（百貨店）	南大門通り、歩道橋、京元線	東小門、街路灯	舊の街
	東京		Cさんの部屋、私の部屋、NAUKA社、法政大学、一高、待合料理屋、新宿駅	神田区神保町、鈴蘭通り（古本の夜市場）	アスファルト、街路灯	舊の街（英京ロンドン）、異国の子犬
童骸						
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
住居	韓式家屋		母屋（新婚の家）	庭・新婚部屋（貸間）	障子	ソウルの郊外（近い距離）
都市・国・交通		韓国	ソウル	銀行、団成社（映画館）、タイモント（喫茶店）、ギャラリー	車道	安全地帯
		ソウル外	牧場			電灯・水道がない郊外
逢別記						
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
都市・国・交通	韓国	ソウル	主人公の実家（老衰・老朽）		バス、冠岳山（当時は郊外）	
		ソウル外（温泉村）	妓生料亭（庭）、あずまや、温泉旅館		停留所	新聞塾地

参考資料として 1930 年代の代表的建物と街の風景写真を掲載する。



図 3-8 三越百貨店（ソウル中区）



図 3-9 和信百貨店（ソウル鐘路区）

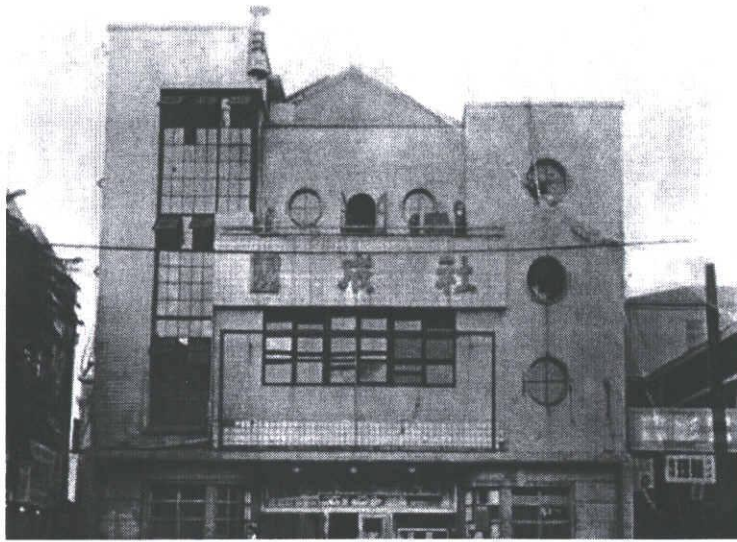


図 3-10 団成社（ソウル鐘路区）

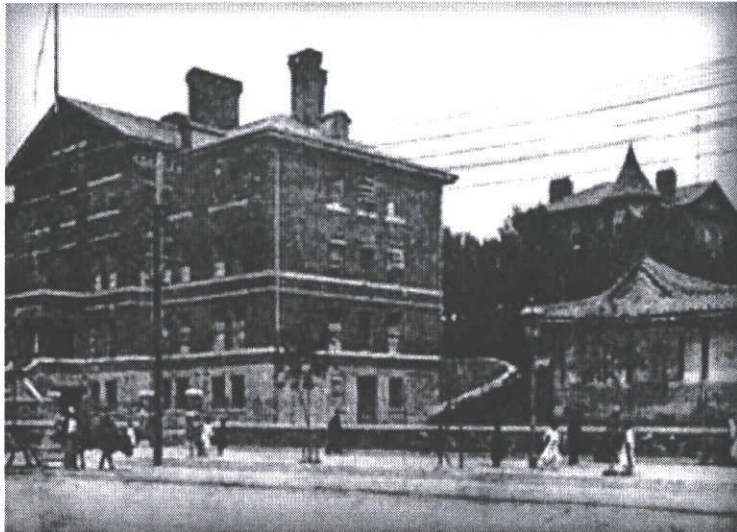


図 3-11 セブラス病院（ソウル中区）

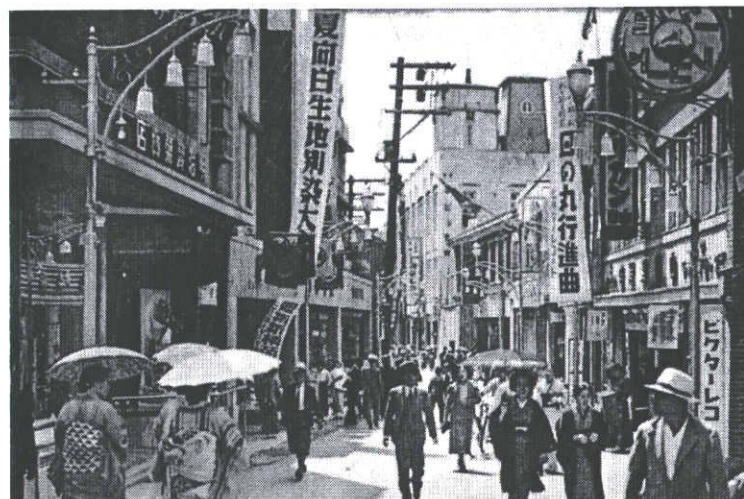
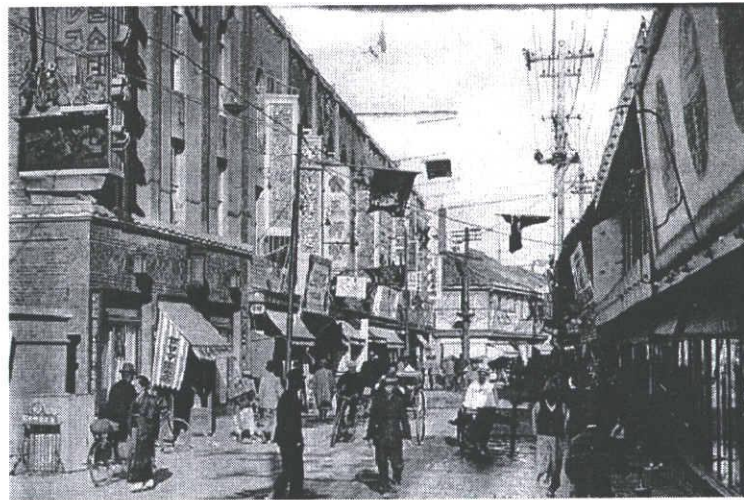


図 3-12 本町（忠武路・ソウル中区、明洞につなぐ道）

3-2-3 空間の属性と意味

文学の中で描写される様々な表現、特に、空間表現要素にかかわる文章と、舞台を性格付けるものとして各物語内での特徴や主な人物を抽出し、舞台ごとに整理して舞台の空間属性を調べる（節末に全作品における舞台別の空間属性を付けた。表 3-18～24）。舞台の用途とともに、空間属性の中でもっとも多く現れた様式（近代式と韓国式）を軸として舞台を位置付け、他の属性を基に舞台構造図を作成して、舞台同士からあらわされる空間の意味と、1930 年代における近代社会の意識構造について考察を行う。図の中で、実線で描いた円形の舞台は高い位相を占めている空間を表す。

朴泰遠の作品における舞台構造図を図 3-13 と 3-14 に示す。

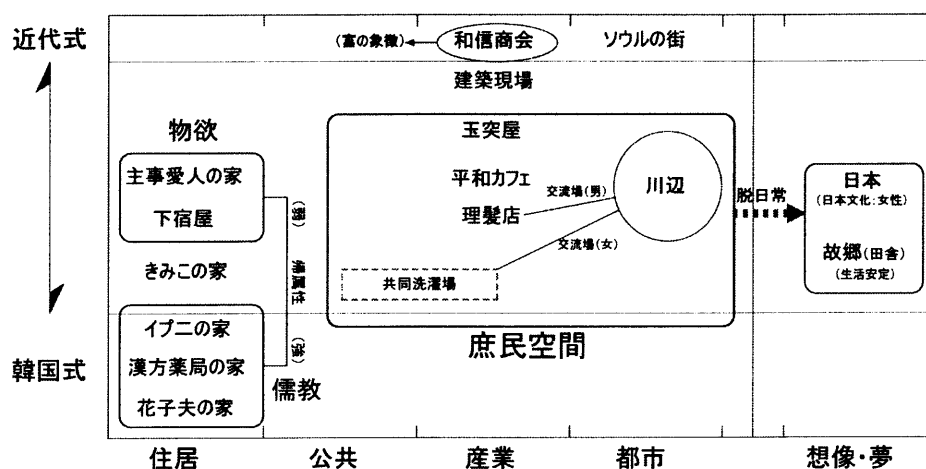


図 3-13 『川辺の風景』における舞台構造図

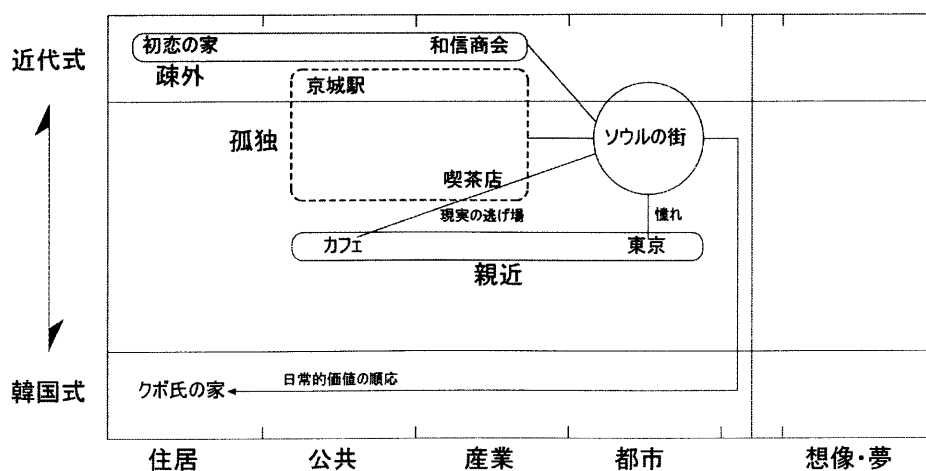


図 3-14 『小説家仇甫氏の日』における舞台構造図

『川辺の風景』では、住居空間の場合、儒教的価値があらわれる家が物欲の家より、空間に対する帰属性が高いこと、その家の様式が韓国式であることが分かる。また、産業施設での庶民が自分の日常空間から逸脱する場所として、日本や故郷を想像する傾向があることが特徴的である。『小説家仇甫氏の日』では、近代式に近い舞台で疎外と孤独が空間性としてあらわれる傾向があることが分かる。また、1930年代の暗鬱な都市の日常から逃げられず、現実に応答して家に回帰する空間構造が特徴である。

李箱の全5作品の中で、発表年度に沿って連続性が見られる4つの作品を図3-16に示す。

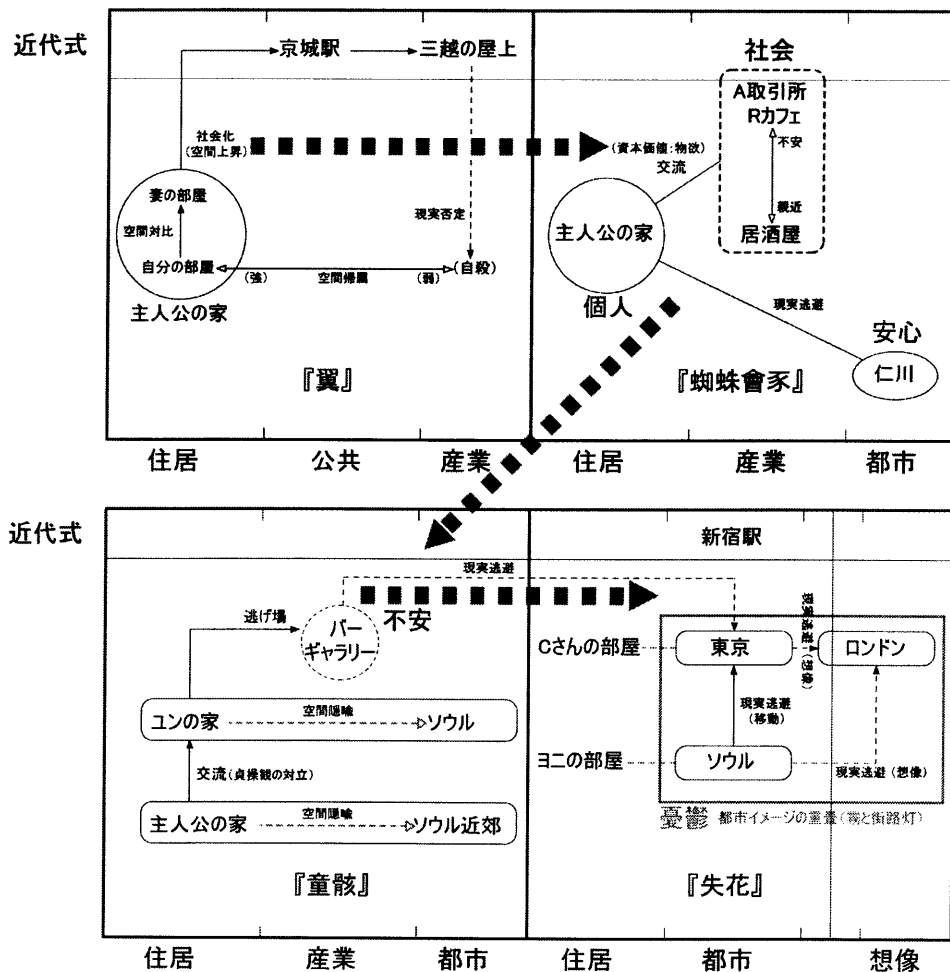


図 3-16 「李箱」の作品における舞台構造図

『翼』から『失花』までの4つの作品は、主な舞台が個人空間である家から社会空間に移り変わることによって、主人公の社会化をあらわしていることが分かる。それ

に伴って、自分の空間に対する強い帰属性があらわれる『翼』での個室（主人公の部屋）と、どこでも定着できない、現実逃避的な彷徨があらわれる『失花』での都市は、個人と社会を象徴する舞台として、対比的な空間構図を形成している。また、この対比は『翼』における主人公の部屋と妻の部屋にもあらわれ、社会性を持つ妻の空間に比べて社会への意識がない主人公の空間の閉鎖性をより強調させるといえる。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

下の部屋はそれでも日当たりがある…日当たりがぜんぜんない上の部屋がいわゆる、

私の部屋であることは間違いない。

『翼』273p.

全作品において、舞台同士の関係からあらわされる空間の意味と、当時の京城（ソウル）を通して近代社会の意識構造を考察した結果、近代式建物、特に産業空間で疎外・孤独、不安という空間情緒が現れた傾向があることや、都市での脱日常的空間として日本・自然が代表的舞台で表れたこと、また、物欲を象徴する舞台と、儒教という反近代的価値を象徴する舞台の空間に対する帰属性が対比的にあらわされていることを明らかにした。1930年代の韓国人は変化・新秩序（資本）が示す近代性と、物理的に都市化したソウル、つまり近代都市に違和感を持っていたことが指摘できる。

重要な空間表現から、上述した以外の空間に対する意味を探る。

『小説家仇甫氏の日』での初恋の家は、近代様式であること以外は特異な属性が見当たらないが、近代式改良型の住宅を意味する〈改築した家〉が幸せをあらわす象徴的な意味を持つことで、相対的に韓国伝統式住居構造が近代的価値に従わない旧時代的なものとして認識されていると考えられる。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

新婚旅行は東京へ、観水洞に夫妻のために改築した家は幸福を保証するようだった。

『小説家仇甫氏の日』76p.

住居空間以外では、『小説家仇甫氏の日』での京城駅（三等車待合室の風景）と喫茶店（仕事のない若者の無気力な姿）や『蜘蛛會豚』での取引所（お金の関係による屈辱的な挨拶）が、近代化する京城（ソウル）の資本階級社会を表象する舞台としてあらわれた。また、『川辺の風景』での川辺は現実を認めて近代に生きる庶民をよく描いている。しかし、川辺に束縛されているほど強い帰属性があらわれたことは、川辺がソウルの中心部で位置しつつ、それに庶民の集団性があらわれる、彼らにとってソ

ウルでの唯一な場所であったためと考えられる。その以外にも川辺は独特な空間像を持っている。地理的にはソウルを中心部に位置しているものの、異なる民族の空間境界を挟んだ周辺空間である。そして、人工的環境（住宅・店）と自然的環境（川と広場：木の市場と洗濯場）が組み合わせている。特に共同洗濯場は、単なる女性の仕事場だけではなく街の情報を交換する場として、日常性と非日常性および公共性と商業性が交差され、川辺という空間に対してさらに、複合的な意味構造を持たせたといえる。他には、『小説家仇甫氏の日』では「貧弱な宮殿」から植民時代の現実を、「不潔な古物商」や「古いソウル」から近代化しているものの、洗練してない都市の様子を隠喩的に描写している。

表 3-18 『川辺の風景』における空間表現と舞台の属性

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
住居	※37 向こう側の漢方薬局の家で若い夫婦が一緒に出かけるのを見て、“とにかく仲がいいね、いつも必ず夫婦連れだね” ※38 東京で卒業したばかりの、漢方薬局の長男が卒業した年の春、梨花を卒業したく新式女性と恋愛しているという噂はまず共同洗濯場の人々を驚かせた。いわゆる頑固な漢方薬局のおじいさんが…どんな意見を出すのが関心事であったから。 38 漢方薬局の中、客の間でお客さんと座っているおじいさんを見つめた。 205 中門の内側にある門脇部屋から上部だけにとびらのあるたんすを…	安定している家の構図・嫁の妊娠	漢方薬局の家・薬局主人(男)	●	—	● ● ● —
	※75 今回の京城府会の議員選挙の前に自分と一緒に出馬するほかの候補者たちの…	府会議員の選挙・愛人の管理	主事の家・主事(男)	—	—	◎ ◎ ◎ —
	61 早い朝から狭い家の中が人々でいっぱいだ。 214 母屋でも目が覚めて板の間に出て座っている大家の奥さんと、庭をはさんで隔てていて…お互いに見詰め合っていた。	イブニの伝統結婚式・娘の心配	イブニの家・イブニ母(女)	●	—	● ● ◎ —
	※14 ゴム靴ができて誰でもみんなが安くて楽なそれだけを履いているから、革の靴が売れるはずがないでしょう？ ※73 もとものと履物店は居酒屋に変わり、また彼らが住んでいた家は下宿屋(旅館)の看板が掲げられた。 ※157 その一日目の日が暮れて…スニはやはり心の中の不安を持たざるを得なかった。 ※176 彼女は下宿主人のお手伝いさんの…同宿人たちの、すべての人々の視線にだんだん負担を感じながら… ※178 いつ自分の部屋に帰るのか分からないことに、あるいは良くない考えを持ってそのようなくだらない話を続けているかもしれない彼の心に…(夜部屋に入る下宿屋の主人) 194 二間くらしい家畜を一間にして新しい部屋を増やして…井戸は何の理由なのか分からないが、埋めてしまい、そこに長いすのようなものを置いて…多分そこが洗面所のような場所だ。	家の改造(家→下宿屋)、だまされて上京したスニの危機	下宿屋(旧履物屋の家)・スニ(女)	◎	—	◎ ◎ ◎ ◎ ◎
	335 客間というところは華子とかそのような女が近づく場所ではないので…ほとんど男とは…顔さえ見る機会はなかった。 ※363 いったいヤンパン(王朝時代の支配階級)ってなんだ？…そんなに体面が重要なら最初からサンノム(身分が低い階級)の家柄と結婚しない方が良かったのに。 400 もう十日間前から中(部屋)で寝ないで必ず第2客間で起居する… 402 決してこの家を出る(離婚)ことなく、いつまでもすべての迫害に戦って…“最後まで我慢しよう。死んでもここで死ぬ”…	不自由でつらい嫁入り暮らし	花子夫の家・花子(女)	●	—	● ● ◎ ◎
	※203 最初からかなり信頼性があるって頼りになる人だと信じていたスニはこれから部屋を借りて一緒に住めることだけでもう心が感動し、また満足していた。 ※270 スニ自分は田舎での厳しい嫁入り暮らしがもう身になれて… ※271 毎日あまり変わらない料理であるものの、それを自分一人で考えて用意し、家族の感想を聞くことがスニには…喜びの1つであった。 273 彼女たちが水標町に住んでいる家には全部4つの世帯が入っているが、元々各自の生活を営むことに適当に作られているから、一つの棟(家)には1.5間の部屋あるいは2.5間の部屋と下屋が1つずつ構成されている。また各々が離れている。	スニの新しい居所(きみこと同居:家事担当&家族への献身)	きみこの家・スニ(女)	◎	◎	● ● ● ●
	※329 彼女は今の貫鉄洞の住宅の、いったいどこが不満だったのか、その家売って桂洞のハウスメーカーが作った家に…引越したい主張を繰り返した。	物欲と性欲の空間(丈夫な青年との浮気)	主事の愛人・愛人(女)	●	—	◎ ◎ ◎ —
		不自由でつらい嫁入り暮らし	イブニ夫の家・イブニ(女)	●	—	— ● ◎ —

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
産業		故郷の友達に だまして店を 売る	クナ食堂・店 の主人(男)	◎	—	◎	◎	—	—
		中産層の男た ちのおしゃべ り空間 (川辺周辺の 人々の生活描 写)	理髪店・幼い 店員(男)	◎	—	●	◎	—	—
	※253 どうせこんなところで働いている身分は…男のめかけ やそのような地位でも断らなく受け止めるつもりだと… 34 夜に至る前、このく平和>という屋号をもっているカフェ の外観は、ほとんどのカフェがそうになっているように、見た 目が良くないし、また、不潔だった。しかも中からもれる光 がないとその赤くて青いガラス窓はもっと俗っぽいに見え た。	女の仕事場	平和カフ ェ・きみこ (女)	◎	◎	◎	●	—	—
	※312 彼女の一生の願いは第一が百貨店の店員で第二がバス ガールである。仕事がない時は…和信商会に行つて一階から 一巡りするのが無視できない、うれしい事務だった。	若い世代の仕 事場	玉突屋・スニ の弟(男)	◎	—	●	●	—	—
	282 百貨店の食堂、そこは元から不幸だったり悲しかったり する人がくるところではない。一日一日を平穏で無事に過ご せる人、ちょっとでも幸せを自ら感じることができた人たち が…決して長い時間を格別に楽しむためには適当ではないこ こを訪ねる。45 鐘路十字路の立派な建物の前に至つて…和信 商会(百貨店)だ。	資本の近代空 間(新婚暮ら しのための買 い物)	和信商会・花 子(女)	◎	●	◎	●	●	●
	299 鐘路からあまり遠く離れてない、南村、ある饅頭屋で働 いていた。	地域色をあら わす舞台	饅頭の店・女 店員	—	—	—	—	—	—
		建築現場(近代 化の一面)	建築現場・ス ニ父(男)	◎	—	●	●	◎	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
都市・国・ 交通	<p>※21 私がイブ二のお母さんにも何度も話したよ。イブ二も寄生組合に入れたらどう？って。するとイブ二の運命も悪くないし、あなたも娘のおかげで今よりもっと楽な生活をすごすことができるよって。しかし、娘を寄生にすることを、何か大きな恥辱なことだと思っているらしいね。</p> <p>※42 少年は服物店を見つめた…この家(店)で新聞を購読してないのも何ヶ月が経っている。</p> <p>47 いくら田舎から初めて上京した少年でも、決して珍しく思えない、きれいに見られないこの川辺の風景が…</p> <p>108 鐘路宝石店の二階に数日前新しくできたドンア倶楽部という王突屋と…漢方薬局の家のトタン戸は外灯1つもない軒の下でうっとうしくてさびしくみえる。</p> <p>161 共同洗濯場ではこの夜中に誰かが洗濯物を洗っている。木の市場の鉄網の前では若者たちが集まっておしゃべりをしている。</p> <p>※168 噂によると、清溪川を覆って蓋をするらしいよ、何か衛生的に悪いって。</p> <p>※173 実は洗濯場の商売って夏の仕事で…</p> <p>232 今日もそのまま雨が降っていた。そうでなくても泥んこになってしまった道を…</p>	共同洗濯場での女たちのおしゃべり(川辺周辺の人々の生活描写)	川辺	●◎ ◎ ● ●◎ ● ●		
	<p>※33 家族を引率して百貨店の食堂に行ってランチを食べる趣味を持っている彼を、実は少年が憎んだり、嘲笑したりする根拠はない。</p> <p>※40 十七・八才くらいの女が三人、足を合わせて南方面の川辺を歩いて降りてくる…専売局の義州通にある工場が終わったのだ。</p> <p>44 少年はついに憧れていたソウルに上京した。清涼里に入って広々としている道を走っている乗り合い自動車の窓の向こうに、少年がはじめて見たのは電車というものだった。</p> <p>45 電車もすごいけど…二階、三階、四階。なぜかすべての家(建物)が高くて、またその上にはなんという看板がひととき目立ってたくさんかかっているのだろう。</p> <p>50 ただ父が<電車>に乗せてくれて、<和信商会>を見物してくれて、また昇降機があるところに連れてくれてその後一緒に家に帰ったらいいと…</p> <p>82 鐘閣の裏側にあるカフェで…</p> <p>※166 最近金の値段がどんどん上がっているそうね。</p> <p>※227 人の子供はソウルへという言葉はもしかしたら至言かもしれない。</p> <p>279 夏の夜、鐘路の夜市場では本当に人も多くて…</p>		ソウル	◎ ● ● ◎ — —		
	<p>323 彼らも1つの希望を持って釜山まで辿り着いた。そして父はその埠頭に朝夕行って港口に出入りする闊釜連絡船をやきもきする目で眺めながら…青い海の向こうに行って生活環境がもっといいところで仕事を探したら…と思った。</p>	日本への密航をはかる	釜山	— — ◎ ◎ ◎ —		
その他	※328 女はそこの女が夫に対する尊敬心が天下一だと言われているんじゃないのか。	想像	日本への理想的な家庭	日本・スニ父(男)	— — ● ● ● ●	
		新婚生活を始める場所	故郷(田舎)・予備夫婦	— — ● — ● ●		

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 3-19 『小説家仇甫氏の日』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
住居	※18 職業と妻をもっていない、26才の息子は老いた母にはすべての種類の心配、不安なものであった。 ※21 小学校しか卒業しなくても高校だけ卒業しても、会社や官庁でよく働いていることを知っている母は、高校を卒業してまた、東京で勉強をしてきた自慢の息子が探しても仕事先が見つからないということがどうしても信じられなかった。 21 中門を開けながらクボ氏は“はい”声を…中門から奥の間まではかなり大きい声が求められた。そして、偶然いつはい開いている表門の前を…	ははの心配(息子の結婚と就職)	クボ氏の家・主人公	●	—	◎	◎	—	—
	31 結婚費用 3000 ウォン、新婚旅行は東京へ。観水洞に、その夫妻のために改築した家は幸せを保証していると思った。	普通の生活上で幸せを感じる友達のお姉さんと自分の幸福基準	初恋の家・主人公	◎	—	—	◎	—	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
公共	39 彼は目の前の京城駅を見る…都会の小説家はすべからず都会の港口と親しくならないと…ただ、クボ氏は孤独を三等待合室の群衆の中で避けられればそれでいい。しかし、むしろ孤独はそこで彼を待っていた…人々でそこはいつぱいだったが、誰にでも人間本来の温情を見つけることができなかった。 41 この時代の無職者はほとんど金鉱のブローカーに間違いない…黄金狂時代…市内に散在している鉱務所。	孤独な風景(田舎の年寄り女を忌避する中産層の男、病を持っている人をさける若い奥さん、金鉱のブローカー)	京城駅・主人公	◎	—	◎	◎	◎	◎
産業	33 喫茶店の午後2時、仕事を持ってない人々がその椅子に座って…彼らはほとんど若者で…その若さにもかかわらず、既に自分たちの人生に疲労感を感じているようだった。 ※33 クボは自分が去った後の変わった東京がみたいと考え…小さいスーツケースを持って京城駅に立つと、もちろん幸せを感じると信じている。それは金銭と時間が与える幸福である。	仕事のない若者の無気力(逃げ場を想像)	喫茶店・主人公	◎	—	◎	◎	◎	◎
	※69 友達は順番に彼女たちの名前を聞いた。彼女たちの名前にはわけ分からないが、みんなくすくすがついていた。それは…時々クボ氏の心が悲しくなるようにする。	友達との酒	カフェ・主人公	◎	—	—	◎	●	—
	24 若い夫婦が4歳くらいの子供を連れて昇降機を待っていた。彼らは食堂に上がつて彼らの軽食を楽しむはずだ…自分たちの幸せを自慢したが気持ちを持っていたかもしれない。	金が与える幸福(価値の尺度)とそれをもてない自分	和信(百貨店)・主人公	◎	—	◎	◎	◎	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
都市・国・交通	※22 クボ氏はついに橋の辺りまで至った…彼はどこに行けばいいかと考えてみる。どこでもすべてが彼の行き先であった。 25 安全地帯の上に立っている人々は電車を待つ…彼らはきっと行き先はあるはずだ。で者が来た…すべての人があの電車に乗ると考えたら、自分ひとりだけそこに残されていることに、寂しさと痛ましさを感じる。クボ氏は動き始めた電車に駆け込んだ。 35 クボ氏は大通りに立って広い庭(府庁前の広場)の向こう側の大韓門を眺める…しかし、その貧弱な、いかにも貧弱な昔の宮殿はやはり人の心を憂鬱にさせることには間違いない。 37 殺風景でごちゃごちゃした太平通の街はクボ氏の心が暗くなるようにする。彼はあの不潔な古物商をどうやったらこの街から追い出せるのか… 39 クボ氏は南大門の内側から外側に出てみようとする。しかし、そこには…3-4 人の背負子の労働者の姿に元気がない。クボ氏は孤独を感じ、人々がいるところに、躍動する群れがいるところにいきたいと思う。 57 ここを出て、しかし、彼らは大通りの上にぼんやりと立っている。やはり狭いソウルであった。東京ならこんな時、クボ氏はまず、金座へでも行く。 59 光化門通、そのいやに広くて寂しいだけの道を歩きながら… 62 この街はいつも夜には往来する人が少なくて、電車は大通りの真ん中を一番遅く走っていた。決して穏やかではないこの街…(光化門通の周辺) ※76 クボ氏は今自分自身の幸せより母の幸せを考えたかったかもしれない…もしかして母が結婚の話をしてクボ氏は簡単に母の欲望を退けないかもしれない。	モデルノロジーと都市の孤独(憂鬱)、母への思いと一般的な生活に順応することを決める(結婚と仕事)	ソウル・主人公	◎	◎	◎	●	◎	—
		昔恋人との思い出	東京・主人公	◎	—	●	—	●	●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 3-20 『翼』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
住居	<p>270 その三十三番地の構造がまるで遊郭と似ていると思う。1つの番地で十八世帯が並んでいて窓と戸がまったく同じで焚き口も同じだ。</p> <p>270 この十八世帯を代表する表門が…一度も閉じたことがない、大通りとまったく同じものである。</p> <p>271 このトタン葺きの屋根の下、日当たりのない地域でどこまででも…</p> <p>272 私はとにかく私の部屋がく家ではない、家はない>気に入った…私の部屋は自分一人のためにこの程度をうまずたゆまず守っているようでいつも私の部屋に感謝した。</p> <p>272 私の心と体に、服のようにびったり合っている部屋の中でのんびりとしているのは幸せかどうかという世俗的な判断とは違つて…絶対的な状態のことだ。</p> <p>273 この部屋が真ん中の障子によって2つに分かれているということが私の運命を象徴していると誰が分かっていたのか?</p> <p>273 下の部屋はそれでも日当たりがある…日当たりがぜんぜんない上の部屋がいわゆる私の部屋であることは間違いない。</p> <p>274 妻の部屋はいつも派手やかである。</p> <p>275 妻が帰る前に私の部屋に戻らなければならない…私の部屋は薄暗い。</p> <p>※276 私には人間社会に気兼ねしている。生活になれていない。すべてが気まずいのだ…明るいまの夜には庭にぼんやりと立ってから部屋に戻ったりする。</p> <p>※277 妻に来客が来たときは一日中私の部屋にいななければならない…そのような日は憂鬱になる。すると妻は私に金をあげて…妻は金庫のような貯金箱を買ってくれた。</p> <p>※280 どうして妻の来客が金をおいていくのか…どうして妻は私に金をあげるのかもやはり私には同じように解けない疑問だった。</p> <p>※280 ある日私はその貯金箱を便所に投げ捨ててしまった。</p> <p>282 私の部屋に入るためには妻の部屋を通らないといけないことを知り…</p>	<p>部屋の構造と私、妻に金をあげて妻の部屋でねる、妻からもらった薬(睡眠薬であることを知る)</p>	主人公の家・主人公	◎	—	● ↓ ◎	—	● ↓ ◎	● ↓ ◎

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性						
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)				
公共	290-1 京城駅の一ニ等待合室の隣にあるティールームにきた。それは私にとって大きな発見だった。そこはまず、誰も知っている人が来ない…一番この時計がどこの時計よりも正確であろうということが気に入った。 ※291 このわびしい客間気が街のティールームの厄介な客間気よりは切実なので気に入った。	時間つぶしのための場所 (社会の中の居場所)	京城駅・主人公	◎	—	—	—	●	●	
産業	298 私は灰色の街を見下ろした。そこには疲労した生活が金魚のようにゆらゆらと揺らいでいた。 299 その時、正午のサイレンが鳴った。人々はみんな鳥のように羽ばたくようで、すべてのガラスと鋼鉄と大理石と紙幣とインクがぐらぐらと沸いて…それこそ衝動を超えた正午である。 ※299 私は急にわきの下がかゆくなる。それは私の人工の翼が生えた跡である…頭の中には希望と野望の抹消したページが…閃いた…翼よ、再び生えろ。	社会を見下ろせる場所 (睡眠薬ということを知り、街をさまよってから辿り着く場所)	三越の屋上・主人公	◎	—	—	—	◎	—	
都市・国・交通	285 私は…5 ウォンの金を誰にでもいいからあげてみたかったのだ…しかし、街はとて複雑で人々に溢れていた。 ※287 妻に金をあげて妻の部屋に寝るのはいいけど、もし、間違って夜12時前に家に入って妻からにらまれたらそれはとても怖いことであつた。	金を置く快感を体験するために街に出る	ソウル・主人公	—	—	◎	◎	◎	—	

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 3-21 『蜘蛛會家』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性						
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)				
住居	213 このミカンの大型の箱のような一部屋の中で何の縁でいつから…	蜘蛛(妻→部屋→私:自分、自分の領域での安心感、事故の合意をして金をもらう)	主人公の家・主人公	—	—	●	—	●	●	
	214 妻は蜘蛛であると彼は信じている…普通は足で踏んで殺すが、靴を履くどころか、立ち上がるさえ面倒くさい…この部屋がそのまま蜘蛛であるはずだ。									
	※219 やつれている妻を吸い込んでいる妻をすい込んでいる蜘蛛が自分自身であると悟れ。私が蜘蛛だ。									
	219-20 とびらを閉めよう…すべての友達から、すべての関係から、すべての希望から、すべての欲望から…ただ、部屋の中だけでは彼は活発に動くことができた。									
	※220 外に来ている世の中、ずっと待っていても彼は出かけない。手のひらのようなガラスを通して歩んでいく歳月を見ることができるだけだった。									
	220 (6 ウォンの貸間)(部屋しかない部屋)(気楽な部屋)									
229 うっとりする洞窟(部屋)										

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)		人間(内面意識)		
産業	※220 彼はここから出すにそのまま自分の部屋に帰ったかった。	友達の事務室(妻の社長と出合い)	A取引所・主人公	◎	—	◎	—	◎	◎
	※225 妻が働いている R カフェではないが、やはり彼は彼の妻と少しでも違うところが発見できない、多すぎくらい彼の妻たちを見て驚いた。 ※225 こちらがまゆみちゃん…黄金の卵をうむガチョウの知っているだろう…いわゆる無尽蔵だよ。 ※228 でも彼と付き合っているのが化粧品や服よりマシですよ…私をすい込んでいる蜘蛛を自分が飼っていることです。	まゆみと出合い(友達と女の関係)	居酒屋・主人公	—	—	—	◎	—	—
		妻の事故(階段から転落)→妻R カフェ・主人公の転落を望む(金)	R カフェ・主人公	◎	—	◎	—	◎	—
都市・国・交通	216 ひげをそって、重畳と閉じている番地から出た…厚い壁がべたべたはっているすべてのビルを見つめることは見るだけで息苦しくなる。	事故の合意による金をもってまゆみにいく	ソウル・主人公	◎	◎	—	◎	—	—
	222 人で溢れる海岸の通り… ※223 彼はその芝生の上で…胸の中でたくらんだことが目に目に1つずつ海に流された。		仁川(海辺)・主人公	●	—	●	●	●	●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 3-22 『失花』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴		出現舞台・中心人物	舞台属性					
					空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
住居	316 Cさんの部屋には菊の花二輪が本当に生き生きしている。	時空間花(女→の併置恋愛)		Cさんの部屋・主人公	—	—	—	—	●	—
	319 菊の花一輪もない部屋を…私はこの醜悪な部屋をもう見なくてもいいのかな…			ヨニの部屋・主人公	—	—	◎	—	◎	◎
	316 この部屋にはもう秋なのに菊の花一輪の飾りもない。			東京の部屋・主人公	—	—	—	—	◎	—
公共	327 しかし午前1時、新宿駅でよろよろしている李箱の服には菊の花が消えうせている。 ※327 私は異国種の子犬である。		失花→失火(記号の遊び:李箱の心の火が消える)	新宿駅・主人公	◎	—	—	—	◎	—
産業	※322 夜でも昼でも監房は暗いという内容はゴリキの悲しい歌。 ※325 20世紀を生活しているのに19世紀の道徳性しかもっていないので私は永遠な足の不自由な人。			NOVA(新宿のピヤホール)・主人公	◎	—	—	—	—	—
都市・国・交通	318 ヨニはNビルから出る前にWCというところをしばらく行かなければならなかった。出るも南大門通りの十五間の大路、GOSTOPの人波。 320 日が暮れるまで…私は10年の長い時間の間、顔を洗うたびに自殺を考え続けてきた…日が暮れた。急がなくちゃ。私はどこか知らない郊外にいる。私はとにかく市内に戻らなければならなかった。市内…街路灯が霧の中で湿っぽくみえる。英京、ロンドンがこういう風景だろう。	ロンドンの街を想像する		ソウル・主人公	◎	—	◎	—	—	●
	321 アスファルトが濡れていた…街路灯も濡れていた…ロンドンがこういう風景だろう。			東京(鈴蘭通り)・主人公	◎	—	◎	—	—	●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 3-23 『童骸』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性			
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)	
住居	238 私は郊外の汚れない1つの部屋に横になって自給自足をしている。 245 私は形象がないモダンボーイである。	イムと結婚	新婚の家・主人公	●	●	◎	—
	※258 二着を10回した者がどうしても一着を一回した者の前に自慢できないのよ。	くだらない論争(妻の昔の彼氏と今の自分の立場の優劣)	ユンの家・主人公	—	—	◎	●
産業		T君との出会い(自殺の図りと外国行の勧誘)	バー・主人公	◎	—	—	◎
	※266 我々医者死のうとする人を精一杯助けているのに、住みたい世の中で意地を張って生きているなんて、面白くない?	映画のセリフ	ギャラリー・主人公	◎	—	—	◎
都市・国・交通		ユンに会いに行く	ソウル・主人公	—	—	—	◎
	248 この牧場が近い郊外には電灯も水道もない。水道の代わりにポンプ。		ソウル外・主人公	●	—	—	—
その他	※261 やらないということは自分の都合によっていつでもやれるという条件付の契約を車道の真ん中に安全地帯を設置するように… ※261-2 あなたはこの社会の組織を少し忘れてしまったみたいね…悪いけど、男にとっては体(肉体)という観念がない。悪いけどあなたこそ…貞操って1対1で成立するものです。 ※246 私は大体そのような富裕なイデオロギーが分かり難い。	貞操についての話(女の肉体の純潔に執着)	不明・主人公	—	—	—	●
		イムとの出会い	ユンの事務室・主人公	◎	—	—	●
		夢: 死と剃刀	理髪店・主人公	◎	—	—	●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 3-24 『逢別記』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性			
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)	
住居	305 このようなたわむれの貞操を主張しているから、私は自然に外出が多くなり、ムホンの事業のために私の部屋まで開放しなければならなかった。	クムホンの家出と帰り	家(ヨ二と同居)・主人公	—	—	◎	◎
		クムホンとの再会	ヨ二妹の家・主人公	—	—	—	●
	308 21年ぶりに実家に帰った。来てみたら我が家は老衰してしまった。そして不肖の子、李箱はこの老衰した家庭を完全にぶち壊した。		主人公の実家・主人公	—	◎	◎	◎
産業	308 どこに行こうか。私は人を会うたびに東京にいくと大言を吐いた。		居酒屋・主人公	—	—	—	—
	303 その代わりにウというフランス留学生を私はクムホンに勧めた。クムホンは私が言ったとおり、ウ氏と一緒に独湯(貸しきり浴室)に入った。この独湯というものは少し淫らな設備だった。	結核のための療養、クムホンにフランス留学生と弁護士を進める	温泉旅館・主人公	◎	—	—	◎
	301 私は三日を耐え切れず…ジャング(韓国の鼓の一種)の音が流れている家に訪ねた。 302 酒席が終わって庭へ降りながら…	クムホンとの出会い	寄生料亭・主人公	●	—	●	◎
都市・国・交通	301 Bという新聞集地の静かな温泉に行った。		温泉村・主人公	●	—	—	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

3-3 小結

朴泰遠と李箱の作品にみられる都市と建築の表現に着目し、空間の意味とその構造を分析して 1930 年代における韓国社会の近代化と空間像を考察した結果、次のような知見をえた。

- 1) 建築用語を頻度から考察したところ、作品における重要な空間や概括的な全体の空間構造を量的数値から推察することができる。
- 2) 舞台記述度による空間の位相関係から、作品における全体の舞台構造を把握することができる。特に、李箱の作品では主人公の部屋または家の記述度が他の舞台より高いほど、外部空間もしくは社会に対して主人公の意識が内向きであることが分かる。
- 3) 舞台と主な都市施設・地名・建物の出現位置から、都市化あるいは、都市を表象する領域は今の鐘路区・中区を中心とした旧社会の城郭範囲内に集中しているといえる。
- 4) 住居空間については伝統韓屋と都市型韓屋が多く現れ、特に都市型韓屋では、近代化した設備中心の改良型と、集合住宅の形態を持つ賃貸型が見られる。
- 5) 現在ソウルの中区に日本人居住地域が形成されていたことから、清溪川を中心とした南北の住み分けが身分から民族に変わっていたことが把握できる。
- 6) 近代式建物、特に産業空間で疎外・孤独、不安という空間情緒が現れた傾向があることや、都市での脱日常的空間として日本・自然が代表的舞台で現れたこと、また、物欲を象徴する舞台と、儒教という反近代的価値を象徴する舞台の空間に対する帰属性が対比的にあらわされていることを明らかにした。
- 7) 1930 年代の韓国人は、変化・新秩序（資本）が示す近代性と、物理的に都市化したソウル、つまり近代都市に違和感を持っていたことが指摘できる。

注

- 注 1) 同じ漢字の文化である韓国と日本は単語の意味を表す漢字がほぼ同一でありハングルは文字に対する音の書き（日本のヒラガナのように）である。韓国語の作品における建築用語のデータを日本語に表記しても原本の字義が大きく変わることはないと考え、日本語であらわす。
- 注 2) 伝統韓屋は階層や気候と敷地位置によって規模・平面的な差異があるが、本研究では瓦屋根を持つ中産層以上の家を対象とする。基本的に母屋と庭（マダン）、客間（サランパン）のある棟、門屋、中門、表門で構成されている。一つの棟は基本的に部屋（パンに濡れ縁付き）と板の間（マル）が属する平面構造を持っている。
- 注 3) 都市型韓屋とは韓国における伝統家屋（瓦屋根の家）の形式を基として都市化する社会構造に合わせて近代式に改良した家屋である。一般的な特徴は瓦屋根で母屋を中心に門屋が直角方向にもしくは平行して位置する平面構造を持つ。平面の構成パターンによって建築的特徴が異なるが、本研究では都市型韓屋を、伝統韓国家屋（瓦屋根の家）形式で規模は母屋と門屋に構成される平面構造を持つ家屋とする。
- 注 4) 朝鮮王朝時代中産層の住宅平面図（ソウル申氏の家）、出所：韓国 Britannica 会社 2001
- 注 5) 出所：リュヨンヒ、近代化過程における伝統韓屋の住居洋式の変化、pp. 139、ソウル学研究
- 注 6) 『朝鮮総督府統計年度』（1920、1925）と『朝鮮国勢調査報告』（1930、1935）により京城府の朝鮮人増加率は 1920 年 3.3%（朝鮮人数 181,829）、1925 年 21.1（朝鮮人数 220,176）%、1930 年 27.1%（朝鮮人数 279,865）、1935 年 11.7%（朝鮮人数 312,587）に急に高まっている。
- 注 7) 京城府の住宅不足率は 1925 年 4.45%、1935 年 22.46%に至るほど 1930 年代の住宅難は深化される。손정목, 『일제강점기 도시화과정연구』, 일지사, 1996 년（ソンジョンモク『日帝強占期の都市化過程研究』、イルジ社、1996 年）
- 注 8) 鐘路にあった朝鮮時代の御用商店。
- 注 9) 京城地図の一部抜粋、Heibonsha 1937
- 注 10) 京城府の電車路線 1899-1937、出所：ソウル 600 年史第 4 巻、1979、p. 974

第4章

朝鮮戦争後における都市と建築

—1960年代のソウル—

4-1 分析の目的と対象

4-1-1 分析の目的

朝鮮戦争の終結から 1960 年代までの韓国は、まさに激動期で、韓国史の中でも一つの特異点をなしている。特に冷戦イデオロギーの混在と、近代的都市化による新旧社会の葛藤によって戦後社会は予測のつかない複雑な動きの中にあった。長く続いた政治的な断絶によって、韓国の建築文化は自立せず、日本と西洋の建築様式を一方的に受け入れた時でもある。韓国における主体的な近代化は戦後から始まるが、1950 年代の朝鮮戦争と戦後復旧期、1960 年代の政治的激動期と経済復興期、1970 年代の軍事政府の長期政権に反する民主化運動と経済の高度成長期という年代ごとに政治・社会的な特徴をもっている。特に、戦後の近代社会は朝鮮戦争後の政治的・社会的な不安定の中でもアメリカを中心とした西洋文化が流入し始めた時期でもあったため、この時期の社会状況を分析することは当時、および、韓国の現代社会構造を理解する上でも重要な意味がある。

また、建築的表象の中に隠された社会像や文化、具体的空間に内包された時代性を探求するために、人間とその集団間で蓄積されてきた意識の深層が投影される文学は有効な研究対象であると考ええる。本章では、韓国の近代史の変遷が記録されているソウルという都市を背景として 1950-60 年代における戦後の社会問題をその作品に如実に反映させた黄順元と崔仁勲と金承鉦の代表作を対象作品とし、作品の中にあらわれる都市と建築空間を通して、韓国における戦後社会の空間像とその意味性を発見することを目的としている。

4-1-2 分析の対象と手順

第2次世界大戦が終わる1945年8月15日、韓国は日本から独立するが、すぐに自主的な国家を建てることができず、1948年まで米国の軍政を受けるようになる（朝鮮の南は米国、北はソ連）。ようやく韓国政府が樹立するが、すでに国は南と北に別れており、朝鮮の南の方を示す歴史が始まる。しかし、間もなく勃発した朝鮮戦争（1950-53年）は都市や建築を破壊し、韓国は経済の高度成長期に入る1970年代まで、第2の近代化を通して社会の物理的なかたちを作らざるを得なかった。また、1950年代は戦争の後遺症を克服する再建の時期と、軍事政変（1962年5月16日）など政治的激動期でもあった1960年代は現在の経済的な礎石を築いた時期と言われるほど、政治・経済的に一番激しかった戦後の近代を、その変化の中心にあったソウルを通して研究することは意義を持つといえる。戦後の文学界では、体験による戦争の悲劇を告発した戦時小説と、戦後の社会問題や戦争によって伝統志向的な倫理意識や生活様式上の変化を中心に描いた戦後小説などが幅広くあらわれた。また、サルトル（J.P. Sartre）とカミュ（A. Camus）によって主導された実存主義（existentialism）文学が新世帯作家を中心に胎動し始まった。本章では特に当時の情緒と思想をテーマとして、戦後社会の風景をよく描いた3人の作家を選定する。

黄順元は韓国人の生き方と生活様式を探り調べ、簡潔な文章と叙情的な構造で描写することによって韓国文学の位相を一層高めたと評価されている。ヒューマニズムと韓国の情緒を追求してきた文学一筋の作家で、彼の叙事的な世界の推移そのものが韓国の文学史の質的拡散に繋がったといえる。崔仁勲は朝鮮戦争という歴史的な事件の中に入っている時代精神、いわゆる当時の人々が追求した価値や苦悩を明瞭に表現した作家であると評価されている。民族の主体性に注目し、社会体制と政治構造を観念的な思考と簡単な文章であらわし、批判してきた作家でもある。また、金承鉦は道徳的想像や倫理的世界観での創作方法を拒否し、新しい感受性によって現実を鋭く描いた作家で、60年代の作家と呼ばれるほど1960年代のソウルの近代性を独特な視覚で表現したことから韓国文学史の中で高く評価されている。

3人の作品のうち、特にソウルを舞台として描いた小説を選別して分析対象とし、図4-1に示す。

表 4-1 研究対象作品

作家名		作品名 上) 邦題 下) 原題	発表年度	現) 出版社	小説区分
黄順元	01	나무들비탈에서다 木、坂道に立つ	1960 年	문학과지성사 (文学と知性社)	長編
	02	일월 日月	1962 年		
崔仁勲	01	광장 広場	1961 年	문학과지성사 (文学と知性社)	中篇
	02	소설가구보씨의일일 小説家クボ氏の一日	1969-72 年		長編
金承鉦	01	생명연습 生命練習	1962 年	민음사 (ミンウム社)	短編
	02	건 乾			
	03	역사 力士	1963 年		
	04	무진기행 Mujin 紀行	1964 年		中篇
	05	서울, 1964 년겨울 ソウル、1964 年の冬	1965 年		
	06	다산성 多産性	1966 年		
	07	야행 夜行	1969 年		短編

本研究では文学の中の建築空間を探るため、次の順を追って研究を進める。

- ①文学に描かれている様々な用語のうち、特に建築に関する用語を建築用語とし集計する。出現傾向と物語の関係や時代的な特徴など概括的な作品の分析を行う。
- ②登場人物が言動表現を行う際の背景として描写される空間を舞台とし、用途別に分けて抽出する。舞台の記述度による位相から全体舞台の構造を、舞台の登場する地理的位置から地域・場所性を分析する。
- ③各舞台を構成する建築用語を用途別空間別に整理し、空間を構成するキーワードから都市と建築に対する物理的特徴を分析する。
- ④社会のかたちを形成する要素(図 2-3)にかかわる文章を空間表現として抽出し、建築用語・舞台・空間構成キーワードについての分析結果を補完する。
- ⑤舞台を性格付けるものとして各物語内での特徴と主な人物を抽出し、空間表現とともに舞台ごとに整理して舞台の空間属性を調べる。各舞台の空間属性を基として作品における舞台の相関関係図を作成し、文学の中で現れる空間の意味と近代社会の意識構造を探る。

以上の分析結果をまとめて、朝鮮戦争後における韓国の近代化とその社会にあらわれる空間像を総合的に考察する。

4-2 黄順元と崔仁勲と金承鉦の作品にみる都市と建築

4-2-1 建築用語と舞台の出現傾向

4-2-1-1 建築用語の集計と分析

建築用語についての分析とは、カテゴリー化した用語からの時代における建築的な特徴だけではなく、高頻度の用語が作家の意識に密着していることに着目し、作品における重要な空間や概括的な全体の空間構造を量的数値から推察することを目的とする。

各作品における高頻度の建築用語を作家別にまとめて表 4-2～4-4 に表す。

表 4-2 「黄順元」の作品における高頻度の建築用語（上位 10 位）

木、坂道に立つ																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
家	110	部屋	101	戸	44	お膳	25	ソウル	15	道	35	山	35	車	26	部隊	32
喫茶店	46	奥の間	24	ガラス	33	電話	22	仁川	15	峠	25	土	17	飛行機	24	ソウル	18
居酒屋	37	台所	9	窓	21	テーブル	16	小土古味	13	路地	18	谷間	8	バス	8	戦場	15
庵舎	24	ホール	9	門	14	ベッド	8	華川	8	チュハ峠	10	海	7	自動車	7	本部	14
病院	17	庭	8	壁	8	長いす	8	松島	8	町	10	小川	5	ジープ	4	江陵	14
PX	16	便所	6	出入口	5	ランプ	8	米国	7	看板	10	田んぼ	4	タクシー	4	木浦	12
店	13	診察室	6	垣	4	ストーブ	6	清涼里	5	大通り	9	川(江)	4	軍用トラック	2	最前線	10
会社	9	板の間	4	畳置き	3	灯火	4	釜山	5	街	9	泥沼	3	ジェット機	2	家庭	10
ホテル	8	入院室	4	カウンタ	3	蓄音機	3	外国	5	乙支路	8	海辺	3	自転車	2	戦線	8
中学校	8	内務班	4	階段	3	電灯	3	中東部	4	堤	7	溝	3	軍用車	1	世の中	7
その他 77 種 (200) その他 19 種 (26) その他 15 種 (20) その他 7 種 (10) その他 48 種 (76) その他 28 種 (60) その他 17 種 (30) その他 3 種 (3) その他 41 種 (97)																	
日月																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
家	121	部屋	119	戸	127	電話	72	ソウル	46	道	88	山	54	車	49	衛平社	34
喫茶店	53	ホール	25	窓	59	テーブル	39	山楸村	27	町	40	海	34	バス	22	世の中	29
居酒屋	45	二階	23	壁	48	いす	38	わが国	27	路地	24	丘	16	自動車	12	建築	25
屠殺場	44	庭	20	階段	33	ピアノ	24	彌阿里	21	街	17	海辺	14	タクシー	9	舞台	23
学校	25	廊	14	門	32	ベッド	22	朝鮮	15	村	13	川(江)	11	ジープ	8	極楽	14
建物	23	奥の間	11	ガラス	25	お膳	20	百済	15	東大門	11	漢江	10	汽車	6	現場	12
ホテル	22	庭園	11	床	20	ラジオ	12	高麗	13	電柱	10	砂場	8	自転車	5	敷地	12
祈禱院	19	書斎	10	カウンタ	13	バール	12	明洞	12	通路	9	泥沼	8	ボート	4	社会	12
大学	19	応接室	7	ドア	12	鏡	11	広州	12	上手	9	小川	7	電車	3	田舎	10
銀行	17	ピアノ部屋	7	廊	12	電灯	10	日本	9	部落	8	鉱山	6	トラック	2	上界	9
その他 121 種 (392) その他 37 種 (96) その他 47 種 (137) その他 20 種 (64) その他 76 種 (174) その他 51 種 (151) その他 33 種 (79) その他 9 種 (11) その他 59 種 (134)																	

表 4-3 「崔仁勲」の作品における高頻度の建築用語（上位 10 位）

広場																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
78 種 (13.77%)		35 種 (10.79%)		36 種 (15.84%)		17 種 (5.24%)		53 種 (19.97%)		30 種 (10.48%)		27 種 (10.3%)		19 種 (6.71%)		51 種 (7.74%)	
家	55	部屋	77	戸	54	机	15	韓国	33	広場	69	海	54	船	76	社会	29
警察署	13	船長室	12	窓	42	いす	11	北朝鮮	28	道	20	洞窟	29	オートバイ	6	世の中	8
学校	9	船室	11	壁	26	テーブル	10	国	27	街	12	山	13	戦車	5	空間	6
建物	8	密室	10	甲板	25	ベッド	10	共和国	19	港	10	盆地	9	タゴール号	4	地元	5
労働新聞社	7	台所	7	マスト	13	はがたみのアチ	7	モスクワ	19	路地	8	原野	9	車	4	戦場	1
コルホーズ	7	庭	6	階段	12	電灯	7	中立国	17	埠頭	7	丘	7	爆撃機	2	ブルジョア社会	4
収容所	6	二階	5	廊下	10	本棚	5	日本	14	都市	6	ジャングル	6	自動車	2	天幕	4
大学	6	編集室	5	板の床	9	鏡	5	外国	9	町	5	活東江	5	戦闘機	1	ソビエト	3
劇場	6	板の間	3	屋根	8	お膳	3	香港	8	市場	4	海辺	5	米軍ジープ	1	戦場	3
国立劇場	5	寝室	3	門	6	食器棚	3	祖国	8	噴水	3	川(江)	5	自転車	1	風土	3
その他 68 種 (104) その他 25 種 (38) その他 26 種 (55) その他 7 種 (10) その他 53 種 (131) その他 20 種 (28) その他 17 種 (27) その他 9 種 (9) その他 41 種 (58)																	
小説家クボ氏の日																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
174 種 (23.05%)		46 種 (6.84%)		47 種 (8.94%)		27 種 (3.35%)		108 種 (21.01%)		55 種 (10.99%)		43 種 (6.45%)		31 種 (4.86%)		104 種 (14.51%)	
家	174	部屋	164	戸	45	お膳	22	韓国	98	道	81	山	41	バス	36	世の中	112
喫茶店	45	庭	43	窓	34	机	15	米国	82	街	57	海	26	車	24	社会	45
建物	43	板の間	15	門	33	テレビ	11	国	62	都市	38	川	16	自動車	14	故郷	35
お寺	31	池	13	階段	21	いす	10	ソウル	52	路地	35	崖	13	荷車	13	世界	23
学校	26	事務室	11	オリ	21	電話	9	中共	37	村	20	自然	11	汽車	9	空間	22
出版社	23	奥の間	9	光化門	15	扁額	8	日本	31	大通り	16	戦	8	船	9	地球	19
赤十字社	21	三階	8	ガラス	14	鏡	7	北朝鮮	27	地下道	13	川(江)	7	タクシー	8	陸場	12
店	21	地下室	6	軒	12	塔	7	西洋	25	町	12	野原	7	飛行機	8	集団	12
大学	17	二階	6	いすいす	10	たんす	3	南北	20	看板	11	畑	7	電車	7	都会	11
高校	15	秘苑	4	屋根	8	ベッド	3	ベトナム	16	広場	9	泉	7	奥	5	敷地	10
その他 164 種 (434) その他 36 種 (62) その他 37 種 (102) その他 17 種 (23) その他 98 種 (290) その他 45 種 (95) その他 33 種 (84) その他 21 種 (38) その他 94 種 (220)																	

表 4-4 「金承鉦」の作品における高頻度の建築用語（上位 5 位）

Mujin 紀行																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
23 種 (32.1%)		5 種 (6.1%)		9 種 (3.73%)		5 種 (2.67%)		7 種 (21.07%)		15 種 (16.27%)		11 種 (12%)		4 種 (6.13%)		13 種 (9.33%)	
家	19	部屋	20	屋根	3	時計	5	ムジシ	4	道	10	海	18	バス	16	世の中	7
税務署	13	運動場	1	床	2	お膳	2	ソウル	24	堤防	9	海辺	8	汽車	4	田舎	5
製薬会社	6	庭	1	戸	2	ラジオ	1	木浦	4	街	8	山	5	トラック	2	邑内	5
学校	6	応接室	1	門	2	いす	1	米国	2	サイレン	8	小川	5	自動車	1	故郷	4
大学	8	署長室	1	窓	1	机	1	広州	2	橋	6	田んぼ	2			地元	3
その他 18 種 (32) その他 0 種 (0) その他 4 種 (4) その他 0 種 (0) その他 2 種 (2) その他 10 種 (20) その他 6 種 (7) その他 8 種 (11)																	
夜行																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
20 種 (27.75%)		2 種 (1.16%)		10 種 (15.03%)		1 種 (1.16%)		5 種 (4.05%)		12 種 (23.7%)		2 種 (2.31%)		5 種 (13.87%)		6 種 (10.98%)	
家	12	休憩室	1	垣	8	電話	2	明洞	3	街	11	沼	3	バス	9	職場	10
銀行	7	二階	1	戸	4			ソウル	1	階段	7	赤土	1	車	6	反社会	4
劇場	3			窓	3			韓国	1	鐘路	4			タクシー	5	故郷	2
お宅	3			スクリーン	3			會賢洞	1	路地	4			軍艦	3	戦線	1
百貨店	2			シャッター	2			ベトナム	1	歩道橋	4			自動車	1	場所	1
その他 15 種 (21) その他 5 種 (6) その他 0 種 (0) その他 7 種 (11) その他 0 種 (0) その他 1 種 (1)																	
カシ																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
17 種 (27.15%)		6 種 (19.95%)		18 種 (17.17%)		12 種 (9.98%)		7 種 (5.57%)		12 種 (13.69%)		1 種 (0.23%)		2 種 (0.93%)		14 種 (5.34%)	
家	54	部屋	23	壁	15	ピアノ	20	昌信洞	10	東大門	16	森	1	バス	2	家庭	5
洋式家屋	11	板の間	6	天井	12	照明	5	国	4	貧民街	12			自動車	2	故郷	3
下宿	11	便所	3	戸	10	陣列棚	5	ソウル	3	城壁	10					中心部	2
居酒屋	10	庭	2	窓	10	いす	3	咸鏡道	3	村	4					世界	2
大学	4	二階	1	ガラス	6	テーブル	2	中国	2	路地	3					工事現場	2
その他 12 種 (27) その他 1 種 (1) その他 13 種 (21) その他 7 種 (8) その他 2 種 (2) その他 7 種 (14) その他 9 種 (9)																	
ソウル、1964 年の冬																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
26 種 (32.5%)		8 種 (10.09%)		12 種 (11.93%)		4 種 (2.29%)		8 種 (5.5%)		17 種 (22.43%)		1 種 (0.46%)		7 種 (11.47%)		4 種 (3.21%)	
旅館	12	六階	1	門	9	カーバイド	2	ソウル	4	街	13	川 (江)	1	バス	10	地点	3
家	9	六階	1	窓	4	お膳	1	朝鮮	2	道	4			タクシー	4	田舎	2
居酒屋	6	便所	1	壁	3	ラジオ	1	水原	1	西大門	4			電車	3	植民地	1
大学院	5	屋上	1	垣	2	電灯	1	安養	1	路地	4			車	3	世の中	1
中華料理屋	4	死体室	1	正門	1			大川	1	看板	3			消防車	3		
その他 21 種 (35) その他 3 種 (3) その他 7 種 (7) その他 3 種 (3) その他 12 種 (18) その他 2 種 (2)																	
多産性 (上位 10 位)																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
56 種 (26.38%)		23 種 (13.79%)		29 種 (11.51%)		14 種 (7.14%)		28 種 (8.66%)		31 種 (11.32%)		16 種 (7.52%)		17 種 (7.14%)		21 種 (6.66%)	
家	59	部屋	32	戸	47	いす	16	米国	12	道	18	野原	24	汽車	32	場所	10
喫茶店	41	庭	18	門	9	電話	8	ソウル	10	鉄路	12	田んぼ	18	タクシー	11	舞台	10
新聞社	17	二階	1	壁	7	ストーブ	8	外国	10	街	10	無人島	13	飛行機	8	場内	8
劇場	14	板の間	9	窓	7	テーブル	7	西洋	7	路地	10	山	5	車	5	田舎	8
興信所	12	休憩室	8	ガラス	5	お膳	7	ソ連	6	大通り	9	田のあぜ	4	トラック	3	世の中	7
お宅	8	トイレ	7	カウンタ	4	電灯	6	わが国	5	バゴタ公園	6	川 (江)	2	自動車	3	火星	5
山城	7	奥の間	6	障子	4	ラジオ	6	路十里	5	市場	6	自然	2	バス	2	家庭	4
映画館	7	台所	4	観客席	3	照明	5	国	5	電柱	5	砂場	2	聖徳観	2	世界	3
聖堂	6	便所	3	スチーム	3	鏡	5	フランス	4	村	5	温泉	2	荷車	1	地方	2
肉屋	6	厨房	2	階段	3	机	2	陵谷	3	交差路	5	沼	1	人工衛星	1	故郷	2
その他 48 種 (100) その他 13 種 (15) その他 19 種 (29) その他 4 種 (5) その他 18 種 (24) その他 21 種 (33) その他 6 種 (6) その他 7 種 (7) その他 11 種 (11)																	
生命練習																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
19 種 (36.22%)		7 種 (12.73%)		14 種 (9.71%)		5 種 (3.0%)		18 種 (11.99%)		16 種 (11.99%)		7 種 (9.36%)		6 種 (3.75%)		13 種 (11.24%)	
家	18	屋根裏部屋	15	板	4	いす	3	外国	6	埠頭	6	海辺	10	船	3	世界	11
教会	10	部屋	8	鉄条網	4	ランプ	2	蘭水	5	市場	4	海	6	汽車	2	秘密王国	5
学校	8	地下室	4	戸	3	テーブル	1	東京	3	城郭	4	山	3	自動車	2	地獄	3
大学	6	庭	3	ウィンドー	2	電灯	1	日本	2	港	3	森	2	密輸船	1	遊離地	2
下宿	5	台所	2	オンドル	2	ベンチ	1	米国	2	東大門	2	絶壁	2	船舶	1	戦線	1
その他 14 種 (23) その他 2 種 (2) その他 9 種 (11) その他 0 種 (0) その他 13 種 (14) その他 11 種 (13) その他 2 種 (2) その他 1 種 (1) その他 8 種 (8)																	
乾																	
建物	語数	部屋	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
11 種 (34.37%)		9 種 (12.95%)		18 種 (20.54%)		1 種 (0.45%)		2 種 (1.34%)		11 種 (13.84%)		10 種 (9.82%)		2 種 (1.79%)		7 種 (4.46%)	
家	23	部屋	12	戸	9	石灯	1	日本	2	道	8	山	9	消防車	2	市内	3
学校	15	地下室	5	壁	7			西洋	1	市	6	丘	3	タンク	2	廃墟	2
市立病院	9	庭	4	門	5					市街地	6	草地	2			場所	1
空き家	7	奥の間	3	扉	5					路地	4	南海	2			部隊	1
防衛隊本部	6	池	1	たたみ	2					公園	1	森	1			遊び場	1
その他 9 種 (18) その他 4 種 (4) その他 13 種 (18) その他 6 種 (6) その他 5 種 (5) その他 2 種 (2)																	

全作品とも物語によってあらわれる場所と空間についての出現頻度が高かった。また、金承鉦の『夜行』(ほとんどの舞台がソウルの街である)以外の作品で共通に「部屋」の出現頻度が高く現れたことが特徴である。

『木、坂道に立つ』では、当時の時代状況をあらわす「部隊」や「戦場」など戦争

にかかわる用語の頻度が目立つ。その他での建築用語のうち、「ソウル」「江陵」「木浦」は韓国の地名であるが、作品の中で部隊がある村の居酒屋（遊女屋）で働いている女たちの呼び名に使われていたため、その他に示した。『日月』の場合、「家」「喫茶店」「居酒屋」「屠殺場」などが物語の重要な場所性をあらわす建築空間として数多く出現した。部屋用語の中では「二階」「書斎」「応接室」があらわれ、住宅における近代様式への変化がみられる。また、戦争と先祖の身分による若者の彷徨を描いた両作品で、喫茶店や居酒屋が頻出していることから、2つの建築用語が戦後社会での若者を表象していることが分かる。

『広場』の場合は、主な場所を示す「家」「船」「韓国」「北朝鮮」の頻度が高い。部屋・建具用語でも船に関する「甲板」「マスト」などの用語が多くあらわれた。また、「部屋」と「広場」は「密室」とともに物語の重要なキーワードとして描かれている。他の用語では「労働新聞社」「コルホーズ」「国立劇場」など、北朝鮮にかかわる単語が上位に上がっていることが特徴的である。『小説家クボ氏の日』は朴泰遠の『小説家仇甫氏の日』の小説をパロディーした連作小説で、建物と国・地名とその他のカテゴリーに属する用語の頻度が高い。特に、「韓国」「米国」「世の中」はソウルでの日常生活の描写とともに1960年代の国際状況をあらわす用語として、数多く表された。また、「出版社」「大学」「地下道」「バス」「タクシー」から植民時期とは異なる近代都市の様相が読み取れる。

金承鉦の作品では出現頻度の結果と主な舞台が一致することが確認できた。しかし、『Mujin 紀行』『生命練習』『乾』でのソウルは、実際の舞台として扱われていないが、主な舞台が隠喩する空間性を持つ比較対象としてあらわされていたことが見られた。『夜行』以外の作品に、「家」「部屋」「戸」など住宅に関する建築用語の出現頻度が際立つ。

全作品において「家」の集計が多かった。しかし、普通のビルや店を家と表現することも数多く現れ、家が今日の意味での＜住居＞だけではなく、当時の韓国では＜建物形態＞または＜建築物＞をあらわす包括的な概念でもあったと考えられる。近代化によって新しい建築形態が登場しているものの、それに対する名称が人々にまだ定立されていないともいえる。作品から主な空間表現を引用文として下記に示す。

人波が溢れる屋は顔や息を隠した都市の家（建物）が何かのわけある顔色で立っている夜の街。

『小説家クボ氏の日』169p.

今は二十階越える高い家（建物）が建たれている。この都市はいつの間に経済規模が異なる集団で
組み合わせている。『小説家クボ氏の一日』 218p.

仁哲はあまりにも変わりさえない雰囲気とうんざりした。同じ家（店）、同じ酒、その上、
同じ人の同じ話題にあきあきしている自分を感じた。『日月』 p. 289

また、「大学」「居酒屋」「喫茶店」「米国」が共通的に見られることが特徴的である。
特に、大学は教育分野の進歩を、喫茶店と居酒屋は近代社会の群像を、米国は戦後の
時代状況を象徴する用語としてあらわされていることが分かる。

各作品における建築用語と出現頻度を表 4-5～4-10 に示す。

表 4-5 『小説家クボ氏の一日』における建築用語と出現頻度

建物	語数	部屋・庭	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
74種 (23.65%)	46種 (6.84%)	47種 (8.94%)	27種 (3.35%)	108種 (21.01%)	55種 (10.99%)	43種 (6.45%)	31種 (4.86%)	104種 (14.51%)	102								
家	部屋	64	戸	45	お精	22	韓国	98	道	81	山	41	バス	36	世の中	102	
喫茶店	45	庭	43	窓	34	机	15	米国	82	街	57	海	26	車	24	社会	45
建物	43	板の間	15	門	33	テレビ	11	国	62	都市	38	川	16	自動車	14	故郷	35
お寺	31	池	13	階段	21	いす	10	ソウル	52	路地	35	崖	13	荷車	13	世界	23
学校	26	事務室	11	オリ	21	電話	9	中共	37	村	20	自然	11	汽車	9	空間	22
出版社	23	奥の間	9	光化門	15	扇額	8	日本	31	大通り	16	敷	8	船	9	地球	19
赤十字社	21	三階	8	ガラス	14	鏡	7	北朝鮮	27	地下道	13	川(江)	7	タクシー	8	廃墟	12
店	21	地下室	6	軒	12	塔	7	西洋	25	町	12	野原	7	飛行機	8	集団	12
大学	17	二階	6	いしずえ	10	たんす	3	南北	20	看板	11	畑	7	電車	7	都会	11
高校	15	秘苑	4	屋根	8	ベッド	3	ベトナム	16	広場	9	泉	7	奥	5	敷地	10
飲食店	14	一階	4	壁	8	エアコン	2	外国	12	港	9	丘	6	ロケット	5	田舎	9
監獄	13	四階	4	濡れ縁	7	電気ストロー	2	ソ連	10	ロータリー	7	清溪川	6	ボート	4	町外れ	8
市民会館	12	台所	3	塀	7	テーブル	2	フランス	10	鐘路	7	鶴鹿山	5	馬車	4	地方	8
国連	10	編集室	3	敷居	6	冷蔵庫	2	朝鮮	9	市場	6	田畑	5	牛車	3	天地	8
新聞社	10	編集局	3	廊下	6	石油ストロー	2	明洞	8	十字路	6	池	5	艦隊	2	舞台	7
昌慶苑	10	教室	3	障子	6	ストロー	2	英国	8	階段	5	谷間	4	葬儀車	2	地元	7
雑誌社	9	花壇	3	昇降機	6	パソコン	1	アントワープ	8	停留場	4	東海岸	4	ケーブルカー	2	団体	6
小学校	9	児童会場	2	玄関	5	ソファ	1	城南洞	7	東大門	3	ジャングル	4	観覧車	2	家窓	6
居酒屋	9	風呂場	2	回廊	5	はがみみの戸棚	1	安国洞	7	埠頭	3	焼畑	4	列車	2	武陵桃源	6
劇場	8	風呂場	2	床	4	陳列台	1	イタリヤ	7	銅像	3	森	4	二層バス	1	他郷	5
韓屋	7	応接室	2	瓦葺き	4	水槽	1	ローマ	7	農村	3	砂漠	3	補給車	1	植民地	5
宮	7	地階	2	セメント	3	扇風機	1	ロシア	7	追突路	2	海辺	3	貴賓専用車	1	地方自治	5
動物園	7	別室	2	垣	3	ラジオ	1	国家	7	アスファルト	2	上	3	タンク	1	場所	5
図書館	7	便所	2	ボイラー(汽車)	3	油皿	1	アルバニア	7	人道	2	湖	3	爆撃機	1	市内	5
結婚式場	7	層	2	敦化門	3	エアクリーナー	1	イスラエル	6	石のいす	2	田んぼ	3	鉄甲船	1	現場	4
古本屋	7	会議室	2	大漢門	3	ガスコンロ	1	中国	6	井戸	2	山水	3	貨物船	1	国内	4
景福宮	7	ホール	2	通路	2	棚	1	香港	6	忠武路	1	砂場	2	回転木馬	1	強大国	4
売店	6	門脇部屋	1	天幕	2			北京	6	世宗路	1	川辺	2	潜水艦	1	協会	4
下宿	6	温室	1	城壁	1			台湾	6	部落	1	ブドウ畑	1	宇宙船	1	ベトナム	4
ギャラリー	6	面会室	1	天井板	1			日帝	5	2街	1	荘園	1	帆掛け舟	1	仕事場	4
大使館	5	待ち合わせ室	1	下水口	1			ヨーロッパ	5	乙支路	1	山奥	1	地下鉄	1	同郷	3
植物園	5	寝室	1	煙突	1			新羅	5	サーチライト	1	洞窟	1			断頭台	3
関心大学	5	単層	1	柱	1			ブラハ	5	郵便ポスト	1	田園	1			要塞	3
心灯寺	5	新式台所	1	レンガ	1			ワシントン	4	西大門	1	島	1			韓国	3
学院(塾)	5	拷問室	1	手すり(船)	1			清道洞	4	高架橋	1	荒地	1			中継基地	3
本屋	5	二十階	1	アルミサッシ	1			アメリカ	3	住宅街	1	広野	1			地域	3
官庁	5	入院室	1	韓式門	1			苑南洞	3	下水道	1	荒野	1			区域	3
聖堂	5	五階	1	石垣の台	1			アラビア	3	開市	1	黄山平野	1			宇宙	3
下宿屋	5	支離室	1	消化設備	1			モンゴル	3	貧民街	1	湾	1			租界	2
板門店	5	野菜畑	1	ガス	1			アラブ	3	水道	1	果樹園	1			共同体	2
教会	5	機械室	1	大壁	1			フィレンツェ	3	橋	1	ボルガ	1			休戦線	2
理髪店	5	納屋	1	踊り場	1			東京	3	手すり	1	サハラ	1			戦場	2
中央庁	4	死体室	1	スチーム	1			オランダ	3	海水浴場	1	絶壁	1			地獄	2
美術館	4	職員室	1	天井	1			ドイツ	3	溝	1					郷土	2
学館	4	扮装室	1	正門	1			高麗	3	公衆電話	1					未開発地	2
韓国新聞社	4	仏壇	1	水道	1			釜山	3	ベンチ	1					家庭	2
ピヤホール	4			石の床	1			極東	3	共同墓地	1					国境	2
慈光大学	4							インド	3	踏み切り	1					業務部	2
病院	4							アフリカ	3	車道	1					居所	2
芸総会館	4							貴州洞	3	地下鉄道	1					shadow society	2
ビル	4							上海	3	垣	1					時空	2
ホテル	4							慶州	2	鉄道	1					遊び場	2
文芸社	3							ミライ村	2	邑所在地	1					狼の巣	2
工場	3							百済	2	邑	1					嵐土	2
中央劇場	3							統一新羅	2	国道	1					芝生(用地内)	1
明洞聖堂	3							異国	2							公的場所	1
城	3							仁川	2							儀式場所	1
パダピア(パ)	3							三清洞	2							焦土	1
徳寿宮	3							八道	2							仏教財団	1
アハート	2							大邱	2							法の垣	1
専売庁	2							ポーランド	2							命の鏡	1
幼稚園	2							武橋洞	2							家内	1
女性学園社	2							平壤	2							劇的空間	1
石造殿	2							祖国	2							地球共和国	1
薬屋	2							海東	1							人工物	1
当局	2							西帰浦	1							society	1
淑明女子校	2							凡一洞	1							区内	1
曹溪寺	2							統宮	1							神聖な場所	1
展示場	2							樓上洞	1							ブルジョア社会	1
洋品店	2							清涼里	1							反農村	1
塔	2							忘憂里	1							反都会	1
料亭	2							サイゴン	1							郊外	1
仏国寺	2							トルコ	1							阿修羅地獄	1
映画館	2							カフカース	1							地層	1
ハーバード大学	2							CongTum	1							工業社会	1
中華料理屋	2							Hue	1							未来社会	1
住宅	2							ハレスタイン	1							地雷地帯	1
モンパルナス	2							東洋	1							財物隠匿所	1
薬局	2							光州	1							ユートピア	1
産業新聞社	2							馬山	1							家庭教師施設	1
会社	2							影島	1							インディアン部族	1
宮殿	2							北極	1							乱世	1
あばら屋	2							清(中国)	1							祭壇	1
中学校	2							ニューヨック	1							冷戦山脈	1
農家	2							パリ	1							影地	1
棟	2							孝子洞	1							天下	1
高級アパート	1							ハギスタシ	1							詩田	1
熱帯動物館	1							ハルビン	1							修羅場	1
菓子屋	1							城北洞	1							洋城	1
様式料理屋	1							タイ	1							休憩場所	1
旅行社	1							朝鮮半島	1							大地	1
機屋	1							安養	1							首都警備司令部	1
言論機関	1							慶尚道	1							施設	1
国務省	1							東西洋	1							異郷	1
救世軍本営	1							江原道	1							時空間	1
京畿女子高	1							閔東	1							基礎工事	1
徳寿小学校	1							ナポリ	1							部族	1
東亜日報社	1							ルーマニア	1							古代伝説	1

[illegible]

表 4-6 『広場』における建築用語と出現頻度

建物	語数	部屋・庭	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
78 種 (13.77%)		35 種 (10.79%)		36 種 (15.84%)		17 種 (5.24%)		63 種 (20.15%)		30 種 (10.48%)		27 種 (10.3%)		19 種 (6.71%)		51 種 (27.19%)	
家	55	部屋	27	戸	54	机	15	韓国	33	広場	69	海	54	船	28	社会	29
警察署	13	船長室	12	窓	42	いす	11	北朝鮮	28	道	20	洞窟	29	オートバイ	6	世の中	8
学校	9	船室	11	壁	26	テーブル	10	国	27	街	12	山	13	戦車	5	空間	6
建物	8	密室	10	甲板	25	ベッド	10	共和国	19	港	10	盆地	9	タコロール号	4	地元	5
労働新聞社	7	台所	7	マスト	13	はめ込みの棚	7	モスクワ	19	路地	8	原野	9	車	4	戦場	1
コルホーズ	7	庭	6	階段	12	電灯	7	中立国	17	埠頭	7	丘	7	爆撃機	2	ブルジョア社会	4
収容所	6	二階	5	廊下	10	本棚	5	日本	14	都市	6	ジャングル	6	自動車	2	天幕	4
大学	6	編集室	5	板の床	9	鏡	5	外国	9	町	5	洛東江	5	戦闘機	1	ソビエト	3
劇場	6	板の間	3	屋根	8	お膳	3	香港	8	市場	4	海辺	5	米軍ジープ	1	戦場	3
国立劇場	5	寢室	3	門	6	食器棚	3	祖国	8	噴水	3	川(江)	5	自転車	1	風上	3
居酒屋	5	号室	3	ガラス	6	電話	2	仁川	7	銅像	3	野原	4	掃除車	1	町外れ	3
病院	5	事務室	3	欄干	6	シャンデリア	2	ソウル	7	海水浴場	3	崖	3	ボンボン蒸気	1	機関	3
下宿	4	応接室	2	天井	5	長いす	2	日帝	7	下水道	2	松林	2	馬車	1	世界	3
銀行	4	機関室	2	床	3	陳列棚	1	カルカッタ	7	ペープメント	2	小山	2	汽車	1	師団	3
休養所	4	キッチン	2	ドア	3	ソファ	1	中国	6	村	2	南山	2	ボート	1	司令部	3
教会	4	食堂	2	柱	3	電番	1	西洋	6	空き地	2	穴蔵	2	密輸船	1	資本主義社会	2
キャバレー	3	刑事室	2	垣	3	時計	1	朝鮮	5	市街地	1	島	2	列車	1	共產社会	2
お宅	3	守衛室	2	はしご	3			満州	5	ベンチ	1	トラの洞窟	1	航空機	1	田舎	2
監獄	2	地下室	2	正門	2			フランス	5	魚市場	1	あり穴	1		1	米軍部隊	2
母屋	2	図書室	2	堀	2			平壤	5	鐘路	1	自然	1		1	エデン	2
バスチーユ	2	病室	2	大理石	2			マカオ	4	京仁大路	1	果樹園	1		1	政府	2
野外劇場	2	書斎	1	舞台	2			インド	4	洞	1	牧場	1		1	仕事場	2
研究所	2	畳部屋	1	長	2			英国	4	ロータリー	1	太白山脈	1		1	不夜城	1
小学校	2	池	1	スチーム暖房	1			美国	3	南満州鉄道	1	智異山	1		1	西部戦線	1
別荘	2	人造の薬山	1	レンガ	1			中共	3	彫刻	1	谷間	1		1	敷地	1
古い屋	2	個室	1	レンガ壁	1			ソ連	3	運動場	1	とうもろこし畑	1		1	地獄	1
消防署	2	取調室	1	石綿スレート	1			ヨーロッパ	3	峠	1	砂場	1		1	聖地	1
工場	2	便所	1	ブリキ	1			バリ	3	塔	1				1	遊び場	1
ビル	2	客間	1	木材	1			元山	3	堤防	1				1	避難所	1
ユバシティ	2	奥の間	1	通路	1			全国	3	望楼	1				1	組合	1
文化住宅	1	洗面所	1	煙突	1			松壽園	2						1	消費組合	1
離れ家	1	観覧席	1	ガス施設	1			スペイン	2						1	戦線	1
韓式家屋	1	監房	1	敷居	1			ギリシャ	2						1	楽園	1
支店	1	花壇	1	校門	1			エジプト	2						1	迷宮	1
空き家	1	宿直室	1	ブリッジ	1			延吉	2						1	団体	1
塔	1			石塀	1			灰色共和国	1						1	故郷	1
店	1							第3国	1						1	他郷	1
市民会館	1							巨濟島	1						1	観光協会	1
本社	1							平安道	1						1	都会	1
下宿屋	1							南満州	1						1	ユートピア	1
牡丹亭劇場	1							R 県	1						1	地方	1
敵産家屋	1							奉天	1						1	舞台	1
集団農場	1							東北中国	1						1	市内	1
朝鮮労働会	1							アジア	1						1	施設	1
兵營	1							東ヨーロッパ	1						1	機関部	1
古本屋	1							中華人民共和国	1						1	郊外	1
大使館	1							国家	1						1	地球	1
文化宣伝省	1							ドイツ	1						1	連立政府	1
冬宮	1							明沙十里	1						1	あの世	1
バレー学校	1							咸鏡道	1						1	天国	1
国営食堂	1							ロシア	1						1	天下	1
内務省	1							異国	1								
肉屋	1							南中国	1								
医療施設	1							東洋	1								
国連	1							東中国	1								
パチカン宮	1							咸興	1								
クレムリン宮	1							デンマーク	1								
異端尋問所	1							新京	1								
酒造場	1							ハルビン	1								
板門店	1							李朝	1								
お菓子屋	1							高麗	1								
当局	1							新羅	1								
大統領官邸	1							三韓	1								
アパート	1																
ガス会社	1																
校舎	1																
宿所	1																
講習所	1																
バー	1																
練習場	1																
幼稚園	1																
商船学校	1																
日本式家屋	1																
高校	1																
食堂	1																
寮	1																
中央廳	1																
花屋	1																

表 4-7 『日月』における建築用語と出現頻度

建物	語数	部屋・庭	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
131種(28.64%)		17種(10.92%)		57種(13.79%)		30種(8.57%)		86種(9.81%)		61種(10.05%)		43種(6.53%)		19種(3.46%)		69種(8.39%)	
家	124	部屋	139	戸	127	電話	72	ソウル	16	道	88	山	54	車	49	衛平社	34
喫茶店	53	ホール	25	窓	59	テーブル	39	山根村	27	町	40	海	34	バス	22	世の中	29
居酒屋	45	二階	23	壁	48	いす	38	わが国	27	路地	24	丘	16	自動車	12	建築	25
屠殺場	44	庭	20	階段	33	ピアノ	24	銅阿里	24	街	17	海辺	14	タクシー	9	舞台	23
学校	25	層	14	門	32	ベッド	22	朝鮮	15	村	13	川(江)	11	ジープ	8	機楽	14
建物	23	奥の間	11	ガラス	25	お櫃	20	百済	15	東大門	14	漢江	10	汽車	6	現場	12
ホテル	22	庭園	11	床	20	ラジオ	12	高麗	13	電柱	10	砂場	8	自転車	5	敷地	12
新病院	19	書斎	10	カウンタ	13	ベール	12	明洞	12	通路	9	泥沼	8	ボート	4	社会	12
大学	19	応接室	7	ドア	12	鏡	11	広州	12	土手	9	小川	7	電車	3	田舎	10
銀行	17	ピアノ部屋	7	廊	12	電灯	10	日本	9	部落	8	麓山	6	トラック	2	上昇	9
小屋	15	納屋	7	屋根	11	結	8	昔州	9	停留場	8	洞窟	6	船	2	家庭	8
お宅	15	台所	7	玄関	10	長いす	6	米国	8	大通り	8	野原	6	こし	2	畜産企業組合	7
肉屋	14	浴室	6	セメント	10	インターフォン	6	海雲臺	7	都市	8	果樹園	6	馬車	1	基礎	6
会社	13	客間	5	焚き口	8	ソファ	5	堅志洞	6	塔	7	谷間	6	牛車	1	模倣	5
病院	11	板の間	5	オンドル	6	ストーブ	5	国	6	白丁部落	6	原野	6	セダン	1	団体	4
製粉会社	11	空地	5	廊下	6	本棚	5	仁川	6	共同墓地	5	池	5	気動車	1	下界	4
国会	11	便所	5	天井	6	電番	5	中国	5	ネオン	5	田畑	3	消防車	1	政府	4
教会	10	入院室	4	軒	5	たんす	4	大川	5	禁煙門	5	貯水池	3	モーターボート	1	世界	4
モンパルナス	10	地下室	4	ベランダ	5	洋服たんす	2	新場	4	乙支路	5	客山	3	木造船	1	市内	4
下宿	10	養護室	4	浴槽	5	洋服たんす	2	京畿道	4	鍾路4街	4	ジャングル	3			郊外	4
大陸商社	8	スタンド	4	オリ	5	食卓	2	釜山	4	忠武路	4	自然	2			工事現場	3
成均館	8	病室	3	網戸	4	鏡台	2	日帝	2	堤防	4	豆畑	2			門の内	3
郡庁	8	教室	3	教化門	4	机	2	西洋	4	垣	4	畑	2			空間	3
人家	8	花壇	3	スチーム	3	塔	2	後百済	4	街路樹	4	野菜畑	2			組合	3
棟	8	個室	2	レンガ	3	照明	2	楊州郡	4	栗忠壇	3	白雲臺	2			石切り場	3
警察署	8	門脇の部屋	2	廊下	3	扇風機	1	韓国	4	アスファルト	3	道峰山	2			大同社	3
工場	8	三階	2	板の床	3	シャンデリア	1	貞陵	4	市街地	3	泉	2			本部	3
教会堂	7	断層	2	瓦	2	陳列棚	1	杜門洞	3	田舎道	3	小山	2			一帯	3
大学院	7	事務室	2	溝	2	棚	1	梁(中国)	3	峠	3	三角山	2			建築現場	3
駅	7	待合室	2	コンクリート	2	金庫	1	宋(中国)	3	ロータリー	3	錦江	1			集落	2
新しい家	6	食堂	2	自然石	2			高句麗	3	橋	3	赤い丘	1			地台	2
美都波百貨店	6	池	2	井戸	2			黄海道	3	看板	3	赤い土	1			王国	2
住宅	6	サンルーム	1	ベチカ	2			議政府	2	広場	3	南韓山	1			終点	2
店	6	洋室	1	天幕	2			内浦洞	2	牛市場	3	麓	1			地方	2
お寺	6	新築部屋	1	フロント	2			北阿規洞	2	三清公園	3	田んぼ	1			国内	2
祠	6	研究室	1	土	2			安國洞	2	街路灯	3	南山	1			機関	2
劇場	5	居間	1	板	2			奮洞	2	門	3	雪嶺山	1			地元	2
市公館	4	土間	1	わら登き	1			外国	2	渡船場	2	川辺	1			各地	2
理髮店	4	小部屋	1	瓦葺き	1			フランス	2	鍾路	2	石山	1			河の入口	2
女子学校	4	銀行長室	1	わら屋根	1			スペイン	2	乙支路6街	2	雪嶺山	1			故郷	2
小学校	4	車庫	1	トタン屋根	1			敦岩洞	2	市場	2	萬丈峯	1			水平社	2
大学病院	4	五階	1	濡れ縁	1			明倫洞	2	横断歩道	2	芝生	1			地城	2
昌慶苑	4	温室	1	土庫	1			苑南洞	2	街路	2	土	1			避難地	2
バラック	3	都守室	1	校門	1			昌信洞	2	海水浴場	2					組織体	2
校舎	3	化粧室	1	タイル	1			三國	2	国道	2					劇団	2
バー	3	運動場	1	築台	1			平安北道	2	道路	2					場所	2
高校	3	貸間	1	キャノピー	1			スアム洞	2	公衆電話	2					spanish style	1
製粉工場	3			ラセン階段	1			インド	2	十字路	2					総督府	1
当局	3			石灰	1			別内面	2	忠武路2街	1					仕事場	1
宿泊所	3			柱	1			利川	1	乙支路3街	1					新築	1
首都劇場	3			土壁	1			千戸洞	1	鍾路3街	1					地獄	1
楽器店	3			煙突	1			元(中国)	1	東大門	1					南道	1
下宿屋	3			トタン	1			沙里院	1	城門	1					総督府	1
病棟	3			石壁	1			ネハール	1	埠頭	1					室内	1
ダンスホール	3			改札口	1			国家	1	電車路	1					三戸	1
ソウル駅	2			テラス	1			墨井洞	1	南大門	1					社会団体	1
和信	2			スクリーン	1			十三道	1	信号	1					支部	1
金千代會館	2							義州	1	都面	1					集団	1
映画館	2							東北地方(中国)	1	洞	1					地上	1
市庁	2							安義	1	郡	1					居住地	1
税務署	2							慶州	1	農村	1					縁故地	1
ビル	2							忘憂里	1							区内	1
礼拝堂	2							筆洞	1							床(基礎)	1
丸太小屋	2							アフリカ	1							所在地	1
修道院	2							台湾	1							校内	1
社屋	2							仁寺洞	1							天下	1
タンクステン会社	2							清津洞	1							近郊	1
放送局	2							大邱	1							最前線	1
中央郵便局	2							忠北	1							エデン	1
官立学校	2							ロシア	1								
会社	2							李朝	1								
飲食店	2							京都	1								
講習所	2							全国	1								
あばら家	1							満州	1								
現代住宅	1							寛勳洞	1								
母屋	1							孝子洞	1								
離れ家	1							蘇峰里	1								
ソウル運動場	1							ローマ	1								
企業体	1							小公洞	1								
群小会社	1							新羅	1								
骨董屋	1							ハリ	1								
料理屋	1							全北	1								
よろず屋	1							江原道	1								
郵便局	1							慶北	1								
クレムリン宮	1							慶南	1								
ワシリ寺院	1							河回	1								
借家	1																
議事堂	1																
日曜学校	1																
古本屋	1																
養成所	1																
成均館大学	1																
懸房(店)	1																
東齋	1																
崇報祠	1																
中学校	1																
城	1																
セブランス病院	1																

表 4-8 『木、坂道に立つ』における建築用語と出現頻度

建物	語数	部屋・庭	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数	
37 種 (22.71%)	29 種 (11.41%)	25 種 (8.97%)	17 種 (6.42%)	58 種 (9.14%)	38 種 (11.41%)	27 種 (6.76%)	13 種 (4.71%)	51 種 (13.46%)										
家	16	部屋	10	戸	41	お精	25	ソウル	15	道	35	山	35	車	26	部隊	32	
喫茶店	46	奥の間	24	ガラス	33	電話	22	仁川	15	峠	25	土	17	飛行機	24	ソウル	18	
居酒屋	37	台所	9	窓	21	テーブル	16	小土古味	13	路地	18	谷間	8	バス	8	戦場	15	
蕎麦	24	ホール	9	門	14	ベッド	8	華川	8	チュパ峠	10	海	7	自動車	7	本部	14	
病院	17	庭	8	壁	8	長いす	8	松島	8	町	10	小川	5	ジープ	4	江陵	14	
PX	16	便所	6	出入口	5	ランプ	8	米国	7	看板	10	田んぼ	4	タクシー	4	本浦	12	
店	13	診察室	6	扉	4	ストーブ	6	清涼里	5	大通り	9	川 (江)	4	軍用トラック	2	最前線	10	
会社	9	板の間	4	藁ぶき	3	灯火	4	釜山	5	街	9	泥沼	3	ジェット機	2	家庭	10	
ホテル	8	入院室	4	カウンタ	3	蓄音機	3	外国	5	乙支路	8	海辺	3	自転車	2	戦線	8	
中学校	8	内務班	4	階段	3	電灯	3	中東部	4	堤	7	溝	3	軍用車	1	世の中	7	
平陽屋	7	納屋	3	光化門	3	カーバイド	3	北朝鮮	4	村	7	洞穴	3	トラック	1	春川	7	
教会	7	倉	3	焚口	2	棚	2	回基洞	4	十字路	6	黄土	3	船	1	故郷	7	
銀行	7	待合室	2	屋根	2	鏡	1	本浦	4	外灯	5	畑	3	爆撃機	1	抱川	6	
養老場	7	応接室	2	廊下	2	机	1	西洋	4	停留所	4	丘	3			38 歳	6	
下宿	7	号室	2	玄関	1	ソファ	1	海雲臺	3	部落	4	清溪川	2			社会	5	
離舎	7	個室	1	オンドル	1	鏡台	1	黄海道	1	鍾路3街	3	土穴	2			空間	4	
事業体	6	傍聴席	1	ベニヤ板	1	いす	1	濟州島	3	横断歩道	3	森	2			世界	4	
交番	6	人事課	1	はめ込みの扉	1			江原道	2	廣橋	2	絶壁	2			地域	4	
本屋	5	手術室	1	校門	1			九萬里	2	堤防	2	山岳	2			地元	4	
大学	5	二階	1	天井	1			仁寺洞	2	電車道	2	果樹園	1			地点	3	
収容所	4	洋室	1	濡れ縁	1			齋洞	2	中梁(浪)橋	2	土地	1			田舎	3	
営倉	4	事務室	1	障子	1			集洞洞	2	鍾路2街	2	ビーチ	1			地帯	3	
慰安所	4	三階	1	瓦ぶき	1			ドイツ	2	海水浴場	2	野原	1			市内	3	
発電所	4	六階	1	土間	1			中国	2	鍾路	2	山奥	1			職場	3	
穴蔵家	4	テラス	1	井戸	1			平安道	2	東大門	1	平地	1			休戦線	2	
産婦人科	4	出入口	1					明洞	2	龍巖門	1	荒地	1			避難地	2	
学校	4	法廷	1					コリア	2	鍾路1街	1	山野	1			管内	2	
和信	4	病室	1					茶屋洞	2	都市	1					地区	2	
映画館	3	受付口	1					韓国	2	石の橋	1					首都	2	
保安署	3							永登浦	1	水源地	1					松	2	
小学校	3							富平	1	車道	1					緩衝地帯	2	
遊女屋	3							朱安	1	井戸	1					門の内	2	
国連	3							大田	1	乙支路2街	1					天下	1	
野戦病院	3							オーストラリア	1	忠武路	1					文教部	1	
野化場	3							異国	1	京仁街道	1					宿所	1	
人家	3							莞島郡	1	広場	1					財務部	1	
半島ホテル	3							慶北	1	空き地	1					市外	1	
メガネ店	3							論山	1	灯台	1					市街	1	
玉突き	3							寛勳洞	1							デント	1	
飲食店	3							平陽	1							地方	1	
教会堂	3							下往十里	1							パラソル	1	
劇場	3							日本	1							無人地帯	1	
商店	3							西蜀	1							宇宙	1	
中央劇場	2							長安	1							精神科	1	
内科	2							朝鮮	1							露店	1	
厚生住宅	2							中共	1							休憩場所	1	
バラック	2							金星	1							占領地域	1	
保険会社	2							春川	1							第2戦線	1	
農家	2							抱川	1							邑内	1	
国際劇場	2							延白	1							郊外	1	
晒所	2							梧陰里	1							地球	1	
検問所	2							江陵	1									
ソウル駅	2							全州	1									
シネマ	2							大邱	1									
明洞劇場	2							東幕洞	1									
神学校	2							金化	1									
飛行場	2							武橋洞	1									
内務部	2							東部	1									
商社	1																	
お宅	1																	
中央郵便局	1																	
建物	1																	
民家	1																	
娼家	1																	
企業	1																	
貿易会社	1																	
炊事場	1																	
国会	1																	
料亭	1																	
工場	1																	
グリル	1																	
美都波百貨店	1																	
理髪店	1																	
大使館	1																	
市役所	1																	
東亜日報社	1																	
新新百貨店	1																	
團成社	1																	
母校	1																	
首都劇場	1																	
クッド劇場	1																	
ハン屋	1																	
神学大学	1																	
首都陸軍病院	1																	
倉庫	1																	
刑務所	1																	
支店	1																	

表 4-9 『多産性』における建築用語と出現頻度

建物	語数	部屋・庭	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
58 種 (20.38%)	23 種 (13.75%)	29 種 (11.51%)	14 種 (7.14%)	28 種 (8.66%)	31 種 (11.32%)	16 種 (7.52%)	17 種 (7.14%)	21 種 (6.66%)									
家	59	部屋	62	戸	47	いす	16	米国	12	道	18	野原	24	汽車	32	場所	10
喫茶店	41	庭	18	門	9	電話	8	ソウル	10	鉄路	12	田んぼ	18	タクシー	11	舞台	10
新聞社	17	二階	10	壁	7	ストーブ	8	外国	10	街	10	無人島	13	飛行機	8	場内	8
劇場	14	板の間	9	窓	7	テーブル	7	西洋	7	路地	10	山	5	車	5	田舎	8
興信所	12	休憩室	8	ガラス	5	お膳	7	ソ連	6	大通り	9	田のあぜ	4	トラック	3	世の中	7
お宅	8	トイレ	7	カウンタ	4	電灯	6	わが国	5	バゴダ公園	6	川(江)	2	自動車	3	火星	5
山城	7	奥の間	6	障子	4	ラジオ	6	路十里	5	市場	6	自然	2	バス	2	家庭	4
映画館	7	台所	4	観客席	3	照明	5	国	5	電柱	5	砂場	2	駆逐艦	2	世界	3
聖堂	6	便所	3	スチーム	3	鏡	5	フランス	4	村	5	温泉	2	荷車	1	地方	2
肉屋	6	厨房	2	階段	3	机	2	陸谷	3	交差点	5	沼	1	人工衛星	1	故郷	2
大学	6	観覧室	2	小門	3	陣列棚	2	中国	3	信号灯	3	雪嶺山	1	ロケット	1	町外れ	1
学校	5	花壇	2	柱	3	時計	1	韓国	3	東大門	3	海辺	1	潜水艦	1	市内	1
飲食店	5	別室	1	鉄	2	棚	1	故国	3	トンネル	3	森	1	輸送機	1	宿所	1
食堂	4	教室	1	板の床	2	蛍光灯	1	平壤	1	都市	3	南山	1	船	1	室内	1
警察署	4	研究室	1	出入口	2			咸鏡道	1	南大門	2	川辺	1	自転車	1	空間	1
結婚式場	3	空地	1	床	2			海外	1	停車場	2	草地	1	電車	1	建築	1
梨花女子大学	3	練習場	1	スクリーン	2			全国	1	西大門	2			牛車	1	区域	1
ソウル駅	3	地下室	1	通路	2			アフリカ	1	邑	2					職場	1
幸州山城	3	浴室	1	ショーウィンドー	1			ロシア	1	セメント	1					天幕	1
下宿	3	庭園	1	煙突	1			ニューヨーク	1	乙支路	1					区内	1
高校	3	三階	1	垣	1			国家	1	運動場	1					宇宙	1
料亭	3	事務室	1	瓦	1			貞陵	1	アスファルト	1						
店	3	廊	1	タイル	1			瀋陽	1	橋	1						
売店	3			舞台	1			海棠臺	1	小道	1						
駅	2			軒	1			濟州島	1	広場	1						
銭湯	2			守部	1			慶州	1	看板	1						
不動産屋	2			コンクリート	1			平澤	1	羅川橋	1						
幼稚園	2			塀	1			英国	1	土手	1						
建物	2			玄関	1					鐘路3街	1						
タバコ工場	2									街路灯	1						
下宿屋	2									人道	1						
女子学校	2																
小学校	2																
会社	2																
料理屋	2																
スタジオ	2																
旅館	2																
理髪店	2																
中央劇場	2																
事業体	1																
棋院	1																
教会	1																
ミドン小学校	1																
新村駅	1																
昌慶苑	1																
教習所	1																
サロン	1																
倉庫	1																
洋屋	1																
旅館	1																
店舗	1																
休憩所	1																
放送局	1																
洋服店	1																
商店	1																
ビル	1																
居酒屋	1																
養老院	1																

表 4-10 「金承鉦」の作品における建築用語と出現頻度

mu jin 紀行																	
建物	語数	部屋・庭	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
23 種 (22.4%)		5 種 (6.1%)		9 種 (3.73%)		5 種 (2.67%)		7 種 (21.07%)		15 種 (16.27%)		11 種 (12%)		4 種 (6.13%)		13 種 (9.33%)	
家	19	部屋	20	屋根	3	時計	5	ムジシ	45	道	10	海	18	バス	16	世の中	7
税務署	13	運動場	1	床	2	お膳	2	ソウル	24	堤防	9	海辺	8	汽車	4	田舎	5
製薬会社	6	庭	1	戸	2	ラジオ	1	木浦	4	街	8	山	5	トラック	2	邑内	5
学校	6	応接室	1	門	2	いす	1	米国	2	サイレン	4	小川	5	自動車	1	故郷	4
大学	8	署長室	1	窓	1	机	1	広州	2	橋	6	田んぼ	2			地元	3
新聞支局	4			土庫	1			新堂洞	1	邑	4	砂場	2			区内	2
お宅	4			瓦	1			国	1	大通り	3	川(江)	1			戦線	2
中学校	4			軒	1					広場	3	森	1			家庭	2
事務所	3			ブリキ	1					都市	3	野原	1			都会	1
母校	2									路地	2	平野	1			戦場	1
居酒屋	2									村	1	草地	1			地上	1
駅	2									臥床	1					世界	1
ソウル 駅	1									農村	1					場所	1
わらわき家	1									港	1						
鉄工所	1									住宅地	1						
病院	1																
商店	1																
会社	1																
師範大学	1																
音楽大学	1																
薬屋	1																
お寺	1																
人家	1																
夜行																	
建物	語数	部屋・庭	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
20 種 (27.7%)		2 種 (1.16%)		10 種 (15.03%)		1 種 (1.16%)		5 種 (4.05%)		12 種 (23.7%)		2 種 (2.31%)		5 種 (13.87%)		6 種 (10.98%)	
家	17	休憩室	1	垣	8	電話	2	明洞	3	街	11	沼	3	バス	9	職場	10
銀行	7	二階	1	戸	4			ソウル	1	階段	7	赤土	1	車	6	反社会	4
劇場	3			窓	3			韓国	1	鋪路	4			タクシー	5	故郷	2
お宅	3			スクリーン	3			會賢洞	1	路地	4			軍艦	3	戦線	1
百貨店	2			シャッター	2			ベトナム	1	歩道橋	4			自動車	1	場所	1
喫茶店	2			鉄条網	2					停留所	3					中心地	1
監獄	2			通路	1					都市	2						
旅館	2			玄関	1					市場	2						
バー	2			甲板	1					車道	1						
ホテル	2			ドーム(観望所)	1					乙支路	1						
捕虜収容所	2									埠頭	1						
韓国銀行	1									街路灯	1						
本店	1																
交番	1																
建物	1																
中央劇場	1																
居酒屋	1																
商店	1																
洗濯屋	1																
新世界百貨店	1																
力士																	
建物	語数	部屋・庭	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
17 種 (27.1%)		6 種 (19.95%)		18 種 (17.17%)		12 種 (9.98%)		7 種 (5.57%)		12 種 (13.69%)		1 種 (0.23%)		2 種 (0.93%)		14 種 (5.31%)	
家	54	部屋	23	壁	15	ピアノ	20	昌信洞	10	東大門	16	森	1	バス	2	家庭	5
洋式家屋	11	板の間	6	天井	12	照明	5	国	4	舊民街	12			気動車	2	故郷	3
下宿	11	便所	3	戸	10	陣列棚	5	ソウル	3	城壁	10					中心部	2
居酒屋	10	庭	2	窓	10	いす	3	咸鏡道	3	村	4					世界	2
大学	4	トイレ	1	ガラス	6	テーブル	2	中国	2	路地	3					工事現場	2
薬屋	4	二階	1	薬台	3	蛍光灯	2	韓国	1	街路灯	3					地上	1
病院	4			床	3	コンロ	1	コリア	1	市場	2					貧民窟	1
成興屋	3			水道	3	カーバイド	1			公園	2					仕事場	1
喫茶店	3			ベニヤ	2	鏡	1			都市	2					風土	1
建物	3			石灰	2	ミシン	1			街	2					露店	1
バラック	2			門	1	ラジオ	1			大通り	2					舞台	1
女子高	2			瓦	1	お膳	1			ベンチ	1					世の中	1
ビル	2			レンガ	1											聖域	1
下宿屋	1			敷居	1											地球	1
女子学校	1			階段	1												
商店	1			板	1												
会社	1			軒	1												
				光化門	1												
ソウル、1964 年の冬																	
建物	語数	部屋・庭	語数	部位・建具	語数	家具	語数	国・地名	語数	都市施設	語数	自然	語数	乗物	語数	その他	語数
26 種 (22.57%)		8 種 (10.09%)		12 種 (11.93%)		4 種 (2.29%)		8 種 (5.5%)		17 種 (22.48%)		1 種 (0.46%)		7 種 (11.47%)		4 種 (3.21%)	
旅館	12	部屋	15	門	9	カーバイド	2	ソウル	4	街	16	川(江)	1	バス	10	地点	3
家	9	六階	1	窓	4	お膳	1	瀬阿里	2	道	4			タクシー	4	田舎	2
居酒屋	6	便所	1	壁	3	ラジオ	1	水原	1	西大門	4			電車	3	植民地	1
大学院	5	屋上	1	垣	2	電灯	1	安養	1	路地	4			車	3	世の中	1
中華料理屋	4	死体室	1	正門	1			大川	1	看板	3			消防車	3		
洋品店	4	層	1	戸	1			慶州	1	停留場	3			自動車	1		
建物	3	二階	1	レンガ	1			大邱	1	鋪路 2 街	2						
ビル	3	廊下	1	神炭	1			南宮洞	1	電柱	2						
下宿	2			煙突	1					街路灯	2						
大学	2			ショーウィンドー	1					ネオンサイン	2						
士官学校	2			柱	1					鋪路 3 街	1						
セブラス病院	2			床	1					街路樹	1						
劇場	2									峠	1						
病院	2									ゴミ箱	1						
美容学院	2									乙支路 3 街	1						
ピヤホール	1									平和市場	1						
セブラス	1									広告版	1						
ペンキ商店	1																
高校	1																

4-2-1-2 舞台の抽出と分析

本節では抽出した舞台に対してその記述度があらかず空間位相と実際の位置を分析し、全体の舞台構造や場所性を明らかにすることを目的とする。全作品において、高頻度の建築用語が、語り手の居場所や物語の葛藤が起こる舞台としてあらわれている。特に、作品ごとに現れた多様な「家」は、当時の生活様子や戦前とは違う形式をあらわした。

4-2-1-2-1 記述度と舞台構造

舞台記述度は舞台の出現頻度とその舞台で現れる建築用語により、文学内の舞台が持つ空間としての位相・重要さをあらわす指標で、舞台の位相が高いということは空間を表現する作家の建築的意識が高いことである。言い換えれば、他の空間または現在空間（舞台）と密接な関係を持つ重要な役割を果たしているといえるだろう。物語の中の意味ある場所とは区別する。

・舞台1の記述度＝舞台1の場面数／（舞台総箇所）×（舞台1の総用語数）／（総用語数）×100

・舞台平均記述度＝{舞台位相度の合計（Σ各舞台の位相度）}／（舞台総箇所）]

『木、坂道に立つ』と『日月』の出現舞台と記述度を表4-11と4-12に示す。

1・2部の構成されている『木、坂道に立つ』では、小土古味という部隊がある村の居酒屋と部隊での位相が高かった。2部は除隊後の物語で、平均記述度を上回るソウルの街・喫茶店・平壤屋（居酒屋）・養鶏場が主な舞台として構成されていることが分かる。特に、用語の分析結果でも述べたよう、戦争による若者の彷徨の舞台として居酒屋や喫茶店をよく描いたことが特徴的である。また、日本植民時代からの建物である和信百貨店の出現が目立つ。

『日月』では、主人公の家が最も高い記述度を持っている。その次にソウルの街・居酒屋・池教授の家・不明の順で記述度が高かった。平均記述度より高い空間位相を持つ舞台は喫茶店・モンパルナス・祈祷院が上げられる。先祖の封建時代の身分（白丁）と、母の宗教（プロテスタント教）への執着による葛藤を描いた『日月』は、主人公の家を中心に、先祖の身分を知るきっかけとなる池教授の家と、それによって彷徨する主人公の行き付けの店（居酒屋・モンパルナス）、母との葛藤をあらわす祈祷

院が主な舞台として、全体舞台の構造を形成していることが分かる。特に、都市化するソウルもしくは、近代社会に生きる登場人物の不安な心理を不明という空間でよく描いたことが特徴的である。また、建築現場（新築の家）と工事中の家など、主人公の専攻（建築学科大学院生）をあらわす舞台が多く出現している。作家黄順元の作品では、喫茶店や居酒屋を背景として近代的価値に対する若者の心理状態や戦後の社会像を描写していることが特徴である。

表 4-11 『木、坂道に立つ』における出現舞台と記述度

作品	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度
一部	住居	1	9	ドンホの家（ソウル）	1	9	0.015
	公共	15	179	部隊	14	136	3.276
				PX（部隊内の店）	1	43	0.074
	産業	11	283	小土古味の居酒屋	9	272	4.212
				食料品店（部隊村）	1	3	0.005
				ホテル（釜山）	1	8	0.014
	都市・国	16	276	戦場	9	121	1.874
				小土古味の街	4	22	0.151
				山の村	2	118	0.406
				山	1	15	0.026
	交通	1	13	バス（部隊村）	1	13	0.022
	不明	1	17	不明	1	17	0.029
12箇所		平均位相度=0.842					
二部	住居	9	76	ヒョンテの家 エングの下宿屋	6 3	58 18	0.599 0.186
	公共	5	81	病院	4	42	0.289
				首都陸軍病院	1	39	0.067
	産業	36	480	喫茶店	12	110	2.271
				平壤屋	5	108	0.929
				養鶏場	4	107	0.736
				居酒屋	4	62	0.427
				玉突屋	2	6	0.021
				ホテル（仁川）	1	33	0.057
				グリル	1	13	0.022
				中華料理屋	1	12	0.021
				ハン屋	1	11	0.019
				メガネの店	1	6	0.01
				映画館	1	5	0.009
				和信百貨店	1	3	0.005
				理髪店	1	3	0.005
				本屋	1	1	0.002
	都市・国	19	262	ソウルの街	17	222	6.484
				海水浴場（仁川）	1	34	0.059
				山の村	1	6	0.01
	交通	3	57	タクシー	3	57	0.294
	不明	4	28	不明	4	28	0.193
23箇所		平均位相度=0.553					
合計	※33箇所	121	1761	平均位相度=0.692			

表 4-12 『日月』における出現舞台と記述度

建物・外	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度
建物 (37箇所)	住居 (11箇所)	55	1133	主人公の家	26	619	1.458
				池教授の家	11	282	1.439
				工事中の家	5	34	0.079
				祖父の家(山椒村)	4	45	0.084
				従兄の家	2	55	0.051
				ナミの家	2	42	0.039
				白丁の家(ある村)	1	26	0.012
				主人公の前の家	1	9	0.004
				農家(山椒村)	1	8	0.004
				友達の下宿屋	1	7	0.003
				母の友達の家	1	6	0.003
	公共 (9箇所)	19	458	祈禱院	6	152	0.423
				大学病院	4	78	0.145
				大学研究室	2	65	0.06
				小学校	2	26	0.024
				銀行	1	57	0.026
				崇徳祠	1	38	0.018
				セブランス病院	1	17	0.008
				野球場	1	13	0.006
				ソウル駅	1	12	0.006
	産業 (17箇所)	58	1042	居酒屋	17	308	2.43
				喫茶店	9	124	0.518
				モンパルナス(喫茶店)	8	109	0.405
				建築現場(新築の家)	5	91	0.211
				屠殺場	3	88	0.088
				鉄道ホテル(釜山)	3	63	0.065
				ホテル	2	70	0.122
				山椒村の屠殺場	2	29	0.027
				はたごや(山椒村)	1	101	0.047
				田園グリル	1	26	0.012
				高級料理屋	1	9	0.004
				畜産企業組合	1	6	0.003
				泉喫茶店	1	5	0.002
				飲食店	1	5	0.002
				バー	1	4	0.002
				玉突き屋	1	3	0.001
				鍛冶屋	1	1	0
建物外 (20箇所)	都市・国 (12箇所)	49	724	ソウルの街	34	437	6.894
				山椒村の道	2	73	0.068
				山	2	64	0.059
				新場の道	2	57	0.053
				釜山の海辺	2	13	0.012
				お寺の跡	1	36	0.017
				議政府の街	1	23	0.011
				楊州郡の道	1	6	0.003
				大川の海辺	1	6	0.003
				漢江(ソウル)	1	5	0.002
				最前線(軍隊)	1	3	0.001
				共同墓地(山椒村)	1	1	0
	交通 (8箇所)	14	191	タクシー	4	30	0.056
				ジープ	3	77	0.107
				自動車	2	36	0.033
				汽車	1	20	0.009
				電車	1	9	0.004
				車	1	9	0.004
				セダン	1	8	0.004
				バス	1	2	0.001
不明 (2箇所)		14	233	不明	9	184	0.768
				夢	5	49	0.114
合計	57箇所	209	3781	平均記述度=0.387			

『広場』と『小説家クボ氏の一日』の作品における出現舞台と記述度を表 4-13 と 4-14 に示す。

表 4-13 『広場』作品における出現舞台と記述度

建物・外	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度
建物 (18箇所)	住居 (5箇所)	10	431	ヨンミの家	3	110	0.609
				ユンエの家(仁川)	3	44	0.244
				北朝鮮の下宿屋	2	98	0.362
				ジョン先生の家	1	18	0.218
				父の家(北朝鮮)	1	61	0.113
	公共 (12箇所)	20	444	朝鮮人コルホーズ(満州)	3	30	0.166
				旧) 警察署	2	78	0.288
				捕虜収容所(巨済島)	2	62	0.229
				警察署	2	50	0.185
				休養所(北)	2	44	0.163
				労働新聞社(北)	2	37	0.137
				劇場(北)	2	10	0.037
				板門店	1	71	0.131
				病院(北)	1	28	0.052
				労働党(北)	1	18	0.033
				建設現場(北)	1	12	0.022
				国立劇場(北)	1	4	0.007
	産業 (1箇所)	1	18	居酒屋	1	18	0.033
建物外 (13箇所)	都市・国 (11箇所)	21	269	洞窟(戦場)	4	76	0.561
				盆地(仁川)	3	47	0.26
				北朝鮮の街	3	15	0.083
				戦場	3	11	0.061
				ソウルの街	2	29	0.107
				山	1	24	0.044
				仁川の街	1	19	0.035
				北朝鮮	1	18	0.033
				埠頭(仁川)	1	13	0.024
				京仁道路	1	13	0.024
				ソウルの郊外	1	4	0.007
	交通 (2箇所)	8	415	船	7	411	0.512
				密航船	1	4	0.007
不明 (2箇所)		7	64	不明	6	58	0.543
				夢	1	6	0.011
合計	33箇所	67	1641	平均位相度=0.31			

『広場』では他の舞台より目立つ船と、その次に不明・ヨンミの家・洞窟の順で記述度が高かった。物語では、中立国に向かう船で主人公が韓国(ヨンミの家)と北朝鮮(下宿部屋)での生活を回想していることで、どちらでも自分の思った理想的な社会ではないということに悩んでいる主人公の心理が分かり、かつ、その描写が不明という想像空間でよく出ている。また、戦場での洞窟はディストピアの現実から逃げ出した最後の広場で、近代都市(韓国と北朝鮮)が失ってしまった健全な公的空間(社会精神が自然に形成される個人の集まり場)を表象する原形(自然)として描かれている。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

半径3メートルの半円形の広場。李明俊とウンヘが互いの胸をまさぐり絡み合わせて生きている

という証拠を確かめる最後の広場。

『広場』164p.

戦前の朴泰遠『小説家仇甫氏の日』をパロディーした『小説家クボ氏の日』では、ソウルの街における記述度が極めて高い。そしてクボ氏の下宿屋と喫茶店が主な舞台として構成されていることが分かる。その他には現在の住居空間の主流であるアパートが舞台（ソウルの外郭）で登場したこと、主人公であるクボ氏の職業に関連する新聞社・出版社や故宮と大学が多く現れたことが目立つ。両作品とも不明（想像）と夢という仮想空間を通して当時の現実社会と都市文明を批判していることが特徴的である。

表 4-14 『小説家クボ氏の日』 作品における出現舞台と記述度

建物・外	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度
建物 (37箇所)	住居 (3箇所)	14	510	クボの下宿屋	11	423	3.603
				知り合いの家	2	24	0.033
				クボのアパート	1	13	0.009
	公共 (11箇所)	16	506	景福宮	4	79	0.219
				昌慶苑 (昌慶宮)	3	170	0.353
				関心大学	1	70	0.048
				宮内美術館	1	65	0.045
				心燈寺	1	34	0.024
				友達の大学建物	1	31	0.021
				教会礼拝堂	1	16	0.011
				遺物展示場 (昌慶苑)	1	14	0.01
				友達の大学	1	10	0.007
				慈光大学の劇場	1	10	0.007
				慈光大学	1	7	0.005
	産業 (23箇所)	44	1055	喫茶店	12	356	2.958
				友達の事務室	4	70	0.194
				事務室建物	3	47	0.098
				中華料理屋	3	41	0.085
				友達の電気屋	2	114	0.158
				ギャラリー	2	66	0.091
				飲食店	2	18	0.025
				有情居酒屋	1	54	0.037
				文楽社	1	37	0.026
				新聞社	1	37	0.026
				劇場 (映画館)	1	35	0.024
				雑誌社	1	30	0.021
				理髪店	1	30	0.021
				平和出版社	1	25	0.017
				芸総会館	1	24	0.017
				良書出版社	1	20	0.014
				韓国新聞社	1	13	0.009
				女性楽園社	1	12	0.008
				出版社	1	7	0.005
				洋品店	1	6	0.004
				サイン喫茶店	1	5	0.003
				産業新聞社	1	4	0.003
				工房 (店)	1	4	0.003
建物外 (2箇所)	都市・国 (1箇所)	39	1041	ソウルの街	39	1041	28.115
	交通 (1箇所)	1	59	バス	1	59	0.041
不明 (2箇所)		10	351	夢	5	224	0.776
				不明	5	127	0.44
合計	41箇所	124	3522	平均位相度 = 0.917			

金承鉦の作品は主人公と物語の特徴により 3 つに分けて分析を行う。『Mujin 紀行』と『夜行』の作品における出現舞台と記述度を表 4-15 に示す。

表 4-15 『Mujin 紀行』『夜行』 作品における出現舞台と記述度

作品	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度
Mujin 紀行	住居	7	100	叔母の家 (ムジン)	4	44	5.867
				友達の家 (ムジン)	2	41	2.733
				海辺の家 (ムジン)	1	15	0.5
	公共	1	11	税務署 (ムジン)	1	11	0.367
	都市・国	7	118	ムジンの街	5	82	13.607
				堤防 (ムジン)	1	27	0.9
				海辺 (ムジン)	1	9	0.3
	交通	2	146	バス	2	146	9.733
合計	8箇所	17	375	平均位相度=4.258			
夜行	公共	2	7	銀行	2	7	1.012
	産業	3	14	劇場	1	11	0.795
				ホテル	1	2	0.145
				旅館	1	1	0.072
	都市・国	6	119	ソウルの街	6	119	51.358
	交通	2	32	バス	1	27	1.951
				タクシー	1	5	0.361
合計	8箇所	14	173	平均位相度=7			

『Mujin 紀行』ではすべての舞台が、ソウルから離れている田舎の村、かつ、主人公の故郷であるムジンを背景としている。しかし、主人公が恋に落ちたムジンでの生活を否定し、ソウルでの生活を現実として認めることにより、ムジンは都市に対立する田舎や故郷のような情緒的な空間（都市から逸脱した日常）から、都市からいつでも寄れる近郊のような無機質的な空間（都市に束縛された非日常）に変わる。すなわち、建築用語では高い頻度を示した＜ソウル＞が、舞台として登場しなくても、ムジンという空間の背景としてあらわれていることが分かる。

作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

バスが…私は＜ムジン 10km＞という里程標を見た。

そこには鮮明な黒い字で＜あなたはムジンを去っています＞…私は非常に恥かしく思った。

『Mujin 紀行』9, 41p.

『夜行』はムジンによって描かれるソウルを女性の目を通して描いた作品である。50%を超えるほどソウルの街での記述度が高いことで、朴泰遠と崔仁勲の『小説家クボ氏の一日』の主人公と境遇が似ている。また、1960年代における近代ソウルでの夜の街を通して、その都市空間に隠れている脱日常の欲望をあらわしていることが特徴的である。

次に、『力士』『ソウル、1964年の冬』『多産性』の作品における出現舞台と位相度を表 4-16 に示す。

表 4-16 『力士』『ソウル、1964 年の冬』『多産性』における出現舞台と記述度

作品	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度	
力士	住居	16	294	今の家	5	115	11.113	
				今の部屋	4	78	6.032	
				前の家	4	64	4.95	
				前の部屋	2	25	0.967	
				親戚の家	1	12	0.232	
	公共	1	9	薬局	1	9	0.174	
	産業	4	27	咸興屋	3	19	1.102	
				喫茶店	1	8	0.155	
	都市・国	8	101	ソウルの街	3	46	2.668	
				公園	2	12	0.464	
ソウル				2	11	0.425		
			貧民街	1	32	0.619		
合計	12箇所	29	431	平均位相度=2.409				
ソウル、1964年の冬	産業	4	139	居酒屋	1	95	6.225	
				中華料理屋	1	24	1.573	
				洋品店	1	2	0.131	
				旅館	1	18	1.18	
	都市・国	5	73	ソウルの街	5	73	23.919	
交通	2	6	タクシー	1	4	0.262		
			バス	1	2	0.131		
合計	7箇所	11	218	平均位相度=4.774				
豚が走る	住居	4	78	主人公の家	4	78	1.745	
	公共	1	5	幸州山城（陵谷）	1	5	0.028	
	産業	4	84	喫茶店	2	73	0.817	
				肉屋	1	8	0.045	
				女郎屋	1	3	0.017	
	都市・国	5	140	ソウルの街	2	46	0.515	
				陵谷の道（ソウル外）	1	61	0.341	
				田んぼ（ソウル外）	1	26	0.146	
	交通	1	54	駅前の広場	1	7	0.039	
				汽車	1	54	0.302	
合計	10箇所			平均位相度=0.4				
多産性	ウサギも走る	住居	2	115	洋式家屋	1	60	0.336
				主人公の家	1	55	0.308	
		産業	2	64	劇場（演劇）	2	61	0.715
		都市・国	2	57	ソウルの街	2	57	0.638
	不明	1	20	不明	1	20	0.112	
合計	5箇所			平均位相度=0.422				
老人はいない	住居	1	53	主人公の家	1	53	0.297	
	産業	10	305	喫茶店	3	132	2.215	
				旅館	2	69	0.772	
				劇場（映画館）	2	63	0.705	
				新聞社	2	30	0.336	
				食堂	1	11	0.062	
	都市・国	4	49	ソウルの街	4	49	1.097	
不明	2	27	不明	2	27	0.302		
合計	8箇所			平均位相度=0.723				
合計	※17箇所	39	1051	平均位相度=0.7				

部屋または家が重要な舞台である『力士』では、李箱の『翼』における主人公と妻の部屋のように、今の部屋（引越した家）と前の部屋（引越する前の家）という、明確に分割された空間構図を通して、ソウルをあらわしていることが特徴的である。

『ソウル、1964 年の冬』ではソウルの街の記述度が際立つ。ソウルの立ち飲み屋で偶然出会った 3 人の男のうち、生活のために妻の死体を病院に売った男が、使った余ったそのお金を火災現場に投げ捨て、同行した 3 人とも別別に入った、旅館での自分の個室で自殺する物語を、個人主義や資本主義が蔓延している近代都市の暗い断面として象徴的に描いている。

『多産性』は金承鉦の対象作品の中で唯一の中篇小説でありつつ、独立した 3 つの

物語が一人の主人公によって描かれているオムニバス小説で、各々のタイトルである、自然界の「豚」と「ウサギ」、物欲の成れの果てを悟った「老人」は、反近代的価値をあらわしている。また、物語は主人公の家と喫茶店を中心に、人工物や資本・科学などの近代の象徴的ものが描かれ、その舞台として汽車や劇場が主に登場している。

最後に『生命練習』『乾』の作品における出現舞台と位相度を表4-17に示す。

表 4-17 『生命練習』『乾』における出現舞台と記述度

作品	用途	場面数	語数	出現舞台	場面数	語数	舞台記述度
生命練習	住居	6	133	麗水の家 山の邸宅（麗水） 教授の家	4 1 1	99 30 5	12.235 0.936 0.156
	公共	2	24	教会（麗水） 学校	1 1	15 9	0.468 0.281
	産業	4	43	喫茶店	4	13	5.368
	都市・国	10	62	海辺（麗水） ソウルの街	4 3	18 2	2.247 0.187
				麗水 東京	1 1	15 15	0.468 0.468
				埠頭（麗水）	1	12	0.375
				不明	1	5	不明
	合計	12箇所	23	267	平均位相度＝1.945		
乾	住居	5	104	主人公の家 空き家	4 1	89 21	21.177 1.322
	公共	3	64	小学校 防衛隊本部	2 1	27 37	3.444 2.36
	産業	2	19	レンガ工場	2	19	2.423
	都市・国	5	37	市の街 山	4 1	34 3	8.673 0.191
				合計	7箇所	15	224

『生命練習』と『乾』は金承鉦の初期作品で、小学生である主人公の目を通して、近代性（反自然的価値や規則）を描いている。両作品とも家が主な舞台として現れていることが特徴的である。

『生命練習』では、大学生になった主人公がソウルで、幼い頃の麗水での経験を回想する舞台構造で、兄と母との葛藤が描かれる麗水の家、特に、1階の板の床の部屋と2階の屋根裏部屋に対する対比的な空間描写が目立つ。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

屋根裏部屋はこの世の中に存在していなかった。そこはそらにあった。そこは地獄で兄は

地獄を守る悪魔だった…悪魔の相手はもちろん母だった。

『生命練習』84p.

『乾』では、主人公がある都市（ソウルの郊外）のレンガ工場で北朝鮮の軍人の死体を目撃することで、韓国の近代社会を支配してきた冷戦イデオロギーの虚構の実体を知るようになる、意識の変化を描いている。また、防衛隊本部（旧日本人邸宅→子供の遊び場→防衛隊本部→爆撃による廃墟）という、同じ建物における空間描写の変

化が特徴的である。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

土に流れている血と頭の横にある銃がなかったらそれは確かに酔っ払って道端に倒れている
乞食の姿だった…まるでタンクに似ている怪物でもないし、そしてその時死体の周りを囲んで
いた大人たちが…石のように固まっていた信念のかたまりでもなかった…苦しい表情で死んだ
一人の男が私の前に自分の小さい死体を置いといただけだった。 『乾』 109p.

4-2-1-2-2 出現舞台の位置

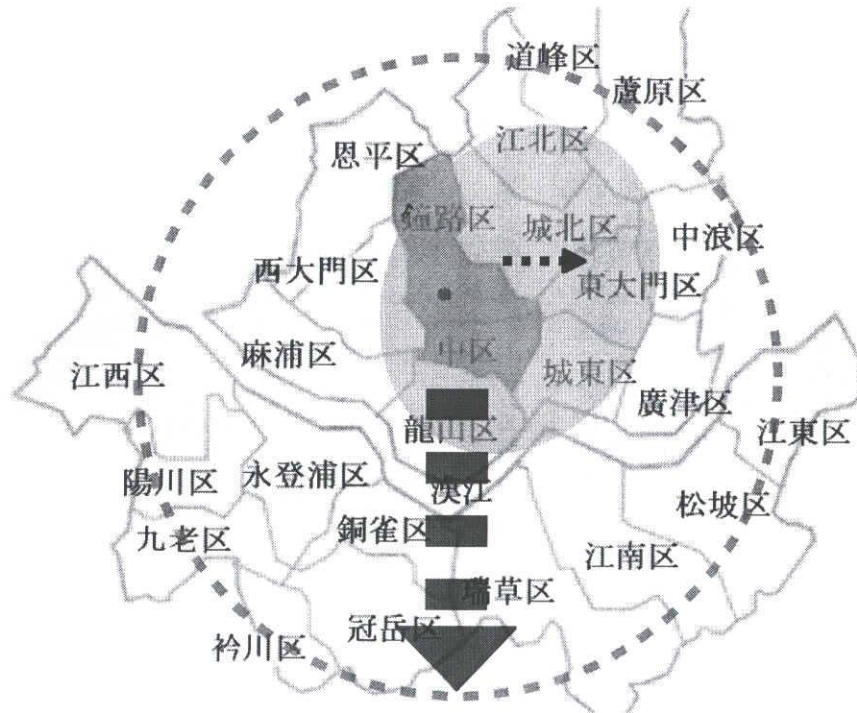


図 4-1 全作品における舞台の出現場所（ソウル）

3 人の作家の作品に登場する舞台の位置を今のソウルを中心に調べ、その結果を図 4-1 に示し、その場所もしくは地域の特徴を探る。点線は 1973 年定まった現在の市境界線を基とした 60 年代におけるソウルの領域を、鐘路区にある黒い点は朝鮮王朝時代の宮殿の位置を表す。

全作品を通して現在ソウルでの出現位置をソウルの地図で表記した結果、ほとんどの舞台が鐘路区と中区に現れた。特に、鐘路・明洞・忠武路・乙支路・南山・清溪川、和信百貨店・美都波百貨店（旧丁子屋）、中央郵便局・ソウル駅など、植民地期での主な都市施設・地名、建物が目立つ。また、江北区（彌阿里）・城東区・東大門区（東大門・踏十里・清凉里）・龍山区など、1930 年代の都心部であった鐘路区・中区を中心として、東の方に対する描写が増えている。

都市への人口集中によって、ソウルの面積が現在の境域（1973 年）に近く広がっているものの（漢江以南への拡張が際立つ）、都市を表象する領域は朝鮮王朝時代の城郭から東と南の方に少し広がったこと、鐘路区と中区を都心部として認識する概念が定

着していたことが指摘できる。

また、全作品に雑誌社・新聞社・出版社などのオフィスビルが多く出現していることから、インターナショナル・スタイルの建築またはボックスビルが、資本主義に伴って 1960 年代におけるソウルという、都市空間を構成する主な要素となっていることが分かる。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

最近の建物すべてがそのようなもので、外の壁ほとんどを占めている、細いアルミサッシで

繋がる横に長い窓に…

『小説家クボ氏の一日』257p.

同じビルの中で他のビルを見つめると粒が粗いセメントの面や乱雑な屋上に愛想が尽きる。また、

高い建物の間にまだ昔のままの瓦葺の家はもったいやになった。瓦の屋根は大体旅館、ホテル、

料亭だけれど…元々この地の主人はあの瓦屋根なのに新しい様式の家が隙間なく立て込んだ間に

残っているそれらは薄汚くて見た目も良くない。

『小説家クボ氏の一日』264p.

各作品の舞台位置を表 4-18～4-22 に示す。

表 4-18 『木、坂道に立つ』における主な舞台と出現位置

出現舞台	現在の具体的な位置（場所）
ヒョンデの家	ソウル鍾路区
ユングの下宿屋	ソウル・不明
内科病院	ソウル城東区
病院	ソウル中区
喫茶店	ソウル鍾路区・中区
居酒屋	（清溪川、乙支路）
平壤屋（居酒屋）	ソウル 鍾路区
和信百貨店	
養老場	
ホテル	東大門区（清涼里の外）
居酒屋	仁川
遊女屋	ソウル外の田舎（部隊周辺の村）
ソウル（街）	ソウル鍾路区・中区 （和信百貨店、鍾路、東園洞、乙支路、忠武路、中央郵便局、美都波百貨店、明洞）
山の村	ソウル外の田舎
部隊と周辺の村	

表 4-19 『日月』における主な舞台と出現位置

出現舞台	現在の具体的な位置（場所）
主人公の家（仁哲）	ソウル鍾路区（寶洞）
池教授の家	ソウル鍾路区（聖志洞）
工事中の家（建築現場）	ソウル中区（墨井洞）
ナミの家	ソウル鍾路区（内需洞）
従兄の家（下宿）	ソウル江北区（彌阿里）
祖父の家	京畿道・山椒村
祈禱院	紫霞門の外の三角山（ソウル江北区）
銀行	ソウル中区（小公洞）
野球運動場	ソウル中区（東大門運動場）
崇報祠	ソウル鍾路区（明倫洞）
セブランス病院	ソウル中区
大学病院	ソウル鍾路区
ソウル駅	ソウル中区
居酒屋	主な場所：ソウル鍾路区・中区（明洞・鍾路、彌阿里）
喫茶店	主な場所：ソウル鍾路区・中区（明洞、忠武路）
モンバルナス	ソウル中区
屠殺場	ソウル江北区（彌阿里）
鉄道ホテル	釜山
ホテル	ソウル城北区（貞陵）
田園グリル	ソウル鍾路区
料理屋	ソウル鍾路区（清淮洞）
畜産企業組合	東大門の外（ソウル鍾路区）
泉喫茶店	ソウル中区忠武路
飲食店	ソウル中区（明洞）
バー	
鍛冶屋	ソウル江北区（彌阿里）
ソウル（街）	主な場所：ソウル鍾路区・中区（鍾路、敦化門、齋洞小学校、忠武路、明洞、和信百貨店、乙支路、昌慶苑）
議政府	京畿道（ソウル外郭都市）
山椒村	京畿道・楊州郡

表 4-20 『広場』における主な舞台と出現位置

出現舞台	現在の具体的な位置（場所）	
ヨンミの家	ソウル中区	
ジョン先生の家	（南山周辺）	
ユンエの家	仁川	
北朝鮮の下宿部屋	北朝鮮・平壤	
父の家		
警察署→ 北の捜査機関	ソウル・不明	
休養所	北朝鮮	元山
労働新聞社		平壤
建設現場		
病院		
朝鮮人コルホーズ	満州	
捕虜収容所	巨済島（韓国）	
板門店	38度線	
居酒屋	仁川の埠頭	
ソウル（街）	ソウル鐘路区	
盆地（仁川）	仁川の埠頭の小山	
洞窟（戦場）	洛東江（慶尚道）	
北朝鮮	北朝鮮・平壤	
船（中立国行き）	東中国の海	
中立国	中立国	

表 4-21 『小説家クボ氏の一日』における主な舞台と出現位置

出現舞台	現在の具体的な位置（場所）	
クボのアパート	ソウル内の町外れ	
クボの下宿屋	（新しく編入した地域）	
知り合いの家	ソウル・不明	
景福宮	ソウル鐘路区	
昌慶苑	ソウル鐘路区 （今の昌慶宮）	
宮内美術館 （国立美術館）	ソウル鐘路区	
関心大学	ソウル・不明	
心燈寺	ソウル内の町外れ	
教会礼拝堂	清溪川周辺（ソウル鐘路区・中区）	
友達の大学建物	ソウル・不明	
慈光大学劇場	ソウル・不明	
喫茶店	ソウル中区・鐘路区 （退溪路、光化門、安國洞）	
友達の事務室	ソウル鐘路区（清進洞）	
中華料理屋	ソウルの鐘路区（光化門、安國洞）	
友達の電気屋	清溪川周辺（ソウル鐘路区・中区）	
ギャラリー	ソウル鐘路区（安國洞）	
有情居酒屋	ソウル鐘路区（城北洞）	
文楽社	ソウル（鐘路区）	
新聞社	ソウル鐘路区（清進洞）	
劇場（映画館）	ソウル鐘路区	
理髪店	ソウル内の町外れ （クボ氏の町）	
平和出版社	ソウル鐘路区	
韓国新聞社 （韓国日報）	ソウル鐘路区	
女性楽園社	ソウル中区（西小門洞）	
出版社	ソウル（鐘路区）	
産業新聞社	ソウル（鐘路区）	
飲食店	ソウル鐘路区（清進洞）	
雑誌社	ソウル鐘路区 （和信百貨店の裏側）	
良書出版社	ソウル・不明	
洋品店	ソウルの鐘路区（光化門）	
ソウル（街）	ソウル中区・鐘路区	

表 4-22 「金承鉦」の作品における主な舞台と出現位置

作品	出現舞台	現在の具体的な位置 (場所)
Mujin 紀行	叔母の家	Mujin(仮想の村)
	友達の家	
	海辺の家	
	税務署	
夜行	銀行	ソウル鍾路区・中区
	劇場	
	ホテル	
	旅館	
	ソウル (街)	
力士	今の家	ソウル・不明
	薬局	(新式住宅地)
	成興屋	ソウル鍾路区
	前の家	(昌信洞・貧民街)
ソウル、 1964 年の冬	立ち飲み屋	ソウル中区・龍山区 (明洞、南宮洞)
	中華料理屋	
	洋品店	
	旅館	
	ソウル (街)	
多産性	主人公の下宿屋	ソウル (鍾路)
	洋式家屋	ソウル東大門区
	幸州山城	京畿道・陵谷
	喫茶店	ソウル・不明
	女郎屋	
	肉屋	
	演劇劇場	
	旅館	
	新聞社	ソウル鍾路区・中区
	映画館	
	食堂	
	ソウル (街)	主な場所: ソウル鍾路区・中 区・東大門区 (鍾路、ソウル 駅、路十里)
	ソウル外	京畿道・陵谷
生命練習	麗水の家	韓国全羅南道・麗水
	山の邸宅	
	学校	ソウル・不明
	喫茶店	
	麗水	韓国全羅南道
	ソウル (街)	(ソウル鍾路区)
	東京	東京
乾	主人公の家	ある市
	空き家	
	防衛隊本部	
	レンガ工場	

4-2-2 用途別空間における構成キーワード

舞台とそこで現れる建築用語を用途別にまとめて空間別の構成キーワードから1960年代の建築と都市の特徴を探ることを目的とする。

全作品に登場する住居空間の類型を表4-23に表す。

表4-23 全作品に登場する住居空間の類型

類型		描写特徴	居住人	位置
伝統家屋 (近代以前)	伝統韓屋 (支配階層)	朝鮮王朝時代における瓦屋根の家という描写	富裕層	ソウル
	※藁葺きの家 (被支配階層)	母屋(奥の間)と庭、客の間など伝統平面の構成を持つ(支配階層より規模が小さい)	庶民	ソウルの 周辺地域
都市型 韓屋	基本構造	一字・L字型の母屋をと離れ屋(門屋)の平面構成(L字型母屋の変形が特徴)	中産層 (庶民:離れ 屋の賃貸・貸 間)	ソウル(町外 れ)・仁川
	室内平面変化	ソファ・テーブル、板の間→書斎・応接室、向かい部屋→書斎など室内の近代化が特徴的である		ソウル
外来式	和式家屋	敵産家屋でも呼ばれる(コ字型・畳・廊下・階段)	富裕層	ソウル・平壤
	和洋式住宅	日本式(廊下・たたみ) + 西洋式(ベチカ) + 韓国式(オンドル)の複合構造		ソウル
	※西洋式邸宅	西洋人の居住空間(石造邸宅)	アイランド 宣教師	地方
現代式	洋式住宅 (新式)	二階・ホール・レンガ・コンクリート・スパニッシュスタイル	富裕層	ソウル
		二階建て・庭、板の床(マルの個室化)・表門(鉄)茶色のラウンドア・ベニヤの天井	中産層 (庶民:賃貸)	
	アパート	1962年から登場した集合住宅	庶民(賃貸)	
バラック		庶民(貧困層)たちにおける戦後の住居空間(土壁・トタン葺きの屋根)	庶民(貧困)	ソウル・地方

※はソウル外の地域である。

戦後の住居空間は、朝鮮時代からの家屋から和式や西洋式の住宅、バラック、新たな集合住宅であるアパートまで、多様な住居類型が登場し、その描写特徴により11つのタイプを見出すことができた。住居類型から、伝統・植民地・戦争・新文明が混在している当時のソウルの様相が見られる。植民地期に建てられたと思われる和式と和洋式の家が、韓国における富裕層の住居空間として現れていることが目立つ。

都市型韓屋では、室内空間を近代風に改造したタイプが現れた。そして、空間の変更だけではなく、生活様式の変化をあらわすソファやテーブルなどが共通的に頻出していることで、当時の近代化が都市と建築だけではなく、生活全般に影響を及ぼしている様子が見られた。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

郊外では、ほぼ平屋建ての、新しい住宅の風が吹き始めていた。その頃建てられた家は、すべて同様の姿であった。同様の姿というのは外観だけに限った話ではない。内部の風景までもが大体同じであるということだ…一般の家庭なら備えている最新のシステムキッチンで、主婦が自分のために一杯の

コーヒーを用意して朝の余裕を楽しむ、そのようなことも含んでいるのだ。『小説家クボ氏の一日』96p.

中産層の洋式住宅を構成する茶色のラウンドアとベニヤの天井は、現在の一戸建てにも多く見られる要素で、戦後に登場した様式住宅が韓国の一般住宅の原型として大衆化してきたことが分かる。全体的に、戦後社会において資本主義による貧富の差が深化していることが、庶民から富裕層までの多様な住居形態を通してあらわされているといえる。

公共・産業空間は都市空間とともに分析する。作品に登場する都市空間はソウルとソウル外（韓国）、平壤（北朝鮮）に分かれる。

ソウルでは、舞台の位置でも確認できたように、鐘路区・中区に属している建物・道路施設・地域の描写が多い。国会議事堂（太平路府民館）・中央庁（旧総督府建物）・市公館（旧映画館、1959年国立劇場）・美都波百貨店（旧丁子屋）・和信百貨店・ソウル駅・團成社（映画館）、鐘路・明洞（明治丁）・乙支路（旧黄金町通）・忠武路（旧本町通）など、植民地期での主な建物と道路施設および地域が目立つ。

また、ソウルを構成する主な建築用語として、ほとんどの作品にあらわされている中央劇場（1950年竣工）とともに、都市空間の西欧化をあらわしている新式住宅・文化住宅・高級アパートやビル・ビヤホール・ダンスホール・キャバレー・サロンから、1960年代のソウルを表象するキーワードとして「文化」を見出すことができる。特に、中央劇場は都市のランドマークを超えて、植民地期における民族の独立や戦争によるイデオロギーから文化が導く社会に変わっているという、韓国社会におけるパラダイムの変化を意味していると考えられる。しかし、大量生産化による一律的な住宅形態（同じ形態の表門）や周辺と調和してない無分別な都市の様子（異国都市・租界）は、文化という美名に隠れていた都市化の裏面をあらわしている。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

この辺りは韓式家屋（都市型）しかない。ハウスのメーカーが一気に作り出したようだ。

『小説家クボ氏の一日』53p.

映画館の看板の下でこんでいる人々を見る度にいつも香港という字が浮かび上がる。看板の中で…

アリアン系統の外国の俳優の顔とその下で集まっている黄色のモンゴル族の対比が租界とか政庁、

治外法権、原住民などこのような雰囲気を引き起こした。この頃は高い建物が建ってからもっと

ハガキで見えるその異国都市の姿に似ていく。

『小説家クボ氏の一日』115p.

さらに、道路拡張や地下鉄工事のために歴史遺産の位置を変更してしまうほど

(図 4-2)、当時の都市計画は歴史という場所性を活かした個性的なソウルを作る意識より、ソウルを都市という物理的な形に作り出すための経済的な目的が優先されていたことが分かる。

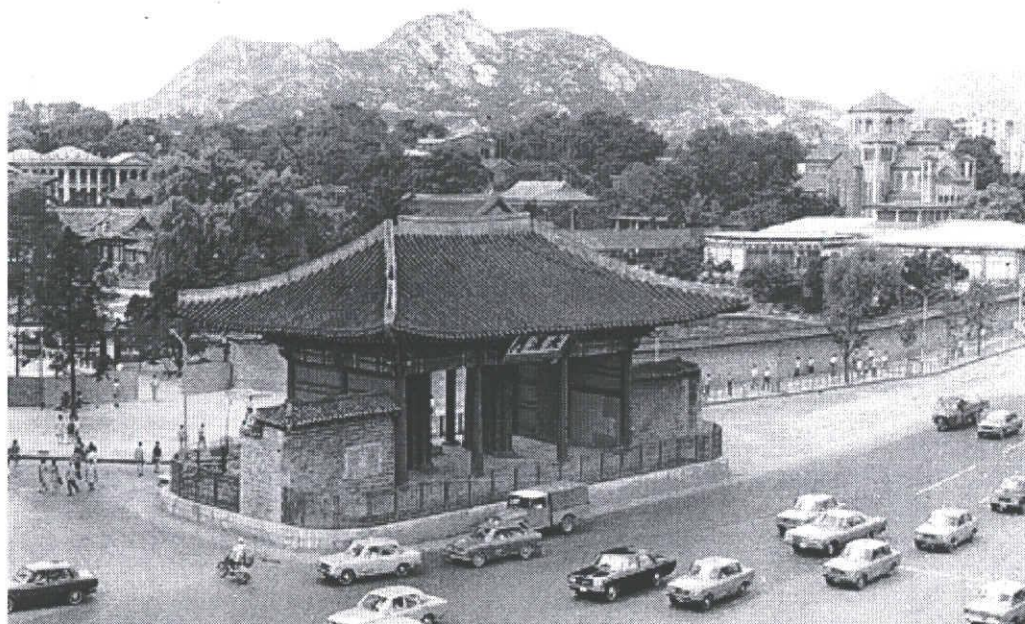


図 4-2 道路拡張によって孤立された大漢門（徳壽宮の正門）^{注1)}

作品から戦後社会において、都市のための都市化に対する批判が主な空間表現として現れている文を例として下記に示す。

大韓門の前の車道では地下鉄道の工事をするために…その地下鉄工事の場所は元の大韓門の位置だった。『小説家クボ氏の一日』 308p.

外国へ行ったこともないクボ氏さえそんなに恐ろしく感じない、無用に再生したこの街よりは、その時の、壊れていた街の方がもっとも元気だった。開港した以来、明洞というこの土地を覆っていた皮が一度剥けて、素肌が、この地の素顔が鮮やかに現れていた。『小説家クボ氏の一日』 128p.

この道もソウルのような場所ではあまりない道である。…この路地は新しく建てた家（建物）がなくても粗末にみえないし、とても中身もあって由来もありそうにみえる。『小説家クボ氏の一日』 265p.

その他に、当時の都市化は住宅難や交通難という表面的問題だけではなく、資本主義に共鳴して貧富の両極化を加速させる同時に、無機質な空間など特色のないソウルを作り出した。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

今は二十階越える高い家（建物）が建たれている。この都市はいつの間に経済規模が異なる

集団で組み合わせている。

『小説家クボ氏の日』 218p.

貧民街が夜になると空気がもっと濁る。遠く見える都市中心部の、あちこち高くそそり立ったビルが

…貧民街はその暗いビルの影の中で息をしていた。

『力士』 138p.

ソウルに住んでほとんどの人は広い都市の中で多い人と一緒に住んでいると思っているはずだが、

…実際に関係している人は少ない。

『小説家クボ氏の日』 218p.

資本主義社会での、膨大な産業秩序の中で日に日に人間らしい弾力を失っていく、そういう人たちと

同じくなれと強要する声であった。

『広場』 135p.

人間のジャングル。互いにお酒を酌み交わすときだけは、いとも睦まじげに振り舞っても、一旦

自分に不利と見て取るといとも無関心な他人になってしまう世界。

『日月』 226p.

旅館に入ると…壁に区切られた部屋、そこは我々が入らなければならないところだった。

『ソウル、1964年の冬』 226p.

また、1930年代の文学にも描かれる城郭の門の中で、特に東大門の周辺が庶民地域として多く記述されたことが特徴的である。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

初めてヒョンテと一緒にここ養鶏場の敷地に来た時は…周りが静かで空気も清かった…

しかし養鶏を始めてから厚生住宅とともに人家が建てられて一年の間に一帯がまったく

変わってしまった。（ソウル東大門区、清涼里の外）

『木、坂道に立つ』 226p.

天井の高さが低くて…貧民街での家でしか見られない天井。そうだ、前の部屋（家）は

東大門の隣にある昌信洞、貧民街にあるものである

『力士』 145p.

貧民街が夜になると空気がもっと濁る。遠く見える都市中心部の、あちこち高くそそり立ったビルが…

貧民街はその暗いビルの影の中で息をしていた。

『力士』 138p.

踏十里（東大門区）の方は…少し前まで田んぼだったところに赤い瓦で白いタイルを張った家が

密集して建てられているし、路地も数多くあらわれていた…雨が降っていたから、道は水がたまって

いる田んぼのようなものだった。

『多産性』 234-5p.

それに比べて、記述量も東大門より極めて少ない西大門の方は、その描写も都市化が進んでいない田舎のように描かれていたことで、都市化あるいは都市を表象する領域が西より東の方に広がっているといえる。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

西大門のタバコ工場の高い煙突を眺めながら…新村駅に汽車が着いたときは、ここがソウルから

遠く離れた田舎のような気がして目の前の梨花女子大学が…不思議に見えた。『多産性』 218p.

朝鮮王朝の象徴である景福宮の前に建てられている中央庁（旧総督府建物）や、動物園と植物園に使われている昌慶苑（旧昌慶宮）に対する批判からは、当時の日本の残滓清算に関する社会の雰囲気を読み取ることができる。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

市民の遊び場があるというのはいいことであるが、ここは敷地まですべてが文化財ではないのか。

この建物と庭が元々持っていた姿を保つべきだろう。…動物園が必ずここにあるべきだろうか。

『小説家クボ氏の一日』 46p.

これまでの分析結果をまとめると、当時のソウルは現在の面積に近いほど大都市になっているものの、経済性を主な理由とした近代化は都市景観の乱れや無機質な空間をもたらしたことが分かる。これは、都市と建築空間の計画が哲学のない時代精神、いわゆる資本に左右されたためと考えられる。また、文化がもつ精神的価値より、新しさという見た目を求めている社会の様相が見られた。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

人間は彼自身の密室に閉じこもるだけでは生きられません。人間は広場に出ることを誰でも願っているのです…外国などは何といてもキリスト教が政治の底辺を流れる清水のような役割をしている。

…都市にたとえば西洋の政治社会は下水の施設が良くできている… 『広場』 55p.

ソウルはすべての欲望が集結する場所です。 『ソウル、1964年の冬』 46p.

ソウル外では仁川と山椒村（ソウルの近郊）、北朝鮮が主にあらわれる。仁川は戦前から港町として今も重要な都市であるが、山椒村とともに自然や伝統という近代以前の価値をあらわす空間として描かれたことが特徴的である。北朝鮮は当時の時代状況（冷戦イデオロギ―）をあらわす舞台で、韓国と対比的に個人性のない社会として描かれている。作品から主な空間表現が現れている文を例として下記に示す。

個人的な欲望がタブーになっている社会。北朝鮮に重苦しく覆いかぶさった空気は、まさしく

このタブーの雲がもたらす現象であった。 『広場』 123p.

各々の作品における用途別空間の構成キーワードを表 4-24～4-30 に示す。

表 4-24 『木、坂道に立つ』における用途別空間の構成キーワード

用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
住居	建築類型	(洋式住宅)		部屋、奥の間、応接室、(浴室)	電話、ガラス窓	(富裕層) 渡米留学、家政婦
		韓式家屋		板の間、奥の間	濡れ縁、障子	(庶民層)
		蕨草きの家 (ソウル外)	蕨草きの家	部屋、納屋、庭、台所	土間	ガラス
公共	医療		病院	入院室	ガラス窓	
産業	商業	ソウル	喫茶店、平壤屋(居酒屋)、和信百貨店、パン屋、中華料理屋、グリル	奥の間・部屋・台所・ホール(平壤屋)	電話・階段(喫茶店)	
		ソウル外 (遊女屋)		奥の間、部屋、庭、便所	焚口、表門、お膳	
	その他		養鶏場、映画館、理髪店、メガネの店、玉突屋、パン屋	庭・部屋・納屋・台所(養鶏場)	大門・オンドル(養鶏場)	
都市・国・交通	韓国	ソウル	和信百貨店、半島ホテル、カトリック教会堂(明洞聖堂)、中央劇場、厚生住宅、保険会社、国際劇場、ソウル駅、明洞劇場、中央郵便局、飛行場(空港)、美都百貨店、東亜日報社、新新百貨店、團成社、首都劇場、首都陸軍病院	清涼里、回基洞、仁寺洞、齋洞、樂園洞、明洞、茶屋洞、永登浦、竜動洞、下往十里、武橋洞、乙支路、錦路、廣橋、電車道、東大門、紫霞門、忠武路	清溪川、バス、自動車、タクシー	
		ソウル外	遊女屋、バラック、海雲臺ホテル(釜山)、国連、捕虜収容所、PX、ホテル(仁川)	部落、小土古味、華川	井戸、カーパイド	ガラス、山、森、谷間、部隊、戦場
	その他				バス	戦場

表 4-25 『日月』における用途別空間の構成キーワード

用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード				
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他	
住居	建築類型	洋式住宅 (新築の家)		二階、温室、地下室、ホール、女中部屋、お客さん用部屋	階段、レンガ、コンクリート、シャンデリア	スバニッシュスタイル	
		和洋式住宅		奥の間、部屋、二階、応接室、浴室、庭、車庫	廊下、電話、ベッド、ガラス窓、網戸、テーブル、洋服ダンス、玄関、オンドル、椅子、ドア(部屋と部屋の境目)、階段、表門、ベチカ	(富裕層)	家政婦
		韓式家屋	古い大きい朝鮮時代の瓦屋根の家	庭、向かい部屋	表門、中門、ガラス棚、机		
			母屋、離れ家(別棟)	奥の間、書斎(向かい部屋)、板の間、庭、ピアノ部屋	表門、中門、ソファ、テーブル、ガラス戸(板の間)、電話	(中産層)	
				奥の間、向かい部屋(板の間の次の部屋)・庭の向かい部屋・門脇の部屋(貸間)	焚き口、濡れ縁	(庶民層)	
		バラック	小屋みたいなバラック		土壁、トタン葺きの屋根		
		藁葺きの家 (ソウル外)		庭、奥の間、客の間、台所	柴の門		
公共		宗教	祈禱院、掘り立て小屋(祈禱院)、崇聖祠	納屋のような部屋(祈禱院)	土壁・テント地の屋根・代用のガラス(祈禱院)、オンドル・焚き口・煙突・セメント(掘り立て小屋)		
		その他	大学病院、小学校、銀行、セブランス病院、野球場、ソウル駅	大学研究室、広場(ソウル駅)			
産業		商業	居酒屋、喫茶店、モンハルナス(喫茶店)、田園グリル、飲食店、バー	地下室(モンハルナス)		ラジオ(モンハルナス)	
		その他	屠殺場(建物)、畜産企業組合、鉄道ホテル、ホテル、玉突屋、鍛冶屋	トタン葺きの屋根(山椒村の屠殺場)	セメント(屠殺場)		
都市・国・交通	韓国	ソウル	市公館(1959国立劇場)、金千代會館(現市警庁舎)、昌慶苑、中央郵便局、美都百貨店、成均館大学、明洞劇場、和信百貨店、ソウル運動場、専売庁、ダンスホール、国会、中央劇場、首都劇場、中区署、大学病院(ソウル大学)、首都劇場、ダンスホール、ソウル駅、市庁、ビル、礼拝堂、放送局、骨董屋、よろず屋、借家、明洞劇場、質屋	グァンサル(漢江の渡船場)、敦化門、龍洞、鐘路、敦化門、忠武路、明洞、乙支路、昌慶苑、東大門、聖志洞、安國洞、明倫洞、苑南洞、樊忠壇、清進洞、仁寺洞、南大門	漢江、公衆電話、電車、自動車、タクシー、バス、牛車		
		ソウル外	官立学校(孔子廟の付属している)・教会・はたごや(山椒村)	山椒村(楊州郡)、釜山、議政府、太川	塔・牛車(山椒村)	貯水池・山・衛平社(山椒村)	
		その他		ビル・建物(露の道路)、森の中の丸太小屋、建築工事現場(泥沼を埋める人と工事進行のスピード)	赤土の村(竜柱に並んだ人々)、露の道路、赤い町・荒涼とした赤土の野原・階段だけの家・暗い洞窟(夢)、ある海辺の町(一人の兵士が農民の殺人者を射殺)		別荘がある海辺

表 4-26 『広場』における用途別空間の構成キーワード

用途別 空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属機)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
住居	建築類型	和式家屋	コ字型、母屋、日本式家屋	庭、屋根裏の部屋(畳部屋)、二階、 人造の築山、客の間、食堂	高い屋根、階段、ガラス戸、 廊下、表門	南山の道
		室内 変化	韓式家屋	書斎、寝室、応接室	テーブル、回転椅子、ベッ ド、ソファ、電着	
		なし	後ろの棟(離れ家)、母屋	板の間、部屋	表門、レンガ塀、椅子、お 膳	仁川の町外れ
		敵産家屋 (和式家屋)	敵産家屋	庭、部屋		
公共	ソウル		警察署(建物)	取調室、刑事室、地下室	廊下	
	北朝鮮		休養所(別荘)、病院、労働党、労働新聞 社、建設現場(野外劇場)、国立劇場	図書室(新聞社)、病室	スチーム暖房(休養所)	海水浴場(休養所)
	戦争関連施設		捕虜収容所、板門店			
	満州		朝鮮人コルボーズ(集団農場)	事務室		原野
産業	商業		居酒屋		板の床	北朝鮮(密航)
都市・国 ・交通	韓国	ソウル	文化住宅、中央廳、キャバレー、ビル	鍾路、南山	米軍ジープ、自動車、バス	警察署の裏山
		ソウル外		京仁道路・埠頭・港・魚市場・盆地(仁 川)	船(仁川)	海(仁川)、洞窟(戦場)
	北朝鮮		敵産家屋	松嶺園、明沙十里		灰色共和国
	船(中立国行き)			香港(不夜城、港口都市の夜の風景)	マスト	中立国、かもめ
その他			哲学の塔(想像)、病院・消防署・大統領 官邸・居酒屋・アパート(中立国)	部屋(哲学の塔の中)、理想の広場(ペー ブルメント、噴水、銅像、ベンチ)	窓、本棚	青い原野

表 4-27 『小説家クボ氏の一日』における用途別空間の構成キーワード

用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属機)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
住居	建築類型	アパート	アパート		ガラス窓、ベッド	花壇
		韓式家屋	韓屋、下宿、下屋、門屋、L字型母屋	庭(マダン)、奥の間(アンパン)、新式台所、板の間(マル・デチョン)、浴室、部屋	ガラス窓、濡れ縁、障子、表門、濡れ縁、お膳	町外れ、庶民層
公共	教育		大学、学報社、講堂、大学劇場、図書館、建物(町外れの)	庭・荘園(大学)	電気ストーブ(大学)	仏教財団・マッチ箱のような文理大木館・人工物(大学)
	歴史(文化遺産)		昌慶苑(動物園・植物園)建物(昌慶宮)、景福宮、国立美術館	庭、展示室、池、回廊	オリ、玄関(美術館)、瓦屋根・中門(景福宮)	中央庁(旧総督府建物)の外壁(景福宮)
	その他		心燈寺、法堂、客の棟、教会、礼拝堂	庭・部屋・板の間(心燈寺)	電気ストーブ(心燈寺)	神聖な場所(心燈寺)、僧房(教会)
産業	商業		喫茶店、中華料理屋、韓屋(料亭)、電気屋、工房(店)	二階・ホール(中華料理屋)、板の間・向かい部屋・奥の間・門脇部屋・寄部屋・別室(料亭)、地階(喫茶店)	ガラス、障子・お膳(料亭)、ガラス窓(電気屋)ガラス戸(店)、テレビ(喫茶店)	
	文化(出版・芸術)		雑誌社、出版社、ビル、映画館、新聞社、建物、ギャラリー、芸総会館	地階、三階、四階、会議室、編集室、応接室	スチーム、テーブル、ソファ、ガラス窓、昇降機	異国的・粗界(映画館)
	その他		理髪店、事務室建物、	事務室・四階(建物)学院・ピヤホール、喫茶店(建物内)	アルミサッシ・ストーブ・電話(建物)	
都市・国・交通	韓国	ソウル	幼稚園、結婚式場、徳寿小学校、京畿女子高、東亜日報社、消防署、首都陸軍病院、鐘閣、昌徳宮、徳寿宮、新興住宅、韓国日報社、昌徳女子校、ソウル大学、新式住宅、華僑小学校、最高裁判所、和信百貨店、バラック、寿松小学校、国会議事堂(太平路府民館)、京畿道庁、高級アパート、曹溪寺、明洞聖堂、中央劇場、ホテル、中央庁、日本大使館、市民会館、赤十字社、産業新聞社、教世軍本営、韓式家屋、大学院、お寺、本屋、電気会社、ガス会社、水道局、ワンタン屋、病院、居酒屋、瓦葺家、洋式家屋(建物)、通信部、専売庁、工場	鍾路、地下道、東大門、追溪路、アスファルト、忠武路、世宗路、乙支路、西大門、高架橋、貧民街、開市、広場(芸総広場)、明洞、安國洞、清進洞、苑南洞、三清洞、武橋洞、樓上洞、清涼里、忘憂里、孝子洞、城北洞、永登浦、大方洞、樓上洞、凡一洞、貫動洞、光化門、敦化門、大漢門、宮壁、秘苑	バス停留場、自動車、タクシー、バス、牛車、地下鉄、清溪川	平等・公的な場所(電車)、セメント家・倉庫のような家(華僑小学校)、粗界、淫売屋、shadow society、society、監獄、ブルジョア社会、自動車の煤煙、夜の都市(夜間通行制限)、ハウスマーカー、同じ形態の大門、高い建物、異国都市
	その他		聖堂、お寺の跡	海の中の村、さかさまの村、イタリア、ロシア、北朝鮮、オランダ		海辺、砂漠

表 4-28 『Mujin 紀行』『夜行』における用途別空間の構成キーワード

Mujin 紀行					
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード		
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素 その他
住居				応接室(友達の家)	表門(友達の家)
公共			税務署		
都市・国・交通	韓国	ソウル外(ムジン)	税務署、病院、鉄工所、新聞支局、学校、事務所、わらわき家	広場(舗装された)、住宅地	瓦の屋根、ブリキの屋根、土塀、サイレン、堤防 海、山、田舎
夜行					
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード		
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素 その他
産業	旅館		二階建て(新しくリフォームした)		會賢洞の路地
都市・国・交通	韓国	ソウル	銀行、劇場(映画館)、百貨店、喫茶店、バー、ホテル、韓国銀行、建物、中央劇場、新世界百貨店	鐘路、明洞、會賢洞、市場、乙支路	バス、タクシー、自動車、歩道橋(階段)、街路灯 中心地、ドーム(韓国銀行)、捕虜収容所(ソウル)、反社会
その他					歩道橋

表 4-29 『カ士』『ソウル、1964 年の冬』『多産性』における用途別空間の構成キーワード

カ士					
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード		
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素 その他
住居	建築類型	バラック	下宿、バラック(板で作った)	部屋、庭、便所(室外)	水道、コンロ 貧民街、家の構成員: 大家族、下宿人(売春婦、50代おじさんと娘、私、労働者ソ氏)
		洋式住宅(洋屋)	下宿、洋式住宅	部屋(各自の)、板の間(応接室)、庭	家の構成員: おじいさん(会社の役員)、おばあさん、息子(大学の講師)、息子の妻、娘(高3)、息子の娘(3才)、家政婦
産業	商業		建物(喫茶店が二階に入っている)バラック(居酒屋)	トイレ(建物内)	階段(建物)
都市・国・交通	韓国	ソウル	兼屋(路地の商店)、喫茶店、ビル	東大門、昌信洞、貧民街、市場、公園	城壁(東大門)、自動車、バス、カーバイド 中心部、貧民窟
ソウル、1964 年の冬					
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード		
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素 その他
産業	商業		立ち飲み屋、中華料理屋		カーバイド(居酒屋)
	その他		旅館	壁に区切られた部屋	
都市・国・交通	韓国	ソウル	ビル、セブラス病院(ソウル駅前)、美容学院、ビヤホール、和信百貨店、團成社(映画館)、赤十字病院、ソウル駅	湖阿里、南宮洞、西大門、鐘路、乙支路、平和市場	看板・ネオンサイン(広告)、バス、タクシー、電車
多産性					
用途別空間	詳細分類		空間の構成キーワード		
			建物 (建物・機関・敷地内の付属棟)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素 その他
住居	建築類型	韓式家屋	下宿、一字型母屋	台所、庭、部屋、板の間、便所(外部)、奥の間	お櫃、ラジオ、表門、障子、軒 (向かい部屋に下宿)
		洋式住宅	洋式の家、二階建て	庭、部屋、板の床	表門(鉄)、障子
公共	歴史・文化		皇州山城	空き地	
産業	商業		喫茶店、女郎屋、肉屋、食堂		
	その他		新聞社、旅館、演劇劇場、映画館	部屋・コンクリートの庭(旅館)	
都市・国・交通	韓国	ソウル	梨花女子大学、ソウル駅、中央劇場、新村駅、昌慶苑、サロン、洋装店、ビル、養老院	南大門(市場)、鉄路、路十里、ハゴダ公村、東大門(市場)、西大門、乙支路、自院、駅前の広場	電車、牛車
		ソウル外			田んぼ・山・野原(陵谷)
	その他		北地方の原野の汽車駅		無人島

表 4-30 『生命練習』『乾』における用途別空間の構成キーワード

生命練習						
用途別 空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属機)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
住居	住居 類型	バラック (板の小屋)	板のバラック	オンドル部屋、板の床の部屋、屋根裏部 屋、便所(室外)	ランプ	
		洋式邸宅	石造邸宅		玄関、ベンチ	アイランド宣教師
公共	宗教		教会(麗水)	庭(教会)	板の床(教会)	
産業			喫茶店	地下室(ビル)		
都市・国 ・交通	韓国	ソウル	喫茶店、初級大学	東大門		
		ソウル外 (麗水)	教会、製氷工場、汽車駅、貸本屋	広場、埠頭、市場	灯台、堤防	海、秘密王国
	東京					桜
乾						
用途別 空間	詳細分類		空間の構成キーワード			
			建物 (建物・機関・敷地内の付属機)	空間 (部屋・室外空間・都市施設・地名)	詳細構成要素	その他
住居	建築類型	韓式家屋		部屋、庭	ガラス窓、表門、土塀、瓦	
		和洋式邸宅	邸宅	奥の間、地下室、池(庭)、倉庫	たたみ、石灯	岩(池)
公共			防衛隊本部(和洋式邸宅)、小学校	教室	校門	
産業			レンガ工場	広い庭	かま	
都市・国 ・交通	韓国	ソウル外	市立病院	市街地	消防車、アスファルト	

参考資料として 1960 年代の代表的建物と街の風景写真を掲載する。



図 4-3 都市型韓屋の住居地域

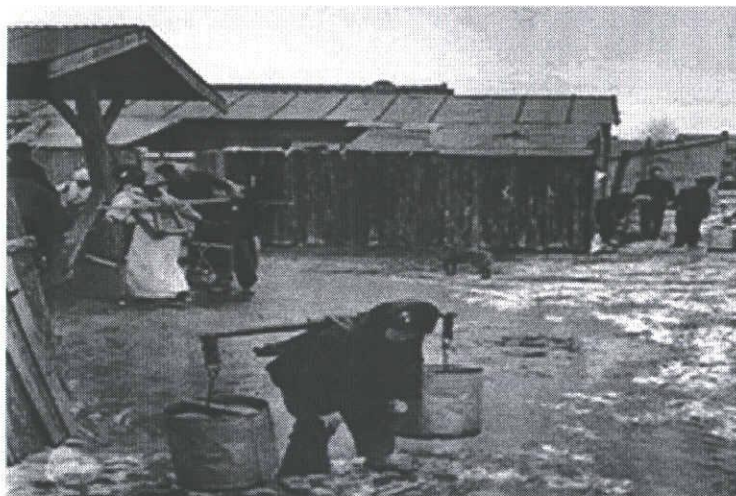


図 4-4 玄石洞の共同井戸（ソウル麻浦区 1960 年）

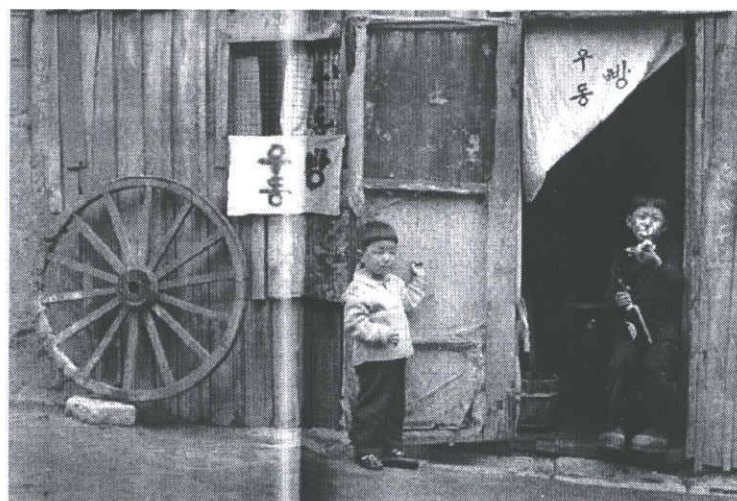


図 4-5 北倉洞のうどん屋（ソウル中区 1958 年）

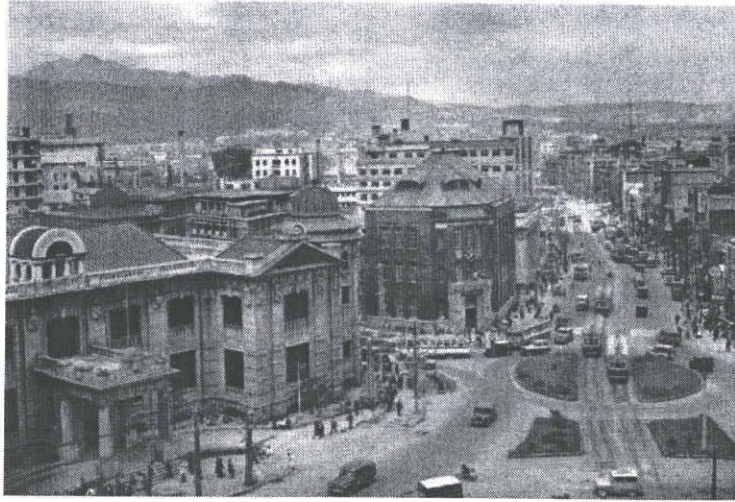


図 4-6 1960 年代ソウルの街（明洞大通り）



図 4-7 1960 年代ソウルの街（南大門大通り）



図 4-8 1960 年代ソウルの街（ソウル駅前）

3-2-3 空間の属性と意味

文学の中で描写される様々な表現、特に、空間表現要素にかかわる文章と、舞台を性格付けるものとして各物語内での特徴や主な人物を抽出し、舞台ごとに整理して舞台の空間属性を調べる（節末に全作品における舞台別の空間属性を付けた。表 4-31～41）。舞台の用途とともに、空間属性の中でもっとも多く現れた様式（近代式と韓国式）を軸として舞台を位置づけ、他の属性を基に舞台構造図を作成して、舞台同士からあらわされる空間の意味と、1960年代における近代社会の意識構造について考察を行う。図の中で、実線で描いた円形の舞台は高い位相を占めている空間を表す。

黄順元の作品における舞台の相関関係図を図 4-9 と 4-10 に示す。

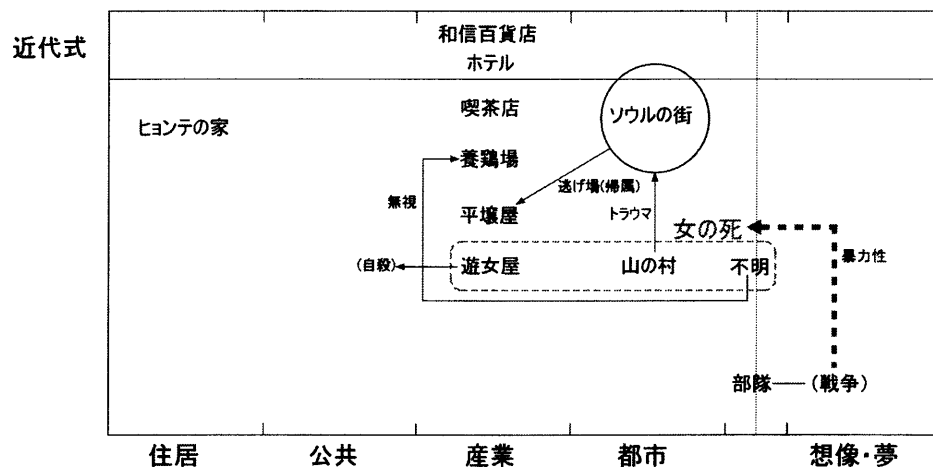


図 4-9 『木、坂道に立つ』における舞台構造図

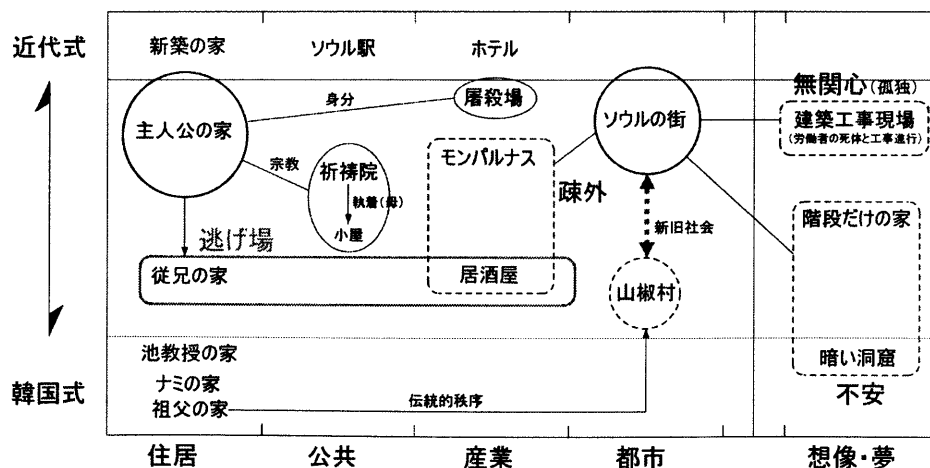


図 4-10 『日月』における舞台構造図

『木、坂道に立つ』では、女の死に直面した3人の登場人物の行為や感情、自殺・彷徨（トラウマ）・無視（現実優先）などの描写を通して、戦後の不安定な社会に対する人々の意識構造が読み取れる。また、現実から逃避する場所として居酒屋がよくあらわれ、特に、ソウルの「平壤屋」はその空間に帰属する傾向が見られる。『日月』の場合、伝統的な秩序をあらわす山椒村とソウルが、新旧社会として対立的な空間構図を形成していること、無関心による孤独・疎外・不安がソウルを表象する空間情緒として現れていることが分かる。特に、労働者の死体と工事の進行速度が比例する建築現場の描写は、人間の尊厳性が軽視される都市構造をあらわしているといえる。

崔仁勲の作品における舞台の相関関係図を図4-11と4-12に示す。

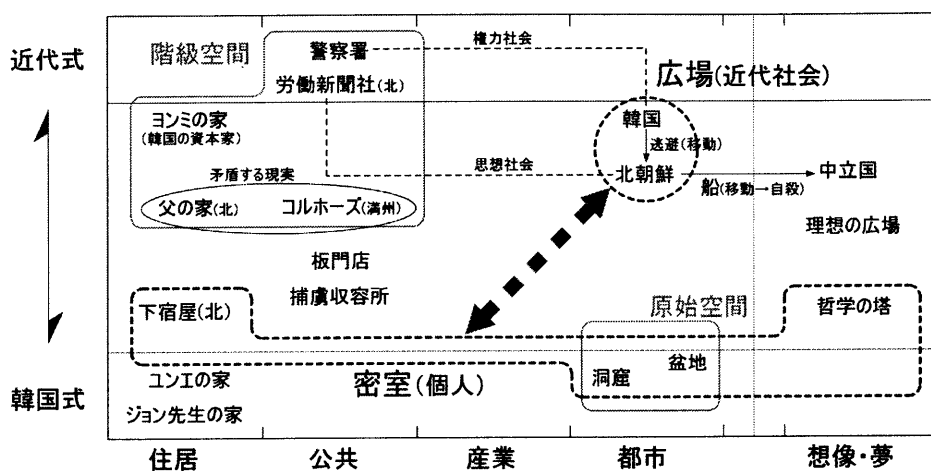


図4-11 『広場』における舞台構図

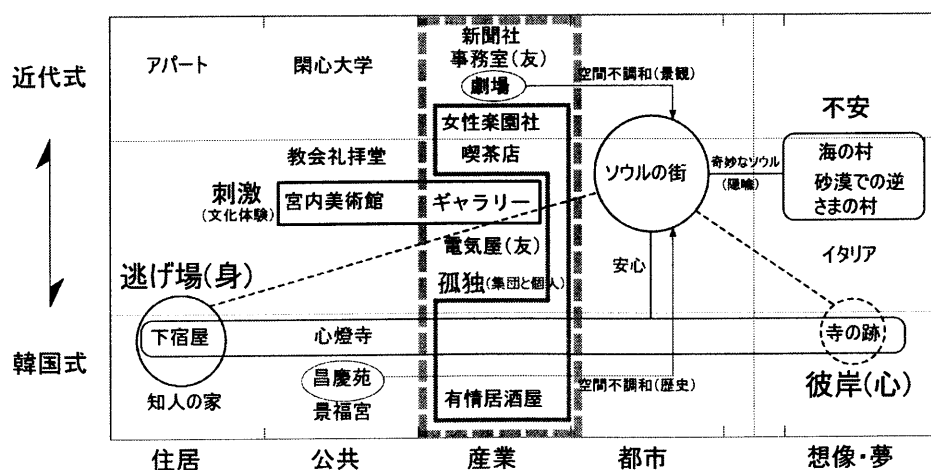


図4-12 『小説家クボ氏の日』における舞台構図

『広場』の場合、戦後のイデオロギーを象徴する韓国と北朝鮮と、その社会に適応できない個人との関係を「広場」と「密室」という、対立的な空間構図であらわしている。特に、個人に開いている広場を追求するため中立国に向かう主人公の行為から、戦争がもたらしたイデオロギー社会に対する批判性が読み取れる。『小説家クボ氏の一日』では、様々な産業空間を通して集団の中で現れる個人の孤独を表現していることや、ソウルにおける都市空間の不調和を劇場の前の風景（租界）と元々宮殿である昌慶苑（遊園地）を通してあらわしていること、想像や夢で出てくる奇妙なかたちの村が当時のソウルを隠喩していることが分かる。また、1960年代におけるソウルの物質性とお寺の精神性を対比させていることが特徴的である。

金承鉦の作品における舞台の相関関係図を図4-13～4-16に示す。金承鉦の作品は出版年度の順より、テーマが類似している作品ごとにまとめて分析を行う。

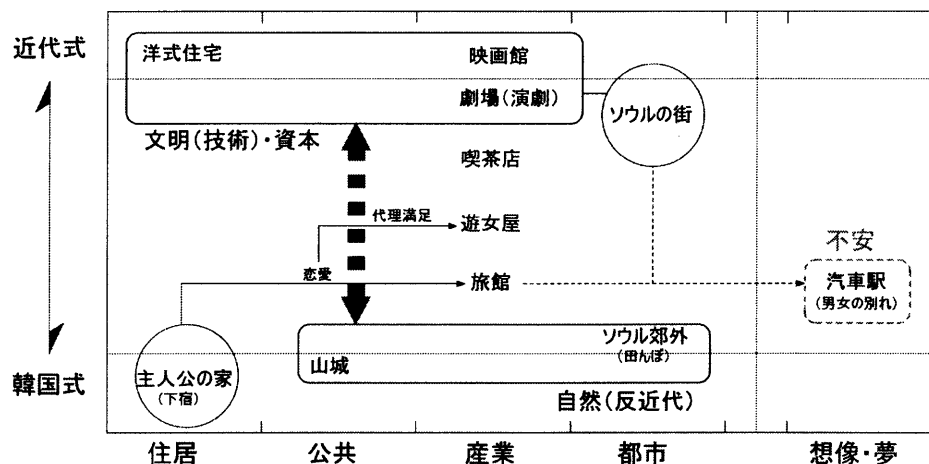


図4-13 『多産性』における舞台構造図

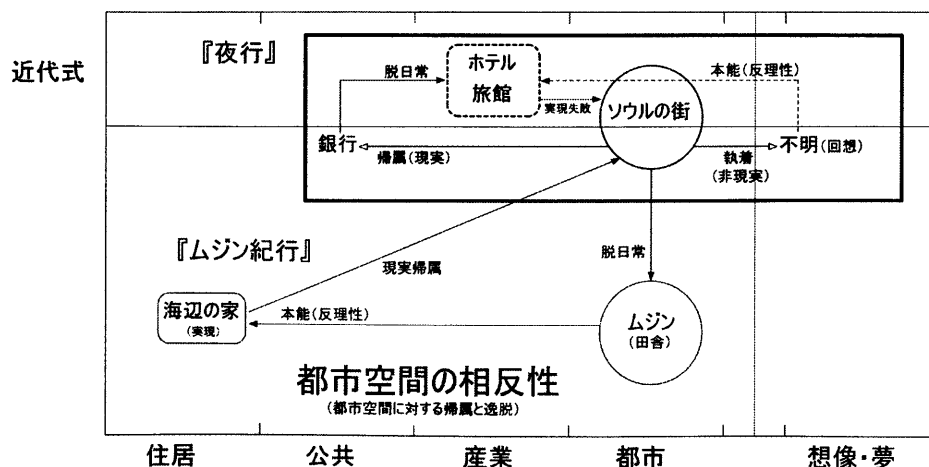


図4-14 『Mujin 紀行』『夜行』における舞台構造図

『多産性』の場合、洋式住宅と劇場が近代ソウルの文明や資本を表象していること、その対立的価値をあらわす舞台として、山城と田んぼが登場していることが分かる。また、想像の汽車駅を通して、近代都市に対する一般人の不安な意識が読み取れる。『Mujin 紀行』と『夜行』は、主人公の中に、日常から逸脱しようとする本能（無意識）と現実には帰属しようとする理性（意識）との葛藤が見られることから、ソウルという都市空間の相反性があらわれる。

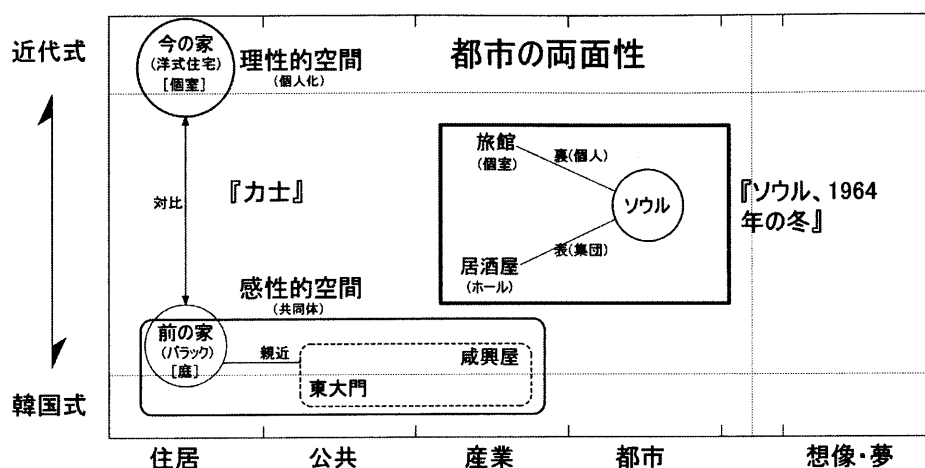


図 4-15 『力士』『ソウル、1964 年の冬』における舞台構造図

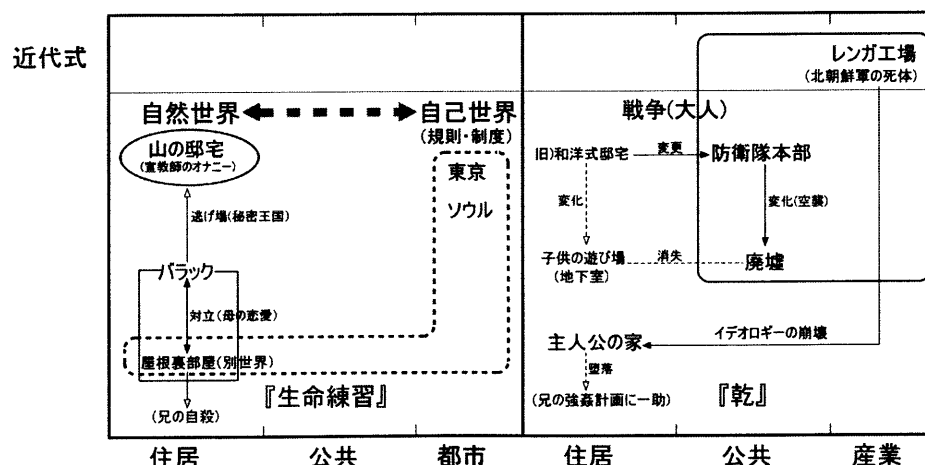


図 4-16 『生命練習』『乾』における舞台構造図

『ソウル、1964 年の冬』では、個人と集団をあらわす旅館の個室と居酒屋のホールを通して、『力士』では、個人化する現代の性向と昔の共同体意識を表象する理性的空間（洋式住宅）と感性的空間（バラック）を通して、都市の対比的な空間構造を描写している。『生命練習』の場合、ソウルという近代都市が、自己世界（規制・制度）を

あらかず主な舞台として登場していることが分かる。特に、父との死別後新しい恋愛をする母に殺意を持つ兄に対して主人公は違和感を持ち、さらに、兄の屋根裏部屋を、現実ではない別世界に描写している。このことから、妥協のない偏狭的な我執に変わる自己世界に、作家は警戒していると考えられる。『乾』では、旧和洋式の邸宅の変遷構造とレンガ工場での北朝鮮軍の死体を通して、冷戦イデオロギーが崩壊している当時の時代状況を描いていることが特徴的である。全体的に作家金承鉦は対比的な空間構図を通して、1960年代のソウルにあらわされる都市の二重性を描いていたといえる。

全作品において、舞台同士の関係からあらわれる空間の意味と、当時のソウルを通して近代社会の意識構造を考察した結果、反社会的な空間として部屋・伝統家屋が代表的舞台で現れたこと、産業空間では集団の中の個人における孤独と疎外を、ソウルという都市空間では理性的空間と感性的空間が共存する両面性をあらわしたこと、その社会での不安や現実の逃げ場として想像・夢という不明な舞台が現れる傾向があることを明らかにした。1960年代の韓国人はさらに高度化する都市の中で、人情・感情をあらわす人間性より物質性が強調される近代性・近代都市に不安感を持っていたことが指摘できる。

表 4-31 『小説家クボ氏の一曰』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性						
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)				
住居	※12 自分の中の土俗的な心は、やろうとしたらやり切る別の顔のクボ氏の冷たい(冷静)心が(のせいで)、また別の顔のクボ氏を悲しくさせたのだ。	土俗(感情)な自分と冷静的な自分	クボのアパート・主人公	◎	—	—	—	◎	—	—
	89 その中でもこの家は元からここにあった家だから新式家屋ではなく、韓式家屋である。 167 クボ氏が座っている濡れ縁は裏側の庭につながる部屋の戸の外にあるので、1字に曲がった所に位置する奥の間から見えない場所である。この家にクボ氏が下宿して一番気に入った場所はこの広い裏側の庭である。 167 新興住宅が建ってから急に立て込んだ町になったが、元々は町外れだった…新しく建てられた家はこんな庭を持つ念頭もない。 190 クボ氏が下宿している家は敷地が広い。家をもっと作られる庭を持っている。…今のよう四方が新しい家で囲まれると近所にはめったにない、広い庭を持つ家になったわけだ。 ※194 ソウルの周辺の農民だったが、ソウルが広がったせいでソウルの人になってしまった人である。 ※198 人間を個人主義的な人間学の集合に分解することによって近代文学は社会という“集団”を見下ろすことができる観測地点を失ってしまったのだ。 ※201 たぶん街の結婚式場でやる方式に対しては人ごとに不満があっても仕方なくするようだ。それで格別にする例があれば、他人のことでなくても大切に思われる。	庭でのキムチ作り、国際情緒、夜間通行制限、社会変革(生物学的種と社会的な種の変化)、ソウルでの生活、韓国のクリスマスと幻想的な開放感(政治的・セクスの・商業的・アナーキズム)、ベトナム戦争	クボの下宿屋・主人公	●	—	●	●	(◎)	(◎)	●
		結婚式	知人の家・主人公	●	—	—	●	—	—	●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性						
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)				
公共		シャガールの豊かさと塔の美しさ	景福宮・主人公	●	—	—	—	—	—	●
	46 市民の遊び場があるというのはいいことであるが、ここは敷地ですべてが文化財ではないのか。この建物と庭が元々持っていた姿を保つべきだろう。…動物園が必ずここにあるべきだろうか。	遊び場と文化財、オリの中での動物の反復的な行為と繰り返される韓国芸術の型、文明と反文明(反文明に対する補完・緩衝装置)	昌慶苑・主人公	●	—	—	●	◎	—	—
	※153 天皇という神の子にだまされ、真理の化身と言われたスターリンの名に痛んで、愛国の化身と言われた李承晩大統領にだまされて…この世界の何でもきわめて重要なものに見えないのが非常に多かった。	シャガールの作品展での喜び	宮内美術館(国立美術館)・主人公	◎	—	—	—	●	●	●
	55 元々、森を削って作った大学はその時は市内から押し出された町外れの建物みたいな感じであった。	支配階級と民衆についての議論 (shadow society & society)	関心大学・主人公	◎	●	—	◎	—	—	—
	72 お寺。雲のニュースと水の音だけですごくお寺。…奴隷たちが心を頼る所。…弱い動物の木陰。…動物が自分の欲望を捨てた神聖な場所。	お寺への考察	心燈寺・主人公	●	—	—	●	●	●	●
		知人の結婚式、生と祝祭・俗と聖・日常と詩の境界での自分の中で葛藤	教会礼拝堂・主人公	◎	—	—	—	—	—	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
産業	※112 この世の中は自由主義と共産主義に分かれていて、二つの勢力は水と火のようなものであるという話の中で成長し学びながら今まで生きてきた。しかし、いつの間にか怪しい気配を感じた。 ※113 米国は自由の宣教師ではなく、自分の既得権を守ることに充実した普通の国であるということだ。…米国やソ連という現実のカイゼルを国をまるでユートピアのように勘違いしてしまった我らをあざ笑うはずだが、実は笑うことではない。	巫女になった自分(文学史理論の講義)、自分と人との間の空間、集団の中での連帯と断絶、土着支配階級のイデオロギーと芸術(ヨーロッパとキリスト教)、テレビでのニュース(北朝鮮の遊撃隊の騒動)	喫茶店・主人公	◎	—	◎ (●)
	257 最近の建物すべてがそのようなもので、外の壁ほとんどを占めている、細いアルミサッシで繋がる横に長い窓に…	米国の中国訪問	友達の事務室・主人公	◎	—	◎
		友達と再会(避難民の生活)	中華料理屋・主人公	◎	—	●
		同郷(北朝鮮)の友達とうれしき、ニュース(赤十字社と板門店、北朝鮮の遊撃隊の騒動は誤報-悲しい時代の小市民)	友達の電気屋・主人公	◎	—	◎
	289 ギャラリーは安國洞の骨董品の街にあった。	画家李仲燮の作品感想(喜び)	ギャラリー・主人公	◎	—	●
		乞食になった自分(出版記念会での一言と宴会)	有情居酒屋・主人公	●	—	◎
		世界ニュースと一般人、時代ごとにおける文化の積層、優劣と個性の時代、文明社会	文楽社・主人公	◎	—	◎
	79 劇場(映画館)の周りはいつも異国的だ。…西洋映画看板。大きな俳優の写真。…租界のような気がする。昔上海や香港のような所の町外れの劇場のようだ。		劇場(映画館)・主人公	◎	◎	—
		挨拶の内容(農村時代の生活感覚が現在でも残存)	理髪店・主人公	◎	—	●
	※135 山ほどのニュースが溢れて入り込む。しかし、その多くの印刷物はすべてこの社会での良い既得権を持っている人たちが自分の垣を守るための呪文である。…そうだ。権力の話は間違いないウソだ。	出版小説の印刷税	平和出版社・主人公	◎	—	◎
		ひなの鑑別人になった自分(原稿審査)	女性楽園社・主人公	◎	—	◎
		座談会の記録、経済倫理の墮落	産業新聞社・主人公	◎	—	◎
	244 一面の壁のすべてが窓で西南方向のソウルが視野にはいる。“いいでしょう。”ジンさんが自分の家庭を自慢するみたいに話した。 245 見下ろしている非芸術的な芸術品がなかなか良かったから。…今見たら煤煙もそんなにたいしたことではなかった。自分が属している都市を一目で眺めることはいつも悲しくはない。 246 二人は…目の下の景色を楽しんでいた。	原稿審査	新聞社・主人公	◎	—	●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
都市・国・交通	13 なぜ、電車を無くしてしまったのか…大型電車をもっと増やすことがこの交通難を解決できる方法だったのに。そうしたら、非常に騒々しい音や煙たい臭いもなかったかも。電車は平等、公的な場所という感じを持つようにしてくれた。					
	46 国の中を全部探しても清潔なところはホテルの水洗便所しかないということは。					
	53 この辺りは韓式家屋(都市型)しかない。ハウスのメーカーが一気に作り出したようだ。					
	73 ソウルという…それは夢の中で見たその村であった。暗闇の海に沈んだ、暗闇の砂漠でのさかさまにつるされた村。					
	89 十年前にしてもここはとても静かな街だった。昌徳女子校、秘苑、昌慶苑、ソウル大学の方に繋がるこの道は…今はソウルのほかの街に比べて特に静かな街とか往来する人の特色がある街でもない。					
	89 町外れに新しくできた家の町だけれど、大きい邸宅ではなくて庶民層にふさわしい形で小さい形態が…					
	96 ほぼ一階建ての、郊外で住宅の風が吹き始めた最初の頃建てた家は同様の姿である。姿というのは外観だけの話ではない。中の風景までも大体同じであるということだ。…最近普通の家なら揃えている新式台所でその家の主婦が自分のために一杯のコーヒーを用意して朝の余裕を楽しむ、そのような様子を言うことである。					
	114 光化門と市民会館の方の道はいつの間からソウルで一番こんでいる道の1つになった。…この辺りに…学院(学院)が多くあるためである。…すべての学生は一度に2つの学校に通うという話である。					
	115 映画館の看板の下でこんでいる人々を見る度にいつも香港という字が浮かび上がる。看板の中で…アリアン系統の外国の俳優の顔とその下で集まっている黄色のモンゴル族の対比が租界とか政庁、治外法権、原住民などこのような雰囲気を引き起こした。この頃は高い建物が建ってからもっとハガキで見えるその異国都市の姿に似ていく。					
	128 外国へ行ったこともないクボ氏さえそんなに恐ろしく感じない、無用に再生したこの街よりはその時の、壊れていた街の方がもっとも元気だった。…開港した以来、明洞というこの土地を覆っていた皮が一度むけて、素肌が、この地の素顔が鮮やかに現れていた。	ソウルの交通				
	129 登記所に一度登録されたわけがこの廃墟の気孔を遮断している数多い家(建物)。	ソウルという街、ソウルの香港、中共軍の国連加入、世代の表現様式-仏教(宗教)、ソウルの街と人生の舞台	ソウル(街)・主人公	◎●◎	—	◎◎
	※136 また清溪川の方面に向いた。道を歩いている人たちの姿が非難時代の釜山のような感じ…沈うつて怒りの陰が目にとらつた。					
	169 人波が溢れる昼は顔や息を隠した都市の家(建物)が何かわけある顔色で立っている夜の街。…この都市の不潔な街を歩き回れる自由が奪われた夜。					
	※207 ソウルという都市はおかしい。自動車の数くらいに飲食店や居酒屋が多くて学校も多いが、本屋は少ない。					
	213 貫動洞の街から鍾路の方に繋がる道である。…たまになにに往、なにに園という看板が目にかかる。					
	※215 ソウルに住んでほとんどの人は広い都市の中で多い人と一緒に住んでいると思っているはずだが、…実際に関係している人は少ない。					
	218 今は二十階越える高い家(建物)が建たれている。この都市はいつの間にか経済規模が異なる集団で組み合わせている。					
	264 この辺りで一番多いのはやはり飲食店だ。韓式、和式、洋式、中華などが並んでその軒をつなげているし、喫茶店も多い方である。高い家(建物)ができてから学院も1つあり、大通りから少し離れて料亭もある。					
	264 同じビルの中で他のビルを見つめると粒が粗いセメントの面や乱雑な屋上に愛想が尽きる。また、高い建物の間にまだ昔のままの瓦葺の家はもったいやになった。瓦の屋根は大抵旅館、ホテル、料亭だけれど…元々この地の主人はあの瓦屋根なのに新しい様式の家が隙間なく立て込んだ間に残っているそれらは薄汚くて見た目も良くない。					
	265 この道もソウルのような場所ではあまりない道である。…この路地は新しく建てた家(建物)がなくても粗末にみえないし、とても中身もあって由来もありそうにみえる。					
	266 秘苑の向こう側に高い建物が新しく建たれていた。これは高層アパートだと聞いたことがあるが…道を渡って苑南洞に向かった。こちらも新しい家(建物)はあまり建っていない区域だが、もっと庶民的である。					
	280 市民会館から地下道まではお菓子屋、洋式料理屋、旅行社、靴屋、喫茶店が…この街は年毎に変わってきた。どこかで積もる油がどこかを回ってきてより爽やかな窓とよりきちんとしている形になってくるようだ。					
	308 大韓門の前の車道では地下鉄道の工事をするために…その地下鉄工事の場所は元の大韓門の位置だった。					

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
その他		夢	海の中の 村・主人公	—	—	—	—	◎	◎
			砂漠の逆さ まの村・主人 公	—	—	—	—	◎	◎
		夢：ダンテと自 分を同一化	イタリア・主 人公	—	—	—	—	—	●
		想像：王と臣の シャガール作 品感想	国立美術 館・主人公	●	—	—	●◎	—	●
		夢：都会と田舎 の比較（人との 断絶の都会・調 和の田舎）すべ ての種との調和 の空間-お寺	お寺の跡・主 人公	●	—	●	●	●	●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-32 『広場』における空間表現と舞台の属性

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
住居	37 広い庭を開んでコ字型に建てられた日本式家屋。傾斜の激しい高い屋根の中に窓のついた四畳半の屋根裏が彼の部屋であった…この様式は元々日本式ではないはずだが、絵などで見慣れた西洋式との折衷式であろう。…とにかく外から見ると形が面白い、中に入ると小ぢんまりしている。庭は日本式そのままである。 ※37 この窓から見下ろしながら空想をする時が一番楽しい。 ※63 私の部屋には自分独りだけがいた。私は広場ではなかった。それは部屋であった…たった一人のための部屋。 50 この広い韓国式家屋で、一人で住んでいるんだ。 ※55 今の韓国の政治とは米軍の食堂からでた廃物を払い下げてその中で空き缶はブリキの代用に、木材は選りとりていわれる文化住宅の廊下に、残りの廃物では牧畜に使うとすることとどこが違います？ ※55 人間は彼自身の密室に閉じこもるだけでは生きられませんが。人間は広場に出ることを誰でも願っているのです…外国などは何と云ってもキリスト教が政治の底辺を流れる清水のような役割をしている…都市にたとえば西洋の政治社会は下水の施設が良くできている…韓国の政治の広場には糞尿とゴミだけが山ほど積まれています。醜悪な夜の広場、食欲と殺人と背信の広場、これが韓国の政治の広場です…韓国の経済の広場とは詐欺という霧の中で、脅迫の花火が散って虚栄のアドバルーンが空高く舞い上がることです。文化の広場ですか？無定見という花が満開です…このような広場について人々が持つのは不信感しかありません。	ユンエとの出会い、他の広場（北朝鮮）に現れた父	ユンミの家・主人公	◎	—	● ↓ ◎	— ↓ ◎	● ↓ ◎	● ↓ ◎
		南という広場（広場が死滅した、密室しか残ってない韓国）	ジョン先生の家・主人公	●(◎)	●	—	◎	◎	—
		ソウルの都市からの避難（政治の広場からの逃避）	ユンエの家・主人公	●	—	●	◎	◎	●
	※135 資本主義社会での、膨大な産業秩序の中で日に日に人間らしい弾力を失っていく、そういう人たちと同じくなれと強要する声であった。 ※114 父の再婚を反対しているわけじゃない…この女…一体どこに革命を持っているんだろうか。一流のコミュニストの家で、中産層のブルジョアの… ※115 南韓にいる時はどこを見ても私が生き甲斐を感じながら生きていける広場はなかったのです…北朝鮮に来てみたのは一体何でしょうか？重い空気。どこからこの空気が重たく抑圧されてきますか？	革命じゃない革命のまね 反日闘士でコミュニストだった父への反発	北朝鮮の下宿屋・主人公 父の家・主人公	—	—	●	◎	◎	●
				◎	—	◎	◎	◎	◎

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
公共	※69 父は彼の隣の部屋に住んでいた。隣部屋の父を憎んでいた人々が彼の部屋のドアを打ち壊して侵入し、父の代わりに彼に暴行を加えたのである。	父のせいで取り調べられる(エゴの部屋のドアが崩れる)、北朝鮮の捜査機関長として友達を尋問(エンエと再会)	警察署一北の捜査機関・主人公	◎	—	◎ ◎ ◎ ◎ ◎
		自己批判(反省)と現実適応(エゴの部屋のドアが崩れる)	労働新聞社・主人公	◎	—	◎ ◎ ◎ ◎ ◎
		肉体労働への志願	建設現場・主人公	◎	—	● — — —
		満州での集団農場の集材	朝鮮人コルホーズ・主人公	◎	—	— ◎ ◎ ◎ ◎
	※166 キリスト教：エデン時代・墮落・原罪の人類・旧約時代の歴史・イエス…千年王国 コミュニズム：原始共産社会・私有制度・階級社会の人類・封建／資本主義社会の歴史・マルクス…文明共産社会	キリスト教とコミュニズム	捕虜収容所・主人公	◎	—	— — — — —
		第3国の選択	板門店・主人公	—	—	— — — — —

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
都市・国・交通	※168-9 南韓はキルケゴール先生的方式で言うと、実存しない人たちの広場ならぬ広場であった…墮落できる自由と…自由郷だった。		韓国・主人公	◎	◎	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
	※79 個人の密室と広場がじかに通じた時代は、人々は太平であった。広場だけで密室がなかった法主や君主たちの時代には、世の中は太平無事だった。密室と広場が分化された日から苦痛は始まった。	自分の人生を決められる種はこのくらい広場では芽をふかないと確信	仁川(盆地)・主人公	●	—	● ● ● ● ● ●
	164 半径3メートルの半円形の広場。李明俊とウンヘが互いの胸をまさぐり絡み合わせて生きている証拠を確かめる最後の広場。	ウンヘと再会、外の世界(戦場)と自分の世界(洞窟=原始場)の広場、戦場でウンヘの死	洞窟(戦場)・主人公	●	—	● ● ● ● ● ●
	※121 人間関係において公的な関係のない性格のようなものがまだその人の社会的生活を楽にさせたり難しくさせたりするのなら、北朝鮮の社では反革命性があった。革命と人民の仮面を被ったブルジョア社会。 123 個人的な欲望がタブーになっている社会。北朝鮮に重苦しく覆いかぶさった空気は、まさしくこのタブーの雲がもたらす現象であった。 123 広場には操り人形があるだけで人はいなかった。		北朝鮮	—	—	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎
	※179 私は平凡な人が良い…ただ、かけらほどの広場とせめて一匹の仲間がほしいだけ…そしてこの広場に入る誰もが…許しを得たあとで行動してほしいのだ。	第三国にむかう捕虜たち、李明俊(主人公)の自殺	船	—	—	— — ◎ —
	111 広場には清い噴水が…花壇では生きの良い花が…笑っていた。ペープメントはきれいで頑丈であった。	夢	理想の広場・主人公	◎	●	● — ● ● ● ●
その他		南韓国で何もない自分が避難できる最後の場所(哲学)	哲学の塔・主人公	—	—	● — ● ● ● ●
		理想的な社会イメージ	中立国・主人公	◎	●	● — ● ● ● ●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-33 『日月』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
住居	※66 それはスパニッシュスタイルの建物だよ。屋根が韓国の瓦に似ているわ…二階のこれ、温室でしょ？私たちこれにしましょうか？…それで部屋数は父と母の、私の、弟の、それからお客さん用、女中部屋とそれだけは要るわ。それにちょっと大きなホールがほしい（新しい家の注文内容） 166 去年のクリスマス・イブのとき、何人かの友人がパートナーを連れてきて仁哲の部屋でパーティを開いた。	先祖の身分による葛藤（白丁の家柄；封建時代からの遺習）	主人公の家（仁哲）・主人公	◎	●	—	●	◎	—
	103 板の間と向かい部屋（次の部屋）をくり抜いた書斎の内側の書架には…板の間の一角には磁器、土器…すべてが昔ながらの決まった場所を守っていた。しかし、それらを眺める自分だけはいつもの自分ではないような気がした。	白丁についての調査	池教授の家・主人公	● (◎)	—	—	●	◎	●
	63 敷地は墨井洞と樊忠壇の間の高台にあった…南は南山の山裾がここまで延びており、東は樊忠壇一帯、西北は市街が一目に見下ろされる至極展望の良い位置にあった。 ※122 彼の目の前に描いている建物は設計図によって実際に現れるはずの実物よりも…実物は思いもよらぬ欠点を到る処に露呈させて自分の前に立ち現れるのではあるまいか？ ※330 はじめのうちは静かだいいと思ったが、だんだんとソウルが懐かしくなってきた…ソウルに染まった者には、田舎住まいはちょっとこたえるよ。 328 暗い家の全体の中でこの二階ホールだけが…外から見ると暗い空間の中でこの部分が浮かんでいるみたいだった。		工事中の家（建築現場）・主人公	◎	●	◎	—	◎	—
	74 ちょっと古びているけど、なかなかいい家よ。内需洞だから交通も便利だし。		ナミの家・主人公	●	—	—	—	—	—
	299 彌阿里の屠殺場にいる従兄に行こうと思っている。その人に会って心が落ち着くから。	主人公の避難所（話し合いができる従兄）	従兄の家（下宿）・主人公	—	◎	●	●	●	●
	301 黄色に変色した壁紙と黒いあかがついたセメントの床が部屋の中をもっと薄暗くした。	祖父との出会い（牛の慰霊祭）	祖父の家・主人公	●	—	◎	●	◎	◎

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
公共	203 いい加減塗りたくった土壁に、屋根は古びたテント地で葺いてあった。入口から見える壁には窓一つなく、前の方にまわると一定の間隔をおいて四つ五つ、代用のガラスをはめ込んだ戸が見えた。人のすまない、紛れもない納屋だった。 279 掘った小屋は岩の片方にくっついており、石で三面の壁を積み上げ、屋根はテント切れて葺いてあった。人の座った丈ぐらいの高さと、半坪ばかりの狭い部屋だった。 ※280 自分が母の頼みを素直に聞いて丈夫な掘り立て小屋を作ると、とりも直さず父と母の間ばかりか、母と家族全体の間もいよいよ遠ざかることになるんだと…	松の切り株に対する母と牛の屠殺用の刃に対する祖父の類似点	祈禱院・主人公	◎	◎	◎	—	◎	◎
		いきなり釜山に行く	ソウル駅・主人公	◎	—	◎	●	◎	—
産業	※191 いや、ジャングルだ。見渡したところ人一人いない…いや、そうじゃない、人はいた。人間でできたジャングル… ※226 人間のジャングル。互いにお酒を酌み交わすときだけは、いとも睦まじげに振り舞っても、一旦自分に不利と見て取るといとも無関心な他人になってしまう世界。仁哲はその魅力に引きずられてここの常連になったのかも知れないと自分で思った。 289 仁哲はあまりにも変わりさえない雰囲気うんざりした。同じ家（店）、同じ酒、その上、同じ人の同じ話題にうんざりする	隣のお客さんから殴られる→主人公の行き付けの居酒屋になる（明洞の店）→同じ家（店）、同じ酒、その上、同じ人の同じ話題にうんざりする	居酒屋・主人公	◎	—	●	—	●	◎
		主人公の行き付けの喫茶店	モンパルナス・主人公	◎	—	●	—	—	—
		白丁の家柄の主人公に引かれた性行為	ホテル・ナミ	◎	—	—	●	—	—
		従兄と出会い	屠殺場・主人公	◎	◎	◎	●	◎	◎
	※62 敷地が百七、八十坪ほどだが、庭園がほしいし…三階建てにしてスチームのついた…外壁はタイル、石、どちらでもいい。（新しい家の注文内容）	新築の家について設計の依頼	田園グリン・主人公	◎	—	—	◎	—	—
		祖父の刃（牛の屠殺用）を捨てる	屠殺場・主人公	—	—	◎	—	—	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性			
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)	
都市・国・交通	11 利川行きのバスが漢江(グアンナル)を渡り、千戸洞を通り過ぎて二十分ほど走ったかと思うと、目的の新場についた。52-3 安國洞ロータリーから和信(百貨店)の方に少しばかり行くと右手に現れる粗末な理髪店…左右には昔ながらの古びた家が並び立ち、いつも変わらぬまばらな人通り。 ※53 仁哲は…いつも自分の家に辿り着いたような懐かしさを覚える。五、六年前ここを移るまで二十年も住み慣れたところである。 79 外は五色のネオンが暗い夜空に濃い光を放っていた…昼間にここを歩いたことあるでしょ? ネオンの消えたガラス管死体のはらわたみたいに市に浮いている。立ち並んだ家も葬りの家みたいに陰気な…この道はこうして夜に歩かなきゃ。(明洞) 231 敦岩洞のロータリーで彌阿里への道を捨てて左に曲がった。いわゆるアリラン峠といわれている丘の上から貞陵川までは道路拡張の工事で道が悪かった。 305 門の中(市内)で飲んで彌阿里に出たいつかとは反対にこの日は彌阿里から市内に入り込んだ。 ※140 バイブルと聖歌集を片手に髪を短くカットして簡単な洋装ではあったがどこか洗練された身のこなしが周囲の様子とは不調和しているような感じだった。この村にもイエスが增える一方ですよ。		ソウル(街)・主人公	◎●	◎	—	—
		白丁の家(主人公の伯父)	山椒村・ジ教授	—	—	—	—
その他	106 夢の中で仁哲は赤い夕焼けの中に立っていた。空と土と山と木と家がすっかり赤い夕焼けに染まっていた。	夢	赤い町・主人公	—	—	—	●◎
			荒涼とした赤土の野原・主人公	●	—	—	●◎
			階段だけの家・主人公	◎	—	—	●◎
			暗い洞窟・主人公	●	—	—	●◎
	242 三面の窓から明るい日差しがたっぷり差し込んでいた。	電柱に並んだ人々泥沼を埋める人と工事進行のスピード	赤土の村・朴	—	—	●	—
	309 藁葺き家の方から若い男が…砂浜に穴を掘った…今度は両手をうしろに縛られた人たちが連れていた。五、六人はあったろうか…彼らを…穴の中に一人々々埋めていた…頭だけは外に出していた…満ち潮の時刻だった…潮が次第に満ちてきて…埋もれた人たちをすっぽり覆い隠してしまった。それを見届けると、埋めた人たちは家の方に向きを変えた。兵士はそいつらの頭に銃を乱射した。	一人の兵士が良民の殺人者を射殺	ある海辺の町・従兄	—	—	—	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-34 『木、坂道に立つ』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
住居		ヒョンテの彷徨生活と渡米(現実逃避)	ヒョンテの家・ヒョンテ	(◎) — ◎		
産業	※359 自分に与えられた自由を使いきれないほど無能力にさせたのは何だ…	果樹の剪定と人類の未来、自由の過剰状態	居酒屋・ヒョンテ	◎ — — — — —		
	※331 ゲヒャン(従業員)の顔をみながら…彼(ヒョンテ)は自分も知らない何と言えない休憩のようなものを味わう。	げヒャンに会いに行く(心の休息)、ゲヒャンの自殺補助	平康屋(居酒屋)・ヒョンテ	◎ — ● ◎ ↓ ●		
		知らない女性の尾行(約束の時間までの時間潰し)	和信百貨店・ヒョンテ	◎ — — — — —		
		ミランの死んだ後始まったユングの新しい仕事	養鶏場・ユング	● ◎ ● ◎ — —		
		無理やりにスギと性行為	ホテル・ヒョンテ	◎ — — ● ◎ —		
	※230 父のせいで他の二人も死に至らせた…60歳一生を神様と教会のために献身してきた父なのに…	上士(軍)の話:牧師である両親の死とクリスト教の不信	居酒屋(部隊周辺)・上士(軍)	— — ● — ◎ —		
	245 土が乾く前に上張りしたように、壁に貼った新聞紙があちこちに歪んでいた…大通りに近いかなりの規模の部屋を並べて作ったこの居酒屋にはこのように粗末に作った小さい部屋も6〜7つくらいあるようだった。	オクジュとの出会い、ドンホの葛藤(恋人とオクジュ)、オクジュとのセックス(一時的な恐怖からの開放)、オクジュ殺害(他の客との性行為を目撃)	遊女屋・ドンホ	● ◎ ◎ ● ◎ ● ↓ ◎		
都市・国・交通	313 初めてヒョンテと一緒にここ養鶏場の敷地に来た時は…固りが静かで空気も清かった…しかし養鶏を始めてから厚生住宅とともに人家が建てられて一年の間に一番がまつく変わったしまった。(ソウル東大門区、清涼里の外)	夜間通行制限のサイレン(ドンホ自殺と部落民の殺害の記憶)	ソウル(街)・ヒョンテ	◎ — — — ◎ —		
	※189 この寂寞で透明な空間がなぜこんなに息苦しく目の前に建たれているだろう。	北朝鮮軍の搜索	山の村・ドンホ	● — — — ◎ ◎		
	※191 ドンホはまたとてつもない厚いガラスの中に自分が入っているという考えで抑えられていた。	ヒョンテの部落民の殺害				
	208 休戦協定が成立されてから十日も経てない今はあちこちにバラックの家が建てられて、現在も家を建てている所が目に入った。 ※218 休戦協定が成立されて間もなく軍人を相手とするすばしこい商人が集まって遊女屋が増えて… ※284 今回の戦争に出てきた若者はすべてが被害者しかねないと思う。	純粋で柔弱なドンホの自殺	部隊周辺の村・ドンホ	— ◎ ◎ — ◎ ◎		
その他	※312 ユングは…死んだミランはミランで、自分は自分なりにこれからの生活する方法を探さなければならないと。	ミランの死(堕胎手術後)	不明・ユング	— — — ◎ — —		

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-35 『多産性』における空間表現と舞台の属性

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
住居	251-2 私は用心を重ねて部屋の障子(引き戸)を開き、板の間に…私は奥の間に向かってしずしずと歩いた。 252 土地自体が発光体のように、庭はまぶしく日差しで満ちている…私は奥の間の次にある板の間に座っている。 ※284 風と寒さと暗闇の横行する大地の中で小さくても執拗に祟え忍んでいる温かい直方体を感じられた。部屋の数くらいに世の中に存在する奇跡の数。1つの部屋が飾られるまで実は予想もつけない運命の助けが要る…この部屋、それは奇跡である…あら、奇跡の大量生産だったのか。	下宿屋の娘(スギ)との付き合い、部屋と資本主義・共産主義	主人公の家(下宿)・主人公	●	—	◎
	235 その家を訪ねたら鉄の表門をもっている洋式家屋であった。 236 家の二階の間取りは障子で区切られていて、障子を全部取り外したらダンスパーティを開くほど広がった。 ※248 ウサギが俳優として演技をしますか?そうです…まるで一人の俳優のように。	ウサギの訓練(条件反射)と演劇	洋式家屋・主人公	◎	—	◎
公共	※230 火の上の豚は、肉屋の肉のかたまりと牛車の牛をつないで考えるのは難しいという事実を心に深く刻み付けろという饅頭の命令を私に逆らうようにした。	豚のバーベキュー	幸州山城・主人公	●	—	—
産業	※193-4 我ら十人という小麦粉はこねるととんでもない饅頭になる。一人一人が持っている雰囲気は互いに似ているが、全部集まった時には全く違う雰囲気になってしまう。静かな小麦粉たちはうるさい饅頭になるのだ。 ※195 ヘアクリームをぬって整えた髪、緑色の系列のネクタイ、紺色の洋服…ベント箱が入っている書類用の大型封筒…去年の春大学を卒業して10000ウォン未満のサラリーマンになった者のユニフォームだった。 262 その喫茶店はスチームが設備されてよかった。 ※298 学問を研究する人たちに財政的な助けになるようにしなさいって言いました。特に科学分野の若い学者たちを… ※299 学問を研究する人たちに財政的な助けになるようにしなさいって言いました。特に科学分野の若い学者たちを… ※299 学問を研究する人たちに財政的な助けになるようにしなさいって言いました。特に科学分野の若い学者たちを… ※299 学問を研究する人たちに財政的な助けになるようにしなさいって言いました。特に科学分野の若い学者たちを…	友達とのピクニック計画、スギとのデート、副業の話(老人の見守りと尾行)、老人の失足と話(財物の生遊んでばかりしていこうと決めた若い人がいればその人に目的:楽しむこと)	喫茶店・主人公	◎	—	◎
		スギに対する性欲の代わり	女郎屋・主人公	◎	—	●
	※260 この以外な事態が演劇に及ぼす影響はとても多かった…ウサギはあちこちに走り回った。	ウサギ演劇の失敗(練習の時とは違う場所と音)	演劇劇場・主人公	◎	—	—
	※268 スギまでに私がソ連は好きじゃないと説明しなくちゃならないのかな? 269 私は部屋の戸を開く…旅館の狭い庭には雪が少しでも積もってない。 271 この結婚式場がいいかな。 273 われわれはどこで住むだろう。町外れに手入れできる庭園がある家を…	スギと結婚の話	旅館・主人公	◎	—	●
		老人の尾行	映画館・主人公	◎	—	◎

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
都市・国・交通	※203 餓頭は偉大な存在なの…その人は何でもできるのよ。 203 街路灯の光といろんな商店からこぼれ落ちている光と、ビルの窓から漏れている光が夜の空と我らの間を…立ちふさがっていた。 212 電車一台が窓から温かい光をそそぎながら…我らの前を通り過ぎた。 218 西大門のタバコ工場の高い煙突を眺めながら…新村駅に汽車が着いたときは、ここがソウルから遠く離れた田舎のような気がして目の前の梨花女子大学が…不思議に見えた。 ※218 人はそうじゃないのに、人が作ったものはすべておもちゃみたいじゃない？ ※219 鉄路や汽車、学校というものがおもちゃみたいわけ。 ※223 餓頭がいるということが問題じゃなくて、餓頭の機嫌を取ろうとするあなたの態度が問題なのよ。 234-5 路十里の方は…少し前まで田んぼだったところに赤い瓦で白いタイルを張った家が密集して建てられているし、路地も数多くあらわれていた…雨が降っていたから、道は水がたまっている田んぼのようなものだった。 ※277-8 外国で過ごしてきた年寄りが以外に徹底的に儒教の教えに従っているのよ…若い頃外国に行って…年寄りになってから故国に戻ってきたら故国はあまりにも変わっていてどのような行動を取ればいいのか分からない。老人が懐かしく思っていた故国は儒教時代で、しかし儒教式の生活習慣がまだ残っているように見えるから妙な儒教の人になるしかない。 ※303 金の引き取りだけで成立されることが一番信用できるということをまだご存じないでしょうね…元気な少年を雇ってその人と一緒に行動するようにした方が良かったんじゃないでしょうか？ 305 私は薄暗い灰色の警察署の建物を見上げた。どんなに見てもその中で老人を見つけることはできなさそうだった…どこでも老人がいられそうには見えなかった。 226 ソウルでは季節の変化を知らせるものがラジオ程度だった。しかし、ソウルから少しでも離れると、風景と季節が信じられないほど親しい関係で昌慶苑の森もとてもさびしがりやであったという感じがする…遠く見える城郭は拳銃一丁よりも弱く見られて、歴史ってとてもさびしがりやであると思う…まるでサーカスのライオンのようにオリの中に閉じこもって…決まった場所をぐるぐる回っているソウルのたくさんの車がどれほどさびしいのかと感じる。 ※228 野原は豚の脱出を助けようとするみたいで、深夜のように静かだった。	餓頭が存在(近代文明)	ソウル(街)・主人公	◎●	—	—	◎	—	—
		豚の脱出騒動と豚取り	ソウル外(田んぼ)・主人公	●	—	◎	◎	—	◎
その他	※306 老人になるとみんなルパンになるのか。もしルパンになれないと？	老人とルパン	不明・主人公	—	—	—	—	—	—
		想像 男女の別れの場面	北地方の原野の汽車駅・主人公	◎	—	●	—	—	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-36 『Mujin 紀行』における空間表現と舞台の属性

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
住居	※29 布団の中に入った時、通行禁止のサイレンが聞こえた。その音は長かった。すべてのものがすべての思考がそのサイレンに吸い込まれた。 ※41 私は電報の目を避けて手紙を書き始めた…愛している。なぜかというあなたと私は私自身だから、少なくとも私がぼんやり愛している昔の私の姿だからです…もう一度読んで。そして引き裂いてしまった。	純粋な後輩の訪問 インスギが好きになる自分(昔の自分と同一視)→自ら否定(妻からの上京の電報・手紙を引き裂く)	叔母の家・主人公	—	—	◎ ◎ ◎ —
	20 早く座ってよ。なんかむさくるしい部屋でさ…しかし、部屋は決してむさくるしくなかった。	インスギと出合い	友達の家・主人公	(◎)	—	— — — —
	※37-8 歳月がこの家と家の人たちだけは避けて去ったようだ。主人夫婦は私を昔の私に相手としてくれた。すると私は昔の自分になった。	4年前の逃げ場(ソウルでの失恋)、インスギとの性行為	海辺の家・主人公	●	—	— ● ● ●
公共	※33 彼はムジンに似合いそうな人だ…しかし、その顔は仕事の忙しさを誇らしく思っているようだった。忙しい、誇らしく思う暇もなく忙しい。それはソウルでの私であった。	俗物的な友達から聞くインスギの話(安定な生活を男に頼る女)	税務署・主人公	◎	—	— ◎ — —
都市・国・交通	9 バスが…私は<ムジン 10km>という里程標を見た。 13 ソウルのどこの街でも…無慈悲にこぼれ落ちて聞こえる騒音にふらついたり、夜遅く新堂洞の家の舗装道路を自動車で登りあがったりする時…水溢れる川がながれ…小さい森があつて…路地と土塀が多くあつて…案に座られる長いすが夜の街にある田舎を心に浮かべた。そこはムジンだった。 16 バスがムジンの邑内に入ってきた。瓦の屋根もブリキの屋根もわら葺き家の屋根も6月の強い日差しで…街は空っぽで人々は軒下で座り込んでいた。邑の舗装された広場もほとんど空としていた。 ※16 新聞は、都会人なら誰でも思うように今は私の生活の一部として… 24 思ったとおり、大通りの向こう側が…住宅地の黒い風景が徐々に霧の中にぼんやりと見えていた。 ※37 この海辺で<きびしい>という言葉にすべてをかけていた私、今すべてに満足できるくらい都市に慣れている私が海辺の私の心に共鳴できるのか。 41 そこには鮮明な黒い字で<あなたはムジンを去っています>…私は非常に恥かしく思った。	休憩のためのムジン行き・ソウルに行きたがる心を変えようとするインスギ・上京(インスギへの背信、自分の現実的な責任)	ムジン・主人公	● ◎	—	● ↓ ◎ ● (◎) ↓ ●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-37 『夜行』における空間表現と舞台の属性

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
産業	※336 その女の職場では既婚女性は雇っていなかった。結婚をすると、女の職員は退職するか、他の仕事先を探さなければならなかった。 ※342 しかし、彼女の外面的な生活は相変わらず続いていた。	未婚女性の振りをしている 仕事場 (虚飾的な生活の空間<昼>)	銀行・主人公 (女)	◎	—	● ◎ ◎ —
		ベトナム戦争の派兵への寂しさ	劇場・主人公 (女)	◎	—	— ◎ —
	※348 その女は、8月の男が旅館に入るまで一度も自分の顔を見てなかったことの意味が分かった。それは確実に重要な意味を持っていた。	なかなかかなえない自分の 欲求 (自分に恐怖と混乱を引き起こさせる男との出会い)	ホテル・主人公 (女)	◎	—	— ● —
	340 男が會賢洞の路地にある新しくリフォームした二階建ての中に…それは旅館であった。 ※340 もう泣くな、さて警察に行って強姦されたと告発しても良い。俺は監獄に行くのを怖がらないから。あんたの腕がとっても滑らかに見えてさ、俺のものにして触りたかっただけ。	見知らぬ人からの強引な性 暴力 (欲望による男の素直な行為)	旅館・主人公 (女)	◎	● ◎ ● ◎ (混純)	◎
都市・国・交通	※330 しかも、意地悪いはずらのごまかしている男たちの行為には、昼間の生活から、この都市から、自分の決まっている生活から…自分自身から逃げたい欲求があらわれているということをヒョンジュはしていた。 ※334 その女は捕虜収容所から脱出したい捕虜を想像する。彼女は鉄条網のあるところが丈夫ではないことを気づける…彼女は計画を立て…脱出する。ある側面から見ると、彼女の行為は明らかに無謀で、非常識的で反社会的である。ヒョンジュが自分の中のすたれている垣を経験したのは… 342-3 ある日、夜遅く彼女は中央劇場でラストタイムの映画を見て明洞入口まで歩いてバスに乗った…昼間とか夕方この街は彼女にとっても慣れていた。しかしこの時間のこの街はなぜこんなに不慣れな街に見えるだろう…どうしてこの街で今、恐怖と混乱の激しい風の音が聞こえているだろう。結局彼女はすべての音がどこからでているのかを気づけた。街のあちこちで男たちが通り過ぎる女の前に立ちはだかっている姿が目についたのである。 ※344 その後…偶然一度は超えてみたことがある自分の垣をまた超えてみたいという欲求を強烈に感じたりした。 ※346 男たちが脱出したがる欲求はほとんど条件付きということ、改めて言うとも男たちは永遠に<ここ>を逃げ出すつもりはないように見えた…自分の垣の中で垣をいじりながらきりがいい考えばかりを繰り返しているのだ。 ※348-9 その恐怖と混乱がなくても…亮春婦のように、切実に祈禱する用がなさそうにみえるにもかかわらず、ミサに参加する信者のように…しかし彼女が求めるのは破壊ではなく救援であった。虚飾からの開放であった。	見知らぬ人との性的開放感を求める彼女 (本能的な生活の空間<夜>)	ソウル・主人公 (女)	◎	—	— ● ◎ —
その他	※341 時間が経っていけばいくほどその出来事が彼女に残した痕跡がだんだん明らかになってきた…その事件は彼女の内部に入り込んで女の一部分になっていた…彼女は自分の汚れ(虚飾)を見てしまった。そしてそこにあるすべてのものから逃げたかった。あいにく一人の男が自分の横にあらわれた。彼女はそこにここではない、他のところに連れてくれと哀願した。 ※342 憎性が彼女に教えていた、その男に対する抵抗を男はいかにも格好よく、もうできないように制圧したのか！	回想(自分の中の抑えられていた脱日常的欲望に目覚める)	不明・主人公 (女)	—	—	● ● ◎ —

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-38 『力士』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
住居	<p>125 天井は模様のない茶色のベニヤで作られている…その上天井の高さのかなり高かった。</p> <p>128 4 時、ピアノの音、この病院みたいにきれいな部屋。私はおおよそ一週間前に昌信洞の汚い部屋からこのきれいな洋式住宅に下宿を移ったのだ。</p> <p>※131 朝鮮戦争が残したのは…家庭の破壊だと言で話した…家風がない家庭は人間たちの集団ではない。家風は秩序精神から生まれる。</p> <p>132 夕食が終わると 10 分程度のおしゃべり。その後はみんなが自分の部屋に戻って勉強…板の間にあるテーブルお茶を用意するとその時間は 10 時 5-6 分前。様々な部屋のドアが開いて家族全部がお茶を飲んで<おやすみなさい>と言ってから布団に入る。</p> <p>133 家族の誰でも心配の色が見える人はいなかった。私にとっては想像もできなかった世界に入ってしまったのだ。東大門と近い昌信洞の貧民街の家の人々を思い出さなければいけないこの正式な生活。</p> <p>137 前の家(昌信洞)に住んでいる人々はピアノの音がでるこの家で考えると、とても遠い場所にいるのだった。そこはバスに乗ればすぐ行けるという平凡な可能性さえ抹殺させてしまう間隔の向こう側だった。一週間が経ってもまだ慣れない感じがするのは、その測られない間隔を、私が何の準備もなく急に渡ってきたからではないのか。</p> <p>※145 心配の色が見える人が多かったその家で私は…安住への憧れを意識せざるを得なかった…しかしそこから離れて、同じ曲が同じ楽器で演奏される家にきたら、憧れは耐え切れない倦怠とこの家に対する嫌悪感に姿を変えるのだった。</p> <p>※146 はじめに私はこの家に対して尊敬していた。しかし、私はそれがはじめて見る景色についての感嘆と同様のものであることが分かった。理解と感情は別個の問題であることも分かった。この家族の計画性ある動き…訓練されているような前進的な態度、なんか創造しているようなプライドが与えてくれた心配の顔がない表情…文化という言葉を使える人々がいたらまさにこの人々であった。</p> <p>※147 この家の人々の態度こそ、自分は歩いていると信じてくど実は毎日毎日同じ場所を歩くだけでぜんぜん進んでいないのではないか。貧民街に住んでいる人々の果てしない空転のような生活がむしろここよりはもっと充実したのではないのか。</p> <p>※147 私はこの家族の生活を中身の無い外皮に比喻していた。空っぽの皮のような生活、ではないと少なくとも方向が間違った生活、習慣的な生活に過ぎないと思い込んでしまった。</p> <p>※149 もし、この家の家族に興奮剤を飲ませないで今すぐ貧民街に戻るなら…むしろ私は、私が絶対そこへ戻らないということがよく分かった。</p>	なかなか慣れない下宿部屋、厳しく規則的な生活(6 時起床、22 時頃就寝)、家の思い(機械的で索漠たる人間関係)、洋屋についての理解とバラックについての感情(今の家の人々の生活と前の家の人々の生活の比較)興奮剤をお茶にいれる→失敗	今の家・主人公 公	◎ ● ● ◎ ◎ ◎ ◎		
	<p>125-6 天井の高さが低くて…貧民街での家でしか見られない天井。そうだ、前の部屋(家)は東大門の隣にある昌信洞、貧民街にあるものである…前の部屋は今の部屋のようにきれいじゃない。</p> <p>126<昌信洞ですんでいる人々はみんなるくでもないものだ>…自分は広いこの世界の中で汚いこの部屋しか見られない自己嫌悪に陥る人は誰でもそのような落書きをやらないと耐え切れなかっただろうと思うからである。</p> <p>127-8 午後 4 時なら、部屋から近い市場で女の商人がおしゃべりする音や家の中で聞こえる水道と隣部屋からの音、窓の外からがたんがたんと言がする気動車の音とサイレンが聞こえなければならないわけだ。</p> <p>129 貧民街での無秩序的で退廃的な生活と、秩序的で規則的な生活との比較も面白くない?と私を論じて…(友達の誘い)</p> <p>133 私が住んでいた前の家は板で作った小さいバラックであるが、部屋は 5 つもあった。</p> <p>※136 いつかミスコリアの大会が開いた日、新聞で花冠を被ってイブニングドレスを着た当選者たちの写真を見て…</p>	友達の誘いと引越、家の思い出(人たちの情がつながる温かい関係)	前の家・主人公 公	● ◎ ◎ ● ● ● ●		

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
公共		興奮剤を購入	薬局・主人公	◎	—	—	—	◎	—
産業	※139 長いすに座って女主人が注いでくれるお酒を飲みながら、私は酒よりこの居酒屋の雰囲気と心を奪われた…酒も気持ち良くなるくらいに飲んだら会計をし（後私いをする日をもっと多かったが）そのバラックから出た。	同じ下宿屋のソ氏と親しくなる	威興屋・主人公	◎	◎	●	●	●	●
都市・国・交通	<p>※124 ソウルで下宿している人々はその数もかなりいるが、事情も色々だ。</p> <p>※138 貧民街が夜になると空気ももっと濁る。遠く見える都市中心部の、あちこち高くそそり立ったビルが…貧民街はその暗いビルの影の中で息をしていた…この町に入ると、彼らの固まっていた小さい顔が風船のように大きく広がる。上着を脱いだ男たちは集まって絶え間なくしゃべりまくっており、子供たちは…気動車のあとを追いつながら大声を上げて走りまくる。主婦たちはコンロを外に出してコンロの上にのせた鍋で料理本にもない…不思議な料理を作る。</p> <p>※139 貧民街近くにある市場で魚の生臭い臭いが漂って、都市の中心部から風に乗ってきたほこりが道にたまってあちこちでの露店でカーバイドの光がつく時間になると…男たちは自分の背より低い居酒屋（バラック）に入る。</p> <p>※141 ソ氏は夜に見る東大門が好きですかと聞くと…昼はそのお化けが出そうな感じだから気持ち悪いが、蛍光灯の照明をもらっている夜はとてもきれいで好きですと私が答える。自分は特別な意味で東大門が好きだと言った。</p> <p>※147 私は今計画していることが根本的に家の家族を変えられるとはもちろん思っていなかった。</p> <p>※148 私の周りは数え切れない、多い洋式住宅が並んで建てられて、家々の窓ごとに明るい光がついていた。昔のその町でとは逆に静かで美味しそうな食べ物のおいが漏れていた。</p>	<p>貧民街での夜の風景、夜の東大門とソ氏（すごい力を持っている力士だが、力を金儲けに利用せず、東大門の城壁の岩を移す近代的な観点では無駄な行為をして自分を慰める）</p> <p>洋式住宅の家族に対する計画・秩序的な生活と、秩序を破る場面を見るために自分たちの生活を振り返る機会を与えるために）</p>	ソウル（街）・主人公	◎	◎	●	—	●	●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-39 『ソウル、1964 年の冬』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での主な物語	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
産業	42 1964 年冬をソウルで過ごした人なら誰もご存知であると思うが、夜になると街に出てくる立ち飲み屋。	大学院生の安君と出会い（日常的でも自分だけ知っていることについての話）30 代の男の合流	居酒屋（立ち飲み屋）・主人公	◎	◎	—	—	—	—
		奥さんの死体を売ってもらった金を使う男と同行	中華料理屋・主人公	◎	—	—	◎	—	—
			洋品店・主人公	◎	—	—	◎	—	—
	65 旅館に入ると…壁に区切られた部屋、そこは我々が入れなければならないところだった。	30 代の男の自殺	旅館・主人公	◎	—	◎	◎	◎	◎
都市・国・交通	<p>※44 田舎から初めてソウルに上京した青年たちの目に一番うらやましくて不思議に見えるものってご存知ですか？…うらやましいことは、夜になるとビルの窓につけられる光とその光の中であちこちに動いている人たちである。不思議なことは、バスの中で 1cm もならない間隔をおいて自分の横にきれいなお嬢さんが立っているという事実です。</p> <p>※45 私は出勤時間の満員バスの中をすりもののように…かきわけて入ります。</p> <p>※46 ソウルはすべての欲望が集結する場所です。</p> <p>※50-1 夜の街に出る理由は何ですか？下宿の部屋に閉じこもって壁を見つめるよりはいいから…私の答えはこれです。夜になります、私は家から街にでます、私はすべてのものから解放されたと感じます。</p> <p>※51 私は何かの意味があるから、鐘路2街にあるビルのレンガの数を数えているんじゃないです。別に…そうでしょう？無意味なことです。いいえ、実は意味があるかも知れませんが、私はまだそれが分かりません。</p> <p>※57 街は映画で見た街のように寒くて閑散としていた。しかし、今も焼酎の広告は早く、薬の広告は遅く光っていた…</p>	火災現場の人物（あまった金を火の中に投げる男）	ソウル・主人公	◎	●	—	—	◎	●

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-40 『生命練習』における空間表現と舞台の属性

舞台用途	重要な空間表現	舞台での物語特徴	出現舞台・中心人物	舞台属性					
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)			
住居	82 次の日その敷地で、板を使ってバラックを建て始めた…オンドル部屋1つと板の床の部屋1つそして板の床の部屋には屋根裏部屋を作り、兄が使うことにした。 ※84 屋根裏部屋はこの世の中に存在していなかった。そこはそらにあった。そこは地獄で兄は地獄を守る悪魔だった…悪魔の相手はもちろん母だった。 ※91 兄が暗い屋根裏部屋で我々に隠して休まずに何かを作っていくように私も…私たちの平安と生命を秘密の王国の中で探していた。	兄と母の葛藤(母の男関係)	麗水の家・主人公	—	◎	●	●	◎	—
	※92 騒がれている港町の夏の夜にはかかわらず、岩のように孤独な姿勢をとっている一人が私たちの目の前で長い彷徨を始めている…日曜日に教会でしか会わない信者には想像もできない…人って多面体だったのだ。 ※93 私たちの王国で…私たちは安らぎを感じ、そこで生命というものを考えていた…そのような王国では誰でも正当に生きていき、正当に死んでいく。避けようと努力しなければならぬ反倫理的なこともなく、その土台を作ったあがる孤独もない。その上に戦争は全くある必要もない。	主人公の秘密王国での安らぎ(決められた規則(制度・倫理)から自由になる)	山の邸宅・主人公	◎	—	●	●	●	●
産業	※77 自己世界ならきつと他人の世界とは違うもので、まるで陥落させることができない城郭のようなものではないかと思う。その城郭では…バラの花が満開した庭園があるだろうと私は想像しているが、私がしている人々の中で自己世界を持っている人たちはすべてがその城郭でも特に地下室を占めて住んでいるようだ。 ※81 外国なら大体西欧を指しているから、たぶんそちの人たちの合理主義と個人主義が身についてそうするだろうと弁護しながら…しかし私のように脱線する可能性も多いぜと自嘲したりした。	ハン教授との対話(自己世界について)	喫茶店・主人公	◎	—	—	—	—	—
都市・国・交通	70 麗水は戦線からはかなり離れた国土の最南端の港で…どこかに避難した人々がほとんど戻ってきて、爆撃による家の跡でバラックを建てて…戦争以前の生業をもう一度やるためにがんばっていた。 ※ソウルに引越したが、その後も休みの時は麗水へ行って友達と海辺で遊びまくった。 ※94 母は魂を買いにあちこちうろついている魔女のようだ。兄は警戒しており、一方母は隙間をずっと狙っている悪い勢力だと考えていた。 ※97 姉と私は次の日の夕方、灯台があるがけで…海に兄を押し落としてしまった…そして少し後だった…びっしり濡れた兄が生き返ってきたのだ…しかし、三日後灯台がある同じ場所で自ら自殺した。	協会の野外祈禱(自ら生殖器を切った伝道師の自己世界)、兄の母に対する殺意(兄の自己世界)と私たちの拒否、兄の自殺	麗水・主人公	●	◎	—	●	◎	●
	78 今は東大門の近所での安い下宿で住んでいる。 ※97 少し変な話かもしれないが、漫画である程度成功したオオ先生も仕事をしながらふと倫理の危機のようなものを感じる。ことがあると私におっしゃる…直線を描く時、何か手が震えてものさしで描く場合がたまにあるということだ…その直線の部分が何度も目について罪の意識が生じるということだ。	友達の自己世界(女狩りについて規則と違反の自意識)、オオ先生の自己世界(仕事上での規則と罪の意識)	ソウル・主人公	—	—	—	◎	—	—
	87 東京の空は散る桜の花びらで覆われて…	ハン教授の自己世界(初恋の人との性行為後イギリス留学の決定)	東京・教授	—	—	◎	↓ ◎	↓ ●	●
その他	※79 私の偽善的な言葉が自分を、我らの本部である＜喫茶店・地下室＞での、混沌としている青春の中に押し込めないことではないだろう。	友だちの女狩りについての規則	不明・友達	—	—	—	◎	—	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

表 4-41 『乾』における空間表現と舞台の属性

舞台 用途	重要な空間表現	舞台での 物語特徴	出現舞台・ 中心人物	舞台属性		
				空間(都市建築)	社会(生活文化)	人間(内面意識)
住居	※120 あなたの空き家が私には竜宮のように不思議なところだった。私はいろんな空想をそこからつかみ出すことができた。しかし、ミヨン、私は何分後で今までのすべての上に黒い水をかけるつもりだ。ああ、すべてがいつもそうになっているだろう。1 つを従うためには他の多くのものの上に黒い水をかけようとする時、それが正しいかどうかを判断する前にもっとさっさと味わる心さびしい気分。	兄と友達の強姦計画へ一助(私に優しくしてくれた町の女子高生; 私の墮落と自虐)	主人公の家・主人公(男の子供)	●	—	— (◎) ◎ —
		ただの空き家に見える(罪の意識に淡々)	空き家・主人公(男の子供)	● ◎	—	— — —
公共	101 防衛隊本部は昔、あるものすごい金持ちが住んでいた邸宅で、広さも広いが、まず木が多くて遠くから見るとまるで森がうっそうとした公園のような感じがする美しいところであった。 101-2 とびらを開くとまととびらがあり、そのとびらを開くとまと扉があつてこのように5つのとびらが様々な模様で飾られている薄い灰色の大きな倉庫がある…しかし私が一番忘れられないことはほとんど腐っている畳が敷かれている広い奥の間であった。違う、奥の間ではなくて部屋の東の方にある壁の下に敷かれているたたみ一枚を取り外すと板の床が現れる。その床には…ドアがあつてそれを開くとその下にあらわれる、薄暗い地下室であるのだ。	朝鮮戦争前の遊び場(地下室)	防衛隊本部(和洋式邸宅)・主人公(男の子供)	◎	— (地下室) ● ● ● ●	—
産業	※109 土に流れている血と頭の横にある銃がなかったらそれは確かに酔っ払って道端に倒れている乞食の姿だった…まるでタンクに似ている怪物でもないし、そしてその時死体の周りを囲んでいた大人たちが…石のように固まっていた信念のかたまりでもなかった…苦しい表情で死んだ一人の男が私の前に自分の小さい死体を置いていただけだった。	一人の北朝鮮軍の死体(私のイデオロギーのイメージが壊れる)	レンガ工場・主人公(男の子供)	◎	— — ● ↓ ◎	◎ —
都市・国・交通	100 市街地の中心部で、浮かび上がる朝の陽光によって黄金の色に輝くガラス窓をもっていた、それでそれがきらきらとした王宮のように思わせる私立病院の格好いい姿もその日の朝には消えてしまい、誤って作った炭ようになっていた。	北朝鮮軍の襲撃、死体(共産軍)の埋葬	ある市・主人公(男の子供)	◎ ●	— (◎) ◎	—

※空間描写ではないが、物語を構成する重要な表現であると判断し、記入する。

3-3 小結

黄順元と崔仁勲と金承鉦の作品にみられる都市と建築の表現に着目し、空間の意味とその構造を分析して 1960 年代における韓国社会の近代化と空間像を考察した結果、次のような知見をえた。

- 1) 1960 年代のソウルは今の境域まで拡張しているものの、舞台と主に出現する建築用語の位置を調べた結果、漢城の城郭内（現、鐘路区・中区）が都心部として認識する概念が定着していたことや、中央劇場が社会のパラダイムの変化を象徴していることを明らかにした。
- 2) 住居空間では韓国式と外国式、現代式（新式）という類型を見出し、その形態的特徴を示すことができる。
- 3) 空間表現から、経済優先による一律的な建物の様子に対する建築形態と、周辺との関係性を考慮していない都市計画への批判性が読み取れる。
- 4) 反社会的な空間として部屋・伝統家屋が代表的舞台で現れたこと、産業空間では集団の中の個人における孤独と疎外を、理性的空間と感性的空間という両面的な都市性でソウルをあらわしていること、その社会での不安や現実の逃げ場として想像・夢という不明な舞台が現れる傾向があることを明らかにした。
- 5) 1960 年代の韓国人はさらに高度化する都市の中で、人情・感情を現す人間性より、物質性が強調される近代性・近代都市に不安感を持っていたことが指摘できる。

注

注 1) 出所：朝鮮日報 DB、1968 年大漢門

第5章

植民地期末と朝鮮戦争後における都市と建築の変遷

5-1 分析の目的と方法

1876 年の開港以来、1970 年代から高度経済成長期に入る前までの韓国は、日本植民地時代（1910～45 年）や第 2 次世界大戦（1939～45 年）、米国の軍政（1945～48 年）、朝鮮戦争（1950～53 年）など、まさに激動期で、韓国史の中でも一つの特異点をなしている。本章では、第 2 次世界大戦から朝鮮戦争の休戦までを政治的断絶期とし、その前後の、植民地期末と朝鮮戦争後における近代社会の変化に注目し、3 章と 4 章の分析結果を比較することで、近代を代表する韓国文学から都市と建築空間の意味性とその構造の変遷を明らかにすることを目的とする。

まず、ソウルを舞台として当時の社会を描いた、朴泰遠、李箱、黄順元、崔仁勲、金承鉦の対象作品にあらわれる建築用語を、作家ごとにまとめてその構成比を調べる。特に、その頻度の経年変化に注目し、空間の変化もしくは場所性に対する分析を行う。次に、1876 年から 1970 年までの、韓国史と建築に関する概括的な背景を整理した年表に合わせて、頻出した用語（他の作品にも出現する用語も含み）と舞台、空間構成のキーワードによる都市・建築の特徴とその空間性をまとめ、その関係性を分析することで、韓国の近代化とその社会にあらわれる空間像を総合的に考察する。

下の写真は近代化に入る直前のソウル（漢城）の景観で、植民地期に日本人の居住地域が形成される前の位置である。北の方に瓦屋根の家と南の方の藁葺きの家で両分されていることが分かる。

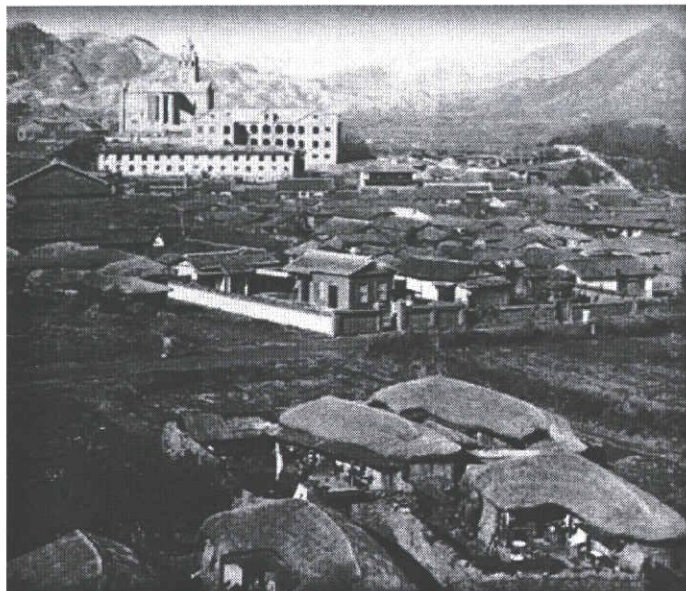


図 5-1 1904 年 忠武路一帯（現ソウル中区）

5-2 1930 年代の「京城」と 1960 年代の「ソウル」の比較分析

5-2-1 作家別建築用語の構成比

研究対象とした 5 人の作品で現れる建築用語を作家別にまとめ、その構成比を 1930 年代と 1960 年代に分けて図 5-2 と図 5-3 に示す。

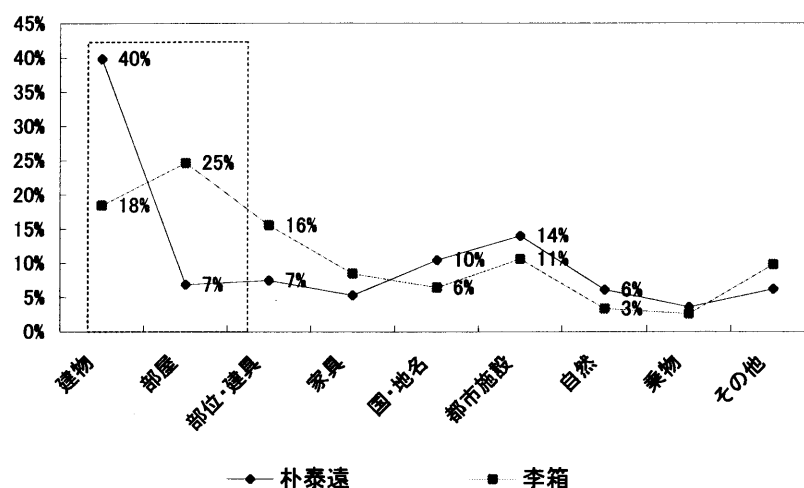


図 5-2 作家別における建築用語の構成比（1930 年）

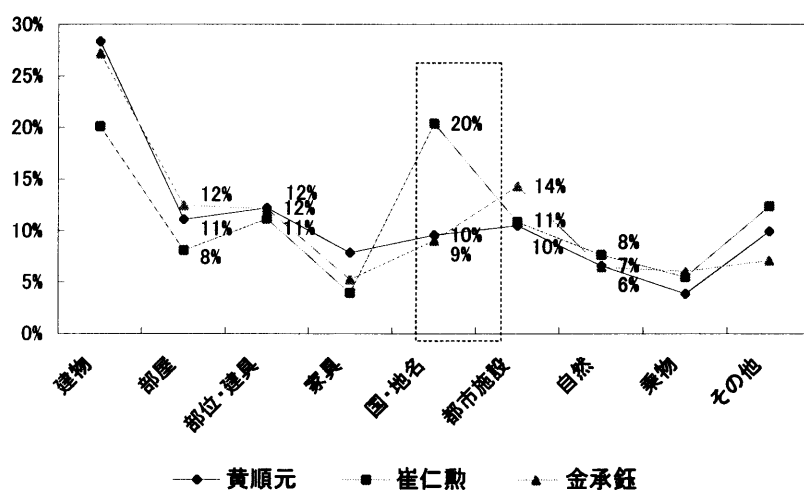


図 5-3 作家別における建築用語の構成比（1960 年）

部屋（貸間）を主な舞台であらわした李箱の部屋用語と、戦後の国際状況を主に語った崔仁勲の国・地名用語以外の建築用語は、5 人の作家を通して頻出傾向に類似性があることが分かった。この結果を基に、すべての建築用語の変化を調べた結果、男

の空間を象徴する客間の頻度（18%→5%）は急減し、それに反して奥の間の頻度（33%→53%）が急増したことから、住居平面における空間像の変化が読み取れた（図 5-4）。また、板の間が、応接室や書斎に改造されるなど、住宅の近代化によって、その出現比率が少し下がっているが、1930 年代と同様に、1960 年代でも家の重要な空間としてあらわれていることが分かった。その他に、戦後社会に入って、部屋名の種類が多様化していること、二階の用語頻度（34.78%→41.73%）は増加しているものの、その描写が現実と遊離した場所として多く描かれていることが特徴的である。

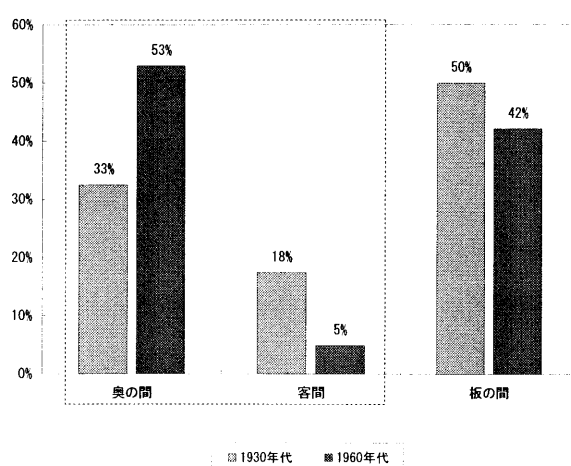


図 5-4 住居空間における部屋名の頻度変化

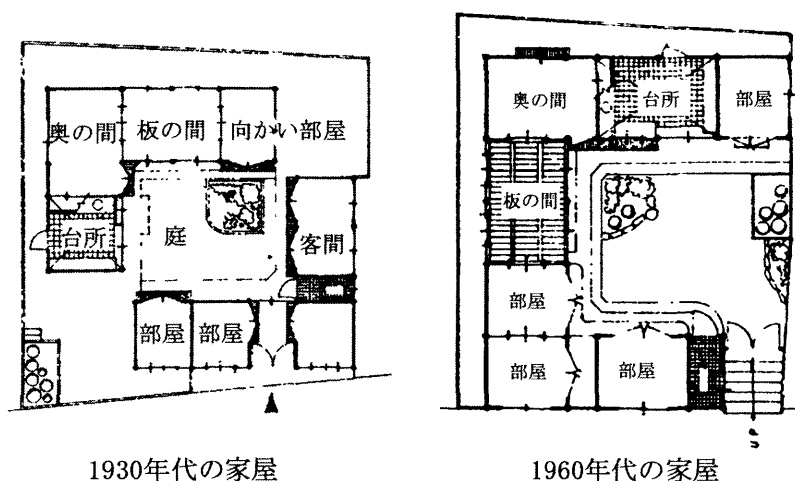


図 5-5 1930 年代と 60 年代における都市型韓屋の平面^{注 1)}

比較対象としてソウルにおける都市型韓屋の平面を図 5-5 に示す。

都市と関連した建築用語の中では、朝鮮王朝時代の城郭の通行門に対する出現頻度の経年変化を図 5-6 に示す。1960 年代における東大門の用語頻度が他の通行門に比べて圧倒的に多く、さらにその描写が庶民層を対象としていたことで、戦後に入って都心部にある清溪川に蓋をした後、ソウルの周辺部の中で東の方が庶民地域として発達していたことを明らかにした。また、伝統的な庶民地域である南大門の頻度は減少していることが目立つ。

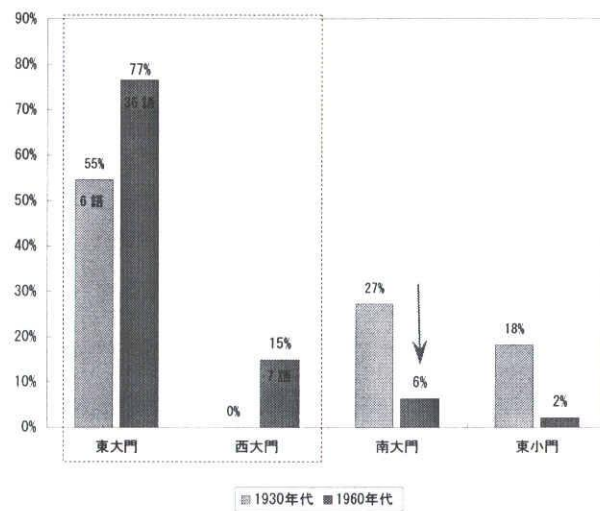


図 5-6 都市空間における城郭の通行門名の頻度変化

参考資料として 1902 年ソウルの地図を図 5-7 に示す。

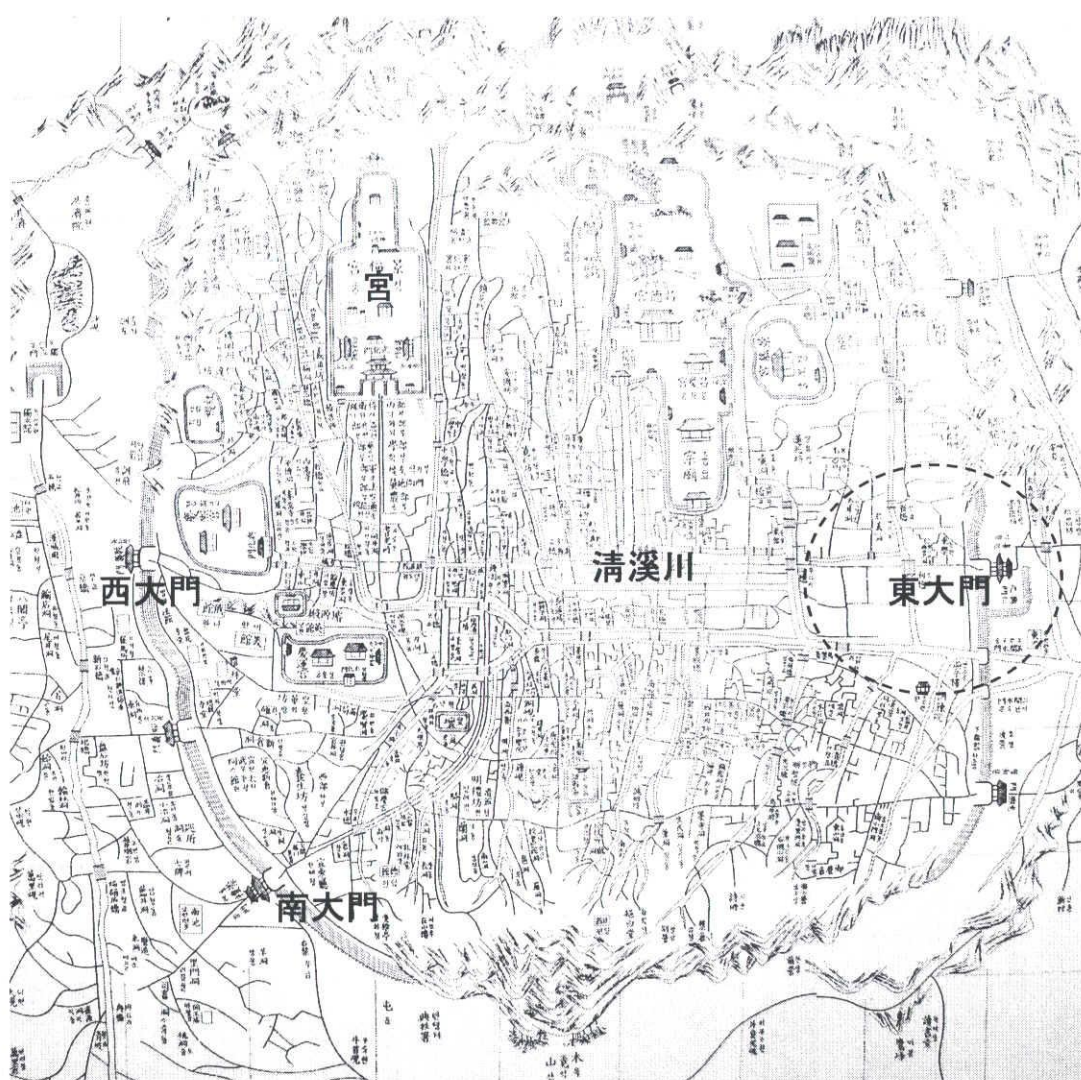


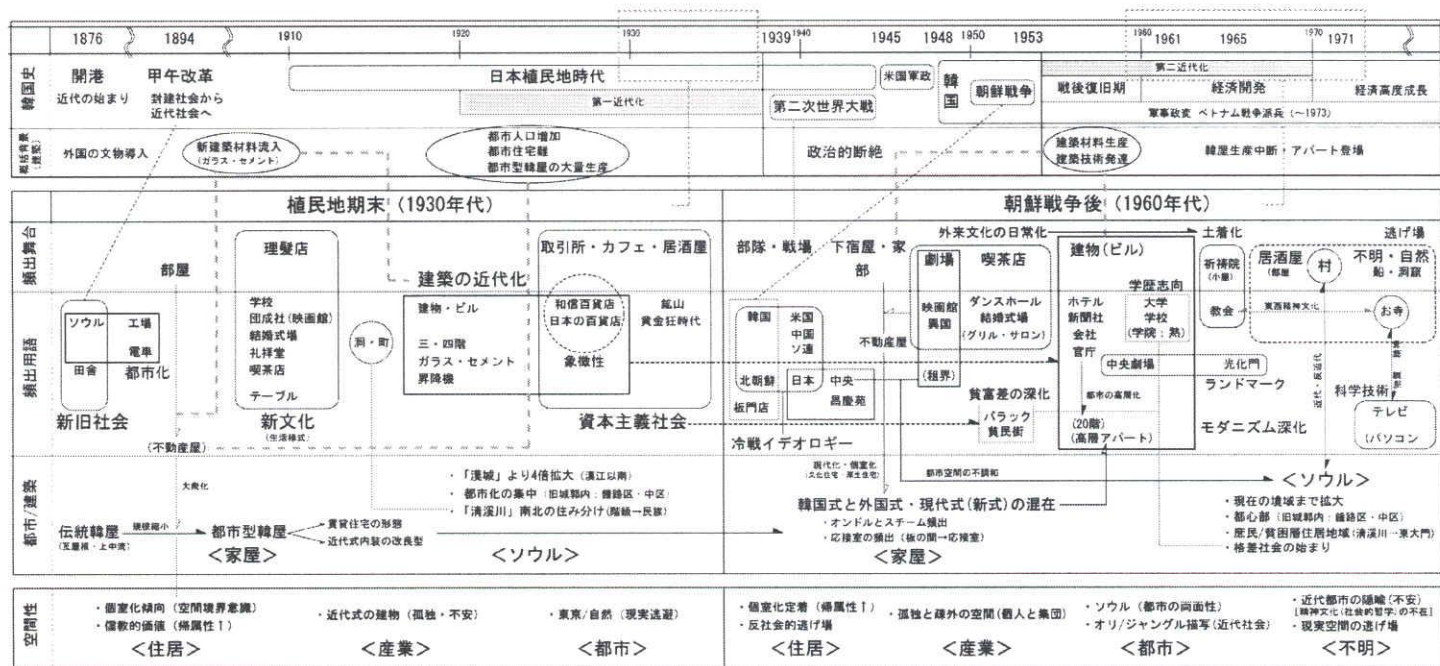
図 5-7 1902 年漢城（ソウル）の地図

5-2-2 近代社会の特徴とその空間構造の変遷

1876 年から 1970 年までの、韓国史と建築に関する概括的な背景を整理した年表に合わせて、頻出した用語と舞台、空間構成のキーワードによる都市・建築の特徴とその空間性をまとめ、図 5-8 に示す。

全作品にあらわれる頻出用語と頻出舞台、都市や建築の特徴とその空間性、またその関係性から、韓国における近代社会の特徴とその空間構造の変遷を分析した結果、新しい文化として受け入れた外来様式が生活上に定着していたこと、資本主義と近代建築がさらに深化していたことを明らかにした。また、時代の変化とともに新しさを象徴する近代性が益々物質性を強調し、それに伴う都市の変貌に対して当時の人々の情緒が乖離的に変わっていく傾向がみられたことが指摘できる。

図 5-8 韓国における近代社会の特徴と空間構造の変遷



※ () は低頻度用語であるが、性格付けの必要だと判断し、掲載する。

5-3 小結

植民地期末と朝鮮戦争後における近代社会の変化に着目して、対象作品に描かれている用語と舞台を中心に韓国の近代化とその社会にあらわれる空間像を考察した。得られた知見を以下にまとめる。

- 1) 作家別建築用語の構成比から考察したところ、近代の経済性に反する客間（サランパン）の衰退と、それに伴って奥の間（アンパン）の頻度が増加する、住居平面における空間像の変化が読み取れた。
- 2) 城郭の通行門に対する出現頻度の考察から、ソウルの周辺部の中で東の方が庶民地域として発達していたことを明らかにした。
- 3) 近代社会の特徴と空間構造の変遷を考察した結果、外来様式の定着、資本主義と近代建築の深化と、それに伴って代社会が益々物質性を強調していく傾向がみられたことが指摘できる。
- 4) また、伝統住居における近代化の様相と、それが近代にそぐわないものとして認識されていることが見られた。

注

注 1) 出所: リュヨンヒ、近代化過程における伝統韓屋の住居洋式の変化、pp. 139-141、ソウル学研究

第 6 章

結 論

6-1 まとめ

各章で得た知見をまとめる。

第1章 序論では、本研究を行う背景と目的および意義を示した。また、関連する既往研究を整理した。

第2章 研究の進め方では、分析対象作品の選定理由と韓国のソウルに対する概括的な説明とともに、分析方法に関する設定と研究の構成を示した。

第3章 植民地期末における都市と建築では、朴泰遠と李箱の作品にみられる都市と建築の表現に着目して、1930年代の近代社会を考察し、次のような知見をえた。

- 1) 建築用語を頻度から考察したところ、作品における重要な空間や概括的な全体の空間構造を量的数値から推察することができる。
- 2) 舞台記述度による空間の位相関係から、作品における全体の舞台構造を把握することができる。特に、李箱の作品では主人公の部屋または家の記述度が他の舞台より高いほど、外部空間もしくは社会に対して主人公の意識が内向きであることが分かる。
- 3) 舞台と主な都市施設・地名・建物の出現位置から、都市化あるいは、都市を表象する領域は今の鐘路区・中区を中心とした旧社会の城郭範囲内に集中しているといえる。
- 4) 住居空間については伝統韓屋と都市型韓屋が多く現れ、特に都市型韓屋では、近代化した設備中心の改良型と、集合住宅の形態を持つ賃貸型が見られる。
- 5) 現在ソウルの中区に日本人居住地域が形成されていたことから、清溪川を中心とした南北の住み分けが身分から民族に変わっていたことが把握できる。
- 6) 近代式建物、特に産業空間で疎外・孤独、不安という空間情緒が現れた傾向があることや、都市での脱日常的空間として日本・自然が代表的舞台で現れたこと、また、物欲を象徴する舞台と、儒教という反近代的価値を象徴する舞台の空間に対する帰属性が対比的にあらわされていることを明らかにした。
- 7) 1930年代の韓国人は、変化・新秩序（資本）が示す近代性と、物理的に

都市化したソウル、つまり近代都市に違和感を持っていたことが指摘できる。

第4章 朝鮮戦争後における都市と建築では、黄順元と崔仁勲と金承鉦の作品にみられる都市と建築の表現に着目して、1960年代の近代社会を考察し、次のような知見をえた。

1) 1960年代のソウルは今の境域まで拡張しているものの、舞台と主に出現する建築用語の位置を調べた結果、漢城の城郭内（現、鐘路区・中区）が都心部として認識する概念が定着していたことや、中央劇場が社会のパラダイムの変化を象徴していることを明らかにした。

2) 住居空間では韓国式と外国式、現代式（新式）という類型を見出し、その形態的特徴を示すことができる。

3) 空間表現から、経済優先による一律的な建物の様子に対する建築形態と、周辺との関係性を考慮していない都市計画への批判性が読み取れる。

4) 反社会的な空間として部屋・伝統家屋が代表的舞台で現れたこと、産業空間では集団の中の個人における孤独と疎外を、理性的空間と感性的空間という両面的な都市性でソウルをあらわしていること、その社会での不安や現実の逃げ場として想像・夢という不明な舞台が現れる傾向があることを明らかにした。

5) 1960年代の韓国人はさらに高度化する都市の中で、人情・感情を現す人間性より、物質性が強調される近代性・近代都市に不安感を持っていたことが指摘できる。

第5章 植民地期末と朝鮮戦争後における都市と建築の変遷では、時代による近代社会の変化に着目して、韓国の近代化とその社会にあらわれる空間像を考察した。得られた知見を以下にまとめる。

1) 作家別建築用語の構成比から考察したところ、近代の経済性に反する客間（サランパン）の衰退と、それに伴って奥の間（アンパン）の頻度が増加する、住居平面における空間像の変化が読み取れた。

2) 城郭の通行門に対する出現頻度の考察から、ソウルの周辺部の中で東の方が庶民地域として発達していたことを明らかにした。

3) 近代社会の特徴と空間構造の変遷を考察した結果、外来様式の定着、

資本主義と近代建築の深化と、それに伴って代社会が益々物質性を強調していく傾向がみられたことが指摘できる。

- 4) また、伝統住居における近代化の様相と、それが近代にそぐわないものとして認識されていることが見られた。

【総括】

文学に見られる空間表現と意味については、[空間・人間・社会]にかかわる表現要素が都市と建築に対する空間の表象を形成し、それらの関係から見出された空間の意味構造により、その背景にある時代の枠組みを見出すことができる。特に、1930年代における日韓や新旧と、1960年代におけるイデオロギーや資本主義による貧富というキーワードが、韓国の近代社会を表象していることを明らかにした。また、その社会を構成する建築と都市の空間構造に対する変遷を探った結果、伝統住居の近代化とその限界、ソウルを表象する領域範囲とその概念の定着、物質的都市化に対する人間の情緒的反応についての知見が得られた。特に、作品ひいては時代を象徴する舞台として描かれた文学の中の都市・建築空間には、当時の社会に対する人々の心象が「文明・変化・個人性・世俗」の近代性と「伝統・永久・共同性・超俗」の反動性が、対比的構図であらわれることが指摘できる。この相違性は現代に近づくほど、より強固に具体化する傾向が見られる。

6-2 今後の課題と展望

本研究では、文学のテキストの相互関係により、時代と不可欠な存在で現れる空間に着目し、建築用語と舞台を通してその意味性に対する考察を行ってきた。空間の意味について、都市・建築に関する視覚的資料の分析と並行し、形態からの具体的成果を高めることで、独自性のある研究領域を構築することを今後の課題とする。さらに、本研究の成果を基に、研究対象を広げて文学空間の表現に対する知見を深め、建築空間の表現と意味性に関して意義のある成果（分析手法の発展）を導出することができると考える。また、小説の構造〔プロット（構想）・スタイル（文体）・主題〕の中、プロットの3大要素である人物（character）・行為（story-acting）・空間（setting）の関係性とその構成の展開過程を、建築設計のプロセスと比較して、建築設計における新たな教授法に関する研究も進めたいと考える。

文学だけではなく、空間に関する様々な表現手法について、他の芸術ジャンルとの比較研究を行い、空間の境界意識と形態との関係を探求することも今後の課題とする。

謝 辞

2003 年度から今日に至るまで、この長い間に学業と生活面、さらに、本研究に対してすべての指導を賜りました 名古屋工業大学工学研究科 若山 滋教授に、心より、深く感謝の意を表します。

本研究につきまして、ご指導をいただきました 名古屋工業大学工学研究科 松本直司教授に深く感謝を申し上げます。

本研究につきまして、ご指導をいただきました 名古屋工業大学工学研究科 麓 和善教授に深く感謝を申し上げます。

本研究につきまして、ご指導をいただきました 名古屋工業大学工学研究科 河田克博教授に深く感謝を申し上げます。

日本留学ができるよう、終始、ご指導・ご助言をいただきました 韓国大邱カトリック大学建築学科 金 東永教授に深く感謝を申し上げます。

お忙しい中、本研究を進めるにあたって、多くの有益な助言をいただきました 夏目欣昇助手に深く感謝を申し上げます。色々お世話になりました。

留学生活において 多大な助力をいただきました 崔ソンミン先輩に厚く御礼申し上げます。

本研究の修行に際して、ご協力をいただきました 博士課程 2 年のオデロ・ジェームス氏、修士課程 2 年の大石氏、堀氏、伊藤氏、黒田氏、チャン氏、修士課程 1 年の手島氏、岩月氏、金子氏、佐藤氏、山名氏、葛島氏、4 年生の鈴木氏、金澤氏、下村氏、福元氏、岡氏に厚く御礼申し上げます。そして、2003 年からの名古屋工業大学 WAKAYAMA 研究室の卒業生の皆様にも感謝を申し上げます。

末尾になりますが、何不自由なく育て、支えて下さった両親と兄弟、また、私を支えてくれた方々に、心より深く感謝の意を表します。

2008 年 12 月 23 日

裴 竣皓

Joon-ho BAE

発表論文一覧

A. 誌上発表（*は審査付き）

- *1) 裴 竣皓, 若山滋：現代韓国文学にみる朝鮮戦争後の都市と建築 ―「日月」と「広場」に登場する建築空間, 日本建築学会計画系論文集, No. 626、pp. 905～911、2008. 4
- *2) Joon-ho BAE, Shigeru WAKAYAMA, Dong-young KIM : Urban & Architectural Space of the Post Korean-War in the Literatures Titled “The sun & moon” and “The square” , Journal of Architectural Institute of Korea (Planning & Design), Vol. 23, No. 7, pp. 191～198, 2007. 7
- 3) 裴 竣皓, 若山滋：韓国文学における都市と建築の近代化 ―1930 年代の植民地期末における「京城」を中心とした研究 その1―(日本建築学会投稿中)